

拓殖大学 海外留学プログラム（TUSAP）
令和元（2019）年度 長期研修・交換留学研修報告

| プログラム名 | 派遣先 | 期間 | 派遣 学生数 | 報告書 掲載ページ |
|--------------|-----------------|---------------------|-----------|--------------|
| 長期研修・カナダ | ランガラ・カレッジ | 2019/8/3～2020/2/25 | 10 | 2～15 |
| 長期研修・オーストラリア | ニュー・サウス・ウェールズ大学 | 2019/8/3～2020/3/15 | 10 | 16～26 |
| 長期研修・イギリス | エクセター大学 | 2019/8/17～2020/3/23 | 2 | 27～29 |
| 長期研修・アメリカ | セントラル・ワシントン大学 | 2019/9/22～2020/3/23 | 3 | 30～33 |
| 長期研修・中国 | 北方工業大学 | 2019/8/3～2020/1/31 | 10 | 34～47 |
| 長期研修・台湾 | 東呉大学 | 2019/8/5～2020/3/6 | 6 | 48～55 |
| 長期研修・スペイン | サラマンカ大学 | 2019/8/3～2020/3/18 | 7 | 56～63 |
| 長期研修・メキシコ | メキシコ国立自治大学 | 2019/8/5～2020/2/29 | 7 | 64～71 |
| 交換留学Ⅰ期・韓国 | 慶熙大学校 | 2019/3～2019/12 | 2 | 72～74 |
| 交換留学Ⅰ期・韓国 | 大邱大学校 | 2019/3～2020/1 | 1 | 75 |
| 交換留学Ⅱ期・アメリカ | セントラル・ワシントン大学 | 2019/9～2020/3 | 1 | 76 |
| 交換留学Ⅱ期・中国 | 北方工業大学 | 2019/9～2020/1 | 1 | 77 |
| 交換留学Ⅱ期・中国 | 上海交通大学 | 2019/9～2020/3 | 1 | 78 |
| 交換留学Ⅱ期・中国 | 天津外国語大学 | 2019/8～2020/1 | 1 | 79 |
| 交換留学Ⅱ期・台湾 | 東呉大学 | 2019/9～2020/3 | 1 | 80 |
| 交換留学Ⅱ期・台湾 | 開南大学 | 2019/9～2020/3 | 1 | 81 |

令和元(2019)年度 長期研修・交換留学による単位修得状況

| 修得単位数 | 長期研修 | 交換留学 |
|----------|------|------|
| 1～5 単位 | 0人 | 0人 |
| 6～10 単位 | 3人 | 2人 |
| 11～15 単位 | 28人 | 6人 |
| 16～20 単位 | 9人 | 1人 |
| 21～25 単位 | 14人 | 0人 |
| 26～30 単位 | 1人 | 0人 |

2019年度 海外留学プログラム長期研修 募集要項（抜粋）

1. 目的

- (1) 提携校における研修によって、外国語運用能力を養うとともに、現地事情を学習する。
- (2) 現地での学修成果を一定の範囲で単位認定することにより、帰国後の学習に対する意欲を高め継続的学習への意識付けを行う。

2. 研修先／期間

| 言語圏 | 研修先（提携校） | 派遣期間 |
|--------|--------------------------|------|
| 英語圏 | カナダ（ランガラ・カレッジ） | 7ヶ月間 |
| | オーストラリア（ニュー・サウス・ウェールズ大学） | 8ヶ月間 |
| | イギリス（エクセター大学） | 8ヶ月間 |
| | アメリカ（セントラル・ワシントン大学） | 6ヶ月間 |
| 中国語圏 | 中国（北方工業大学） | 8ヶ月間 |
| | 台湾（東呉大学） | 8ヶ月間 |
| スペイン語圏 | スペイン（サラマンカ大学） | 8ヶ月間 |
| | メキシコ（メキシコ国立自治大学） | 8ヶ月間 |

3. 出願資格

- (1) 学部1・2次年生、拓殖大学北海道短期大学1年次生で、学業成績優秀な者（GPA2.0以上）
ただし、中国語学科の1年生については、前期の専門科目の成績がGPAに反映されるよう手当てする
学部3年次生は、学業成績優秀な者（GPA2.0以上）且つ出発までに卒業要件を充足見込みであること
- (2) ①現地における研修を最後まで怠ることなく意欲的に取り組める意志堅固な者
②本学を代表する正規研修生として、研修地での文化交流に積極的に参加できる者
③拓殖大学の名誉と責任を担うことのできる心身ともに健康な者
- (3) 派遣予定者を対象とした事前研修の全課程に出席できる者
- (4) 英語圏・中国語圏への出願者は下記の条件をクリアできる者
(スコア有効期限：2016年12月～2018年12月)

| 言語圏 | 語学試験等 | 該当学科 | スコア・資格等 |
|--------|--|-------|--|
| 英語圏 | TOEFL (対象) ITP または iBT | 英米語学科 | ○ITP 450点以上、ただし次のセクションスコアはそれぞれ45点以上とする ・ Structure and Written Expression ・ Reading Comprehension ○iBT 45点以上とする |
| | | 他学科 | ○ITP 420点以上とする ○iBT 36点以上とする |
| | TOEIC (対象) Listening & Reading または IP | 英米語学科 | ○500点以上、ただし、リーディングセクションスコアは250点以上とする |
| | | 他学科 | ○500点以上とする |
| | 実用英語技能検定 | 全学科 | 準1級以上 |
| 中国語圏 | 中国語検定 | 全学科 | 4級以上 |
| | HSK (漢語水平考試) | 全学科 | 3級以上 |
| スペイン語圏 | 学内筆記試験を受験のこと（試験結果は選考時の参考とする） 日時：2018年12月20日(木)12:30※受験案内はTakudai Portalにて通知予定 | | |

※出願期間内にスコアを提出できない者は、スコアの代わりに受験票の写しを添えて出願すること。その後、スコアは入手次第、期日までに提出すること。（締め切り2019年1月10日（木）15時まで）

なお、出願資格に満たないスコアの場合は出願無効となる（資格に満たない場合も必ず報告すること）

- (5) 以下の行事に出席または課題等を遅滞なく提出できる者
 - ①帰国後に実施される帰国報告会への出席 / ②研修報告書の提出
 - ③研修成果を客観的に評価できる語学試験の受験とスコアの提出
 - ④本学外国人留学生への支援や本学国際交流事業への参加
- (6) 本学が指定する海外旅行保険に加入できる者
- (7) 留学ビザ対象者は、許可されたビザの有効期限内に研修を終えて日本に帰国できる者

カナダ (第42回) /バンクーバー ランガラ・カレッジ



Langara College

100 West 49th Avenue,
Vancouver B.C., Canada V5Y 2Z6 Canada

Tel : 1-604-323-5023 Fax : 1-604-327-9210

E-mail : leap@langara.bc.ca

<http://www.langara.bc.ca/international/esl/leap>

1965年に設立された公立短期大学で、23,000人の学生が在籍しています。トランスファー大学としての要素が強く、卒業生の多くが有力大学に編入しています。本学との交流は古く、本学長期研修はこのランガラ・カレッジからスタートしました。ESLクラス (STEP、LEAP) の教育には定評があり、集中して英語を学ぶことが出来ます。

研修概要

授業科目

リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、アカデミック・カルチャー、異文化コミュニケーション

期間

8月上旬～翌年2月下旬 7ヵ月

教育内容・クラス

8月から、夏期コースを受講し、9月より「リーププログラム」という能力別クラスで他国の留学生と共に受講します。ただし、1月からレギュラーコースを希望し許可されれば受講することができます。

※「リーププログラム」…LEAP (Langara English for Academic Purposes) は集中英語学習プログラムで、英語を第一言語としない留学生またはカナダ人学生が、大学やカレッジでのフルタイム課程に進学するための準備プログラムです。なお、LEAPプログラムは中級から上級レベルまでの8段階に分かれており、1セッション7週間のコースになります。

宿舎・食事

滞在は全員ホームステイで、原則として1日3食用意してくれます。

奨学金

留学先学費には本学より奨学金が支給されます。

経費 (本人負担) の一例

[2019年度例]

Ca \$ 1.00 (カナダドル) は2019年8月時点で約85円

※為替レートは変動有り

- ① ホームステイ費：¥520,000 (月額 Ca \$ 875)
- ② 旅行基本費用 (航空券、ビザ手数料等)：¥230,000
- ③ 海外旅行総合保険料：¥53,000
- ④ 提携校授業料：¥200,000

合計金額 約¥1,003,000

その他個人的な費用 (ホームステイ先によりバス通学費：毎月¥10,000)

参加者の声



カナダで過ごした7ヶ月は一生忘れられない貴重な時間になりました。LEAPプログラムでは、様々な国籍を持つ生徒たちとそれぞれの文化を共有しながら意見を交わす機会が多くありました。授業外では、ホストファミリーと日々の出来事やイベント、ニュースなどを通して多分野の事柄について雑談しました。これらの経験は、英語を学ぶ楽しさや素晴らしさを改めて感じることができ、さらに世界に対する理解を深めるきっかけとなりました。

外国語学部英米語学科3年 テサロナ ヴァニカロミン



今回のカナダ研修では目標であった消極的だった自分を変え一回りも二回りも成長する事ができました。現地でボランティアやクラブ活動に積極的に参加し、自ら英語で話しかける事が出来ました。自分が積極的になれたのはカナダの国柄のお陰だと思えます。カナダは多文化社会であり、かなり多くの留学生がいます。そのため、クラブ活動やボランティアは海外留学生を受け入れてくれるのでとても参加しやすくその機会を使い自分の積極性と英語力を上げることができました。この研修で磨きあげた自信と英語力は来々自分の人生を豊かにしてくれると確信しています。

国際学部国際学科3年 山田 悠貴

所属：政経学部 経済学科 2年

出身：新潟県立新津高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 カナダ長期研修参加（ランガラカレッジ）

【研修参加の動機について】

研修に参加した動機としては、一番は英語でコミュニケーションを外国の人と取れるようになりたいと高校生の頃から思っていたので、それにはこの研修に参加することが近道だと考えたからです。英語でコミュニケーションを取ることが出来るようになれば、色々な考え方を色々な人との関わりを通して得ることが出来ます。実際、この研修を通して色々な人と出会ったことで、以前よりもあらゆることに対する考え方が柔軟になったと感じています。カナダで過ごしていると日本ではあまりあったことのないような人と会うことが多かったです。そういった人とは正確には形容しづらいですが、雰囲気や外見、話し方から違いを感じました。そして長い時間を彼らと過ごしていると、「ああ、そういう考え方おもしろいなあ」と思うことが多く、特別なことをしなくてもただ会話をしているだけでとても楽しかったです。また英語にある程度親しくなれば、あらゆる選択肢グッと広がります。例えば、何か調べものをする際、日本語で検索して日本語で書かれた情報源から調べます。日本語だけでも大量の情報は手に入ります。ですが、それに加えて英語という選択肢があればもっと多くの情報に触れることが出来ますし、日本語で書かれた情報と比べて、どちらの方がより信用性があるかを吟味できます。他の例としては YouTube などの媒体で動画を見る際も英語という選択肢があれば、倍楽しむことが出来ます。このように勉強の面だけでなく、エンタメの面でも選択肢が広がります。こうして得た考え方は今の自分にプラスの影響を与えていると感じます。

【研修生活について】

研修では LEAP (Langara English for Academic Purposes) というプログラムに参加し授業を受けます。この授業では基本的に、英語のライティング、リーディング、リスニングを中心に勉強していきます。スピーキングに関しては、スピーキングに関して勉強するという事はなかったです。そもそもスピーキングはある程度できる前提で授業を行っていたように思います。なので、私は最初のころは、ライティング、リーディング、リスニングは、そつなくこなしていましたが、ディスカッションやペアで意見を交換する際はとても苦戦しました。ですが、日々の授業を通して定型文などを覚えていきだんだんと自分の意見を伝えられるようになっていきました。この LEAP ではレベルが 1 から 8 まで分かれていて上に行くほどよりアカデミックな授業になっていきます。1ターム 7 週間 (7 か月で 3 ターム) で最終的な成績が 70%以上だと次のレベルに上がれます。それ未満だともう一度同じレベルを学び直します。クラスの人数は大体 15 人くらいで、国籍は中国、イラン、韓国、ブラジル、日本、ベトナムといった感じでした。授業ではプレゼンをすることがあり、レベルが上がるにつれてフォーマルなものになり、準備のためのリサーチにかかる時間が長くなります。私は最後、LEAP6 に居たのですが、プレゼンではウェブのエンサイクロペディアや論文から情報を探してそれをまとめて発表しました。各タームが始まるごとに前のレベルとのギャップに圧倒されて次のレベルに行けるかどうか不安でしたが、毎日課される宿題をこなすこと、クラスメイトと情報交換することで毎回 70%以上をとることが出来ました。各タームの最終日に自分の成績が先生からメールで送られてくるのですが、毎回手に汗握って確認していました。それで合格していれば友達とみんなですそれを祝いにご飯を食べに行っていたことは良い思い出です。授業の教材は毎週先生から分厚い独自の教材を渡されるのでそれを使います。その教材は各週テーマがあり、LEAP4 では環境やジェンダー、芸術などの一般的なトピックを扱い、レベルが上がるとトピックがより学問的になり、LEAP6 では犯罪学や自閉症などを英語で学びました。トピックが毎回興味深いものが多く、英語を学びながら、新しい知識を得られるところが良い点です。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修では自発的に動くことの重要性を学びました。授業は午前中に終わるので午後にどう過ごすかは個人の判断に委ねられます。なので、自分なりに考えて、午後の時間を宿題や洋書を読むこと、友達と過ごすこと、街に出かけることなどに割くことで、どう英語力を伸ばしたらいいかは常に考えていました。難しかったのが、ネイティブの友達を作ることでした。LEAP で出会うのは基本的にノンネイティブの人なので、ネイティブの人と出会うには自発的に探さなければなりませんでした。なので友達を通じて知り合ったり、ほぼ知らない人のパーティーに行って知り合うということが必要でした。その過程の中で自分がどういう人間なのかということに気づけましたし、どうしたら思いが伝わるかと試行錯誤をすることで問題解決能力も身につきました。この、自分について知ることやどうやって問題を解決するか、ということは今後就活をする際に生きてくると思います。

所属：外国語学部 英米語学科 2年
出身：都立武蔵高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ長期研修参加（ランガラカレッジ）

【研修生活について】

研修先の Langara college で受けることとなるプログラムは Langara English for Academic Purposes(LEAP) というものです。こちらは1ターム7週間構成の、カナダの大学に進学したい学生向けのプログラムです。名前にもある通りアカデミックスキルの訓練を主とし、リーディングやライティングの力を伸ばしたり、エッセイの書き方などを学ぶことができます。授業は、時事問題や環境問題など興味深いトピックを用いながら学習を進めていきます。トピックは約一週間で変わるので、退屈することなく授業に集中することができます。常に新しい情報を吸収しながら授業が進んでいくため、語学力だけでなく、様々な問題や知識について見識を深めていくことができます。成績のつけ方はクラスによって多少の違いはありますが、基本的には授業への貢献度、宿題、7週間のうちに2回ある中間テスト、プレゼンテーション、エッセイ、最終テストの合計が70点を合格としています。授業の中にはスピーキング能力を伸ばすためのプログラムはないため、自分から積極的にクラスメイトに話しかけたりディスカッションで発言をしていく必要があります。クラスメイトとのコミュニケーションはディスカッションやグループワークを進めていくうえでも大切なことなので積極的にコミュニケーションをとるとよいと思います。毎日宿題があり、先生やクラスによって異なりますが、私は1日大体3～4時間かけていました。宿題自体にかなり時間がかかるのに加え、予習や復習も含んでいるのでそれ以上にやる必要はなく、残りの時間で各々が必要な学習を進めることができます。

【日常生活について】

平日は授業や宿題があるため自由な時間はあまりありませんが、週末にはホストファミリーや友達と外出したり遊びに行く時間が十分にあります。誰かと外出することで新たな発見や交流があるので積極的に外出するとよいと思います。私は冬のシーズンにホストファミリーとスキーに頻繁に行っており、年の離れたルームメイトとのよい会話のきっかけになっていました。また、週末やクリスマス、旧正月など親戚含め大人数でのディナーが恒例でした。ホストファミリーには年齢の近い子供もいなかったのが歳の近い子と知り合う良い機会となりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私が留学に参加した主な理由は語学力の向上でした。しかし、留学を終えて語学力だけでなく様々な自分の成長を実感しています。もちろんリーディングやリスニングなどすべての技能において留学前よりも大幅な成長をしていると思います。しかしスコアなどを利用して確認をしない限り実感は難しく、むしろ様々な物事に対する考え方やとらえ方の変化を実感する機会が多いと思います。私が留学中に会ったクラスメイト、友人は皆自由にそして意欲的に学問というものに向き合っていました。また、私たちが思っている以上に自分の将来について、社会への貢献についてなどよく考えていました。それを見て私は自分の学習だけでなく今自分が社会に対して貢献できることは何なのかについても考えるようになりました。留学が終わった今、私には以前より時間があります。この時間をもっと自分にも社会にも有用に使っていきたいと思います。

所属：外国語学部 英米語学科 2年
出身：都立府中高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ長期研修参加（ランガラカレッジ）

【研修生活について】

カナダ長期研修はLEAPを中心に行われます。LEAPは、現地で大学の入学意思がある、または英語学習希望のある学生のための英語学習プログラムなので、授業内容はアカデミックです。期間は1セッション2ヶ月弱を3セッション取り組み、やり切った感想としては、Speaking, Reading, Writing, Listening 四技能全てを向上させることが出来るプログラムだと感じました。LEAPはSELPのように8段階にレベル分けがされており、プログラム開始前にプレースメントテストを受けてからスタートします。授業はレベルによって変わりますが、午前か午後どちらかに行われ、詳しい内容としてはlisteningしたテーマに関する問題解答とnote taking、アートのreading、エッセイのwriting、グループプレゼンテーションやディベート、この四つが主の授業の構成要素でした。またレベルが上がると、カレッジのプロフェッサーによる模擬授業やpronunciation workshopが授業内容に組み込まれ、より現地の大学入学が意識されたものになっていきました。特徴として、難易度がそれなりに高くなるのはもちろん、課題の量が毎日多いのがきつかったですが、英語に触れる時間が増えるので英語力は確実に伸びたと思います。

【日常生活について】

まずホームステイに関して、最初は気分が落ち着かなかったのですが、7ヶ月も居たらさすがに慣れました。慣れ始めたきっかけは遠慮をしなくなったことだと思います。海外の方がフランクだからと言って何でもかんでもしていいわけではないですが、自分が望んでいることやわからないことは口にしないと伝わらないので、遠慮をしないことは日常生活において重要だったと感じています。食については、現地のもので満足できるのが一番ですが、なかなか難しいことでもあるので家族からのインスタント食品類の仕送りはとても精神的に助けになりました。そして主の一日の流れは、私の場合授業が午前中だったので、8:30~12:30まで授業を受け、昼食をとったあと図書館で課題を終わらせて早ければ19時、遅ければ22時に帰宅という感じでした。休日や課題が早く終わった日などは、同じ研修生や現地でできた友達と遊べますが、私個人としては現地の友達作りに苦戦しました。というのも、クラスメートの年齢層はかなり広いため、なかなか同じくらいの年齢の生徒と一緒に授業を受ける機会がなかったからです。ですので、自分からボランティア活動や地域のコミュニティに積極的に参加することは、言語学習においても、友達作りにおいてもとても大事なことだと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して、自分が見ていた世界の小ささを痛感しました。英語という言語においてはもちろん、考え方、知識、一人の人間としてまだまだ未熟であることに改めて気づかされました。自分自身で経験しないとわからないことは多く、インターネットやテレビの画面に出される情報だけを鵜呑みにしていたことがいかに愚かなことか、これまである種鎖国的な考えや知識しかもっていなかったことが、新しいことを経験する喜びを阻害していたと思います。今後の学生生活では日本国内だけではなく、海外の事柄にも目を向けて、多角的な視野、思考をなくさないように海外の記事などを読んでいきたいです。また英語に関しては、日本でも同じ言語学習を目的とするコミュニティに参加し、日頃から研修中と同じくらいの質と量で勉学に取り組んでいこうと考えています。そして将来の夢である商社で働くために、新たな知識を学んでいくことも始めようと思います。

所属：外国語学部 英米語学科 2年
出身：都立青梅総合高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ長期研修参加（ランガラカレッジ）

【研修参加の動機について】

拓殖大学に入学する前から海外に行くことに興味があり、またこの長期留学のプログラムがあることも知っていて、この長期研修に参加することを目標として入学しました。また、1年次に夏のカナダ短期研修に参加し、人々の暮らしに違いに驚いてこの国のことをもっと知りたいと思ったのもきっかけの一つです。カナダは多文化国家で有名で、文化に興味がある自分にとってはとても魅力的な国だと感じました。長期研修に参加した事のある先輩方や先生方からカナダのプログラムが拓殖の長期研修の中で一番難しく、またボランティアに毎月必須で参加できるのもカナダのみと聞いて、自分の成長に大きく繋がりそうだと感じ参加を決意しました。研修に参加するのは2年次をお勧めします。理由としては、3年次での参加だと帰国する頃に就職活動が始まってしまうこともあり、就職活動と学校の勉強を同時にこなさなければいけないことがあるからです。ですが2年次での参加だと帰国してから就職活動までに時間がありますし、その期間にカナダで学んだことを活かしながら自分の将来について考えられます。帰国後に語学力の上った状態で TOEIC などの資格試験でも高いスコアを出せると思うので、就職のことを考えても有利になると思います。研修前にはビジネス英語を履修しておくことを勧めます。ボランティアに参加するときは基本的に自分で見つけてメールをしてから参加ということがほとんどだったので、その時にビジネス英語で習ったビジネスレターの書き方が役に立ちました。

【研修国・地域の紹介について】

先ほども述べたようにカナダは多文化国家なので、街の色々なところで違った人種の人が見かけますし、今までに聞いたこともない文化や言語を持つ人に出会えることが特徴です。ローカルコミュニティセンターなども多くあり、いろいろな信仰の人もいます。またこの文化のおかげで差別がほとんどありません。少なくとも自分が留学している間に誰かが人種や宗教などで差別されているところを見たことはありません。英語に関しても、みんなが違ったアクセントを持って話しているので、コミュニケーションを取るのが時々難しいことがありますが、基本的にみんなフレンドリーで理解するまでしっかりと聞いてくれる人が多いです。クラスメイトはアジア人が大半でしたが、中東、南アメリカ、ヨーロッパからきている生徒もいました。また学校にはクラブ活動などもあり、レギュラーコースをとっているネイティブのカナダ人と交流する機会もありました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して語学だけではなく様々な知識を身につけたと思います。語学はもちろん上達しましたが、語学だけを学ぶなら日本国内でも可能で、自分はカナダでそれ以外の大切なことを学びました。異なる文化圏にすみ、異なり文化を持つ人たちと交流することにより、自分の文化との違いを知ると同時に自分の文化のことに海外に来て初めて気づきました。また、自分自身のことについてもたくさん考える時間があつたので、自分自身についても前よりよく理解できるようになりました。将来なんの仕事をしたいかはまだ決まっていませんが、今年中にカナダで学んだことを活かして自分の将来ことを考えたいと思っています。現時点では海外の会社か海外支部がある日本の会社に務めたいと考えていて、英語を使って日本と海外を結ぶ仕事がしたいと思っています。

所属：外国語学部 英米語学科 2年
出身：私立駒場学園高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ長期研修参加（ランガラカレッジ）

【研修参加の動機について】

私がカナダを研修先として選んだ理由は、ランガラカレッジの LEAP プログラムが私にとってとても魅力的だったからです。LEAP プログラムではアカデミックな英語を学べると聞いており、将来高等学校の教職につくことを目指している私にとって、そのプログラムでの経験はかなり有益なものになると感じました。なぜならば、現在の大学入試のシステムが大きく変わりつつあり、高校生達は英語の 4 技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）の習得が求められているからです。この大きな入試改革が導入されつつある時代の中で、4 技能の指導能力が教員に求められています。特にライティングを添削できる英語教員は多くありません。パラグラフライティングやエッセイに力を入れている LEAP プログラムは私の教員への道を大きく広げてくれると確信し、カナダを研修先として選びました。教職を目指している人にはカナダの長期研修をお勧めします。TESOL や CELTA などの英語教授法の資格取得のための留学プログラムもありますが、カナダの LEAP プログラムでは自分自身の英語の能力を大きく伸ばすことができるのでオススメです。

【研修生活について】

カナダでの LEAP プログラムでは上質な教材と教師が揃っているので、どのレベルにいても英語能力を伸ばすことができます。日本ではアカデミックな英語のマテリアルを探すのはあまり簡単なことではなく、ネットで調べても語彙や内容が難しい記事ばかりで自分のレベルに合った記事を見つけるのは簡単ではありません。LEAP プログラムではプレースメントテストの結果を基に自分のレベルに合ったクラスに所属し、そのレベルに合った教材で学ぶことができます。どの教材も優良なものばかりで英語の能力を上げるだけでなく、様々なアカデミックな分野を英語で学べるので知識も増えます。また LEAP の教師は課題やライティングに適切なフィードバックをくれるのでそれを基に自分の課題を改善することができます。課題の所要時間は 3 時間程度と聞いていましたが普段は 2 時間あれば終わらせることができ、周りの拓大の研修生もその程度でした。プレゼンテーションやエッセイの期日が近い週は 3 から 4 時間又はそれ以上かかることがあります。プレゼンテーションはほとんどのレベルでグループで行われるのでグループのメンバーとのコミュニケーションが大切になります。国によって主張の激しさなどが違うので英語力だけでなくメンバーの国特有の性格などを受け入れながら進める力も必要となります。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

カナダの長期研修で身につけた英語能力は今後の英語学習に大きく役立つと思います。学習の一つとして様々な資格試験に挑戦してみたいと思っています。目標として大学在学中に英検 1 級、TOEFL 100、IELTS overall 7.0 を取得したいと思っています。いずれの試験もアカデミックな内容なのでプログラムで学んだことが大きく活かせるはずです。

所属：外国語学部 英米語学科 2年
出身：私立東北高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ長期研修参加（ランガラカレッジ）

【研修参加の動機について】

私がカナダを選んだ理由はまず、1年生の時にカナダの短期研修に参加した際に長期研修の学生と1ヶ月過ごして自分も長期の学生として戻ってきたいと思ったからです。その時の長期の学生の留学にかける思いや姿勢を見てとても刺激を受けました。もう1つのカナダを選んだ理由としては、カナダの長期研修が1番厳しいと聞いたからです。私はあまり自分を追い込むことや、厳しい状況に身を置かずに、容易な道を選んで過ごしてきました。そのような自分を変えたいと思い、カナダでチャレンジしようと思いました。そして、留学に行く一番いいと思う学年は2年生です。理由は、1年生の頃から長期研修に行くという気持ちを持つことで普段の学校生活から人一倍努力をし、目標に向かって充実した学校生活を送ることができると思います。さらに、2年生で長期研修に参加し、3年生でその経験や英語力を十分に活かせると思います。また、もし2年生で長期研修に参加することができなくても3年生でもう一度受けることができますが、もし、最初から3年生で参加しようとして失敗してしまった時にチャンスがなくなってしまうと思います。しかし、2年生で長期研修に参加するためには、1年生の時から成績だけでなく、普段の学校生活やTOEIC、面接など人よりやらなければいけないことが増えます。しっかりと毎日授業に参加することや、授業の他にプラスαでTOEICの勉強をしたり先生に面接の練習をお願いしたりしなければいけません。ですが、私は1年生の時から長期研修に参加をするという目標を持つことで、他の学生と差をつけることができ、さらにより充実した学校生活が送れたと思います。そして最後に、私が長期研修を通して感じたことは、**spe&write** や **listen&read** などの授業を通して積極的に発言したりすることや、ネイティブの先生と積極的にコミュニケーションをしておくべきだと感じました。海外の学生は授業中に質問や発言をすることが日本人学生に比べて多く、自分たちも大学の授業を通して発言することに慣れておく必要があると感じました。

【日常生活について】

カナダの長期研修はホームステイでした。ホストファミリーの国籍は人それぞれでももちろんネイティブの方もいますが、中国系やブラジル、フィリピンなどいろんな国の人がいます。私の家族はフィリピン系の家族でした。家族構成はお父さん、お母さんと3兄弟でした。三兄弟は全員学生で歳が近く仲良く話したりすることができました。お父さんとお母さんもとても親切で自分を本当の息子のように可愛がってくれました。他に中国人と台湾人のルームメイトがいました。ルームメイトともほとんど毎日夜ご飯を一緒に食べ、いろいろな話をしました。ホームステイは毎日が異文化交流なので多文化を知ることができ、とても貴重な経験をすることができました。さらに、家族イベントがたくさんありました。夏にはBBQを行い、誕生日パーティー、クリスマス、お正月など家族と過ごす時間があり、親睦を深めることができました。私の家は細かいルールや門限などなく、基本的には自由でしたが全て自己管理でした。お金は毎月2日に現金で払っていました。ご飯は3色提供されますが、朝ごはんは家に置いてあるシリアルやパンを自分で用意して食べていました。お昼は基本的にサンドイッチでしたが、たまに前の日の残り物などをパックに詰めてくれました。夜ご飯も毎日用意してくれ、友達とご飯行く以外はみんなで食べていました。そして、休日や放課後の過ごし方としては、学校で出会った友達と遊んでいました。みんなで夜ご飯を食べに行ったり友達の家で遊んだりしました。様々な国の人が学校に言うので、たくさん友達を作り、遊ぶことによって異文化理解を深めることができました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

長期研修を通して自分自身を変えることができました。留学に行く前はめんどくさいことや大変なことは自ら避け、簡単な道ばかり選んで生活していました。しかし、長期研修を通して何かを得るためには努力を惜しまず自分自身を犠牲にしなければいけないと感じました。LEAP 5や6は課題やテストだけでなくエッセイやプレゼンテーションも難しく、簡単には行きませんでした。しかし、1つ1つ時間をかけて自分なりに努力をしたことによって、結果を出すことができました。その時の達成感や満足感は今までに味わったことがなく、自分もやればできるのだと気づくことができました。これからの学校生活でも、努力を惜しまず人一倍努力するだけでなく自ら行動を起こしいろいろなことに挑戦していきたいと思います。普段の授業では先頭に立ち、発言をし、積極的に授業に参加していきたいと思います。さらに、TOEICだけでなくIELTSやTOEFLなどで高いスコアを取得することや他の資格なども取得していきたいと考えています。そして、今回の長期研修を通してボランティアの素晴らしさを知ることができました。たくさんの人と関わることで、自分にはない考え方や意見などを聴けるだけでなく、社会人になるための心構えや社交性を身に付けることができました。私は2020年3月10日東京オリンピックのボランティアに参加します。その時に長期研修でのボランティア活動の経験を生かしたいと思います。最後に、私は将来何になりたいか今の段階ではまだ決まっていません。長期研修に行く前は英語を使う仕事に就きたいという漠然な目標で、どんな職業が英語を使うのかも知りませんでした。しかし、長期研修を通して英語を使う職業にどのようなものがあるか知ることができました。なので、3年生で自己分析をし、その中から自分にあった職業を見つけてインターンなどにも参加していきたいと考えています。

所属：外国語学部 英米語学科 3年
出身：神奈川県立神奈川総合産業高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ長期研修参加（ランガラカレッジ）

【研修参加の志望動機について】

私は大学に入る前から海外で長期間過ごし、英語を学びたいと思っていました。大学1年生でカナダ短期研修に参加し、カナダの雰囲気や治安の良さ、自然、気候、文化の多様さ、学校の施設などが気に入りもう一度長期研修に戻ってきたいなと思いました。また、ランガラカレッジのLEAPプログラムも研修先を選ぶ上で決め手になりました。宿題が多く比較的厳しめと聞いていたので、自分の為になると思いました。またLEAPプログラムはreadingとwritingに特化しているので、将来英語を使って事務関係の仕事に就きたいとしていた自分に大いに役立つと思いました。私は2年生で留学に行こうか迷ったのですが、自分のTOEICのスコアに自信がなく2年生で応募はしませんでした。3年生で留学に来たことに後悔はないですが、同学年が自分の参加することができないインターンに参加していたりと就活に遅れを取ることに時々不安を感じ、またLEAPやTOEIC、就活、その他のタスクを同時進行することが時々ストレスでした。就活課や友人の助けも充分あるので3年生だからと留学を諦めることはなくていいと思いますが、2年生で参加する方が気持ち的に余裕が生まれるのかなと思います。

【研修国・地域の紹介について】

カナダの日本と大きく異なる点は、多文化国家という点です。最近では日本でも多くの外国人が見られるようになりましたが、もちろん大半が日本人で多文化国家ではありません。しかし、カナダにはカナダ人のみならずアジア人や中東の人も多く見られます。文化の違いに寛容で、日本人だからと言って浮くことはありません。夏は日本のように湿気が多く蒸し暑いということがなく、涼しくてとても過ごしやすいです。自然も多く、ビーチや大きな公園も魅力的です。私はバンクーバーの夏がとても好きで、よく何時間も友達と芝生の上に寝転んで話すのが好きでした。通っていたランガラカレッジは綺麗なキャンパスで設備も整っていてデザイン性もあり、毎日楽しく通っていました。私は特に図書館が好きでとても集中しやすく、ほぼ毎日通っていました。図書館はいつも勉強熱心な学生でにぎわっていました。キャンパスにはカフェテリアやスタバ、電子レンジやお湯などの設備も充実しています。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は研修を通して英語力の向上のみならず、人としても成長できたと思います。英語力に関しては、LEAPで様々な記事をクラスでも宿題でもたくさん読んでいたので読むことに抵抗がなくなり、読む早さと正確さも上がりました。また、将来英語をたくさん読む機会のある職に就きたいという思いもより深まりました。色んな国籍のクラスメートと関わる中で文化の違いからイライラする場面もたくさんありました。しかし、なぜ相手はこの行動に至ったのか考え、考え方が違って受け入れられるようになり、他の文化に対する知識も深まりました。親の元から離れて生活し、クラスやクラス外でのグループワークなどを通して自分の行動に今までより責任を持てるようになりました。

所属：外国語学部 英米語学科 3年
出身：神奈川県立荏田高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ長期研修参加（ランガラカレッジ）

【研修参加の動機について】

私は、大学一年生の時にカナダの短期留学プログラムに参加しました。その時は、短期研修だったので1ヶ月しかカナダに滞在できませんでした。その1ヶ月の留学がきっかけでまたカナダで英語を勉強したいという思いが強くなり、長期研修で参加する国をカナダに決めました。現地の過ごしやすさや、国民性などもカナダを選んだ理由ではありますが、一番大きな理由は Langara College で受けることのできる LEAP Program です。このプログラムは特に読み・書きに力を入れていて、自分の苦手分野である読み書きの能力を伸ばすのに最適であると思いました。また、1日約3時間程度授業時間外で行う課題が出題されることも私にとってはとても魅力的でした。自分で空き時間を利用して机に向かうことが苦手なので、必ず取り組まなければならない課題が毎日あることで毎日机に向かう習慣をつけることもできると思いました。私は、日本で成人式に参加したかったので3年生の夏から長期研修に参加しました。しかし、私は2年生で研修に参加することをお勧めします。理由としては、就職活動に関する不安やストレスを年明け以降感じるが多かった為です。日本にいる同じ学年の友人と連絡を取ると、インターンに参加してきたや合同説明会に行ってきたなど周りとの差を強く感じました。この長期研修は、就職活動の際に強みとして活かせるのはもちろんのことですが、将来就きたい職業がすでに決まっている学生の方はその企業がいつ選考を開始するかなどの情報は必ず調べることをお勧めします。研修先に滞在している間にすでにエントリーシートなどの募集を締め切っている企業も少なくありませんでした。

【研修生活について】

8月中は、SELP と呼ばれる授業を通してカナダの文化について学びました。学校外に出たのアクティビティも多くあったのでとても充実した1ヶ月を過ごすことができました。9月からは、LEAP と呼ばれる Academic English に焦点を当てた授業を3セッション受講しました。授業時間は SELP よりも短いですが、難易度も上がり毎日課題があったので授業後と週末はほとんど図書館で過ごしました。宿題をしっかりとこなし、疑問な点は必ず授業の後に先生に聞きに行くことを徹底しました。LEAP の授業を受けてから、確実にリーディング力が上がったことを実感することができました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この長期研修を通して、英語力だけでなく自分自身の精神力を向上させることができました。自分から一歩踏み出して様々なことに挑戦することで、現地で沢山の友達を作ることができました。カナダで出会えた友人たちは私にとってかけがえのない一生の宝物になることでしょう。また、カナダで Made in Japan の素晴らしさを痛感しました。将来は、日本の素晴らしい技術を駆使して作られた製品を海外にも提供できるような仕事に携わりたいと考えています。

所属：外国語学部 英米語学科 3年

出身：山梨県立甲府昭和高校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 カナダ長期研修参加（ランガラカレッジ）

【研修参加の動機について】

私は中高生のころから、いつか長期的に海外で生活するのが夢でした。高校三年生の時、留学制度が充実しているこの拓殖大学を選び、絶対留学してやるぞという気持ちで学生生活を送ってきました。そのためか、とても自然な気持ちで3年次の時長期研修に参加することを決意していました。また、二年前の大学一年生で、カナダの短期研修に参加しました。その際は長期研修に参加することを見越して留学というものを知りたいという思いで参加しましたが、一か月という短期間ながら留学生活というものがどういうものなのか分かったと同時にバンクーバーという都市を深く知り、そしてとても好きになりました。しかし、私は長期研修先として憧れていたヨーロッパ圏であるイギリスと迷っていましたが私の代は定員が少ないことを知り一度訪れたことのあるバンクーバーに希望を出すことを決めました。私は自分に甘いところがあるので今ではやらなければついていけない厳しいプログラムのカナダを選んだからこそここまで成長できたのかなと思っています。

【研修生活について】

カナダではLEAPというプログラムです。先生や先輩から「厳しくて大変だ」とよく言われていますが実際にやってみて、確かに課題はしっかり出るし全てのタスクをしっかりやらないと授業の質や自分の成績は落ちるしついていけなくなると思います。しかし、そんなプログラムをやりこなす自信は全くなかった私でもやりこなすことができました。それは、頭の良さや何か特別な能力というよりは出されたタスクややらなければならないことさえきちんとできれば何も心配する必要はないです。私は授業が終わったあと必ず図書館に行って課題を終わらせてから夕食に間に合うように家に帰るようにしていました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して、自分自身を大きく成長させることができました。英語力はもちろん飛躍的に伸びた気がします。特にライティングは留学前と比べて語彙が増え短時間で書けるようになりました。また、この研修は自分とはどういう人間でどんなタイプなのかなど、自分自身のことをたくさん教えてくれました。様々な活動やクラスメイトとのエピソードで自分の長所や短所、苦手なこと好きなことなど、自分か思っていた自分とはまた違う自分に気づくことができました。そして、この経験を自己分析や業界研究をはじめ就職活動で生かしていきたいと思っています。

所属：国際学部 国際学科 3年

出身：神奈川県立旭高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 カナダ長期研修参加（ランガラカレッジ）

【参加の動機について】

まずは、自分がカナダを選んだ理由を話したいと思います。大きな理由としてはカナダという国に興味を持っていたからです。自然が豊かで人柄が良い人が多く、生活するのに最適だと思ったからです。また、多文化社会であることにも興味がありました。実際に7か月間カナダで生活してみて思った通りの生活がしやすい環境であり、思った以上に様々な人種の人々が住んでおり、多文化社会を体験する事が出来ました。自分が想像していた以上に素晴らしいことが多くカナダを選んで本当に満足しています。次に留学をするのに最適な学年や事前に準備しておいた方がよい事について話したいと思います。自分はこの研修を二年生の時に志望し落ちてしまい、再度三年生で受けなおし、この研修に参加すること出来ました。結果的には三年生で行けた事に感謝しています。二年生から三年生まで日本で学んだ英語力を存分にカナダで発揮する事が出来ました。もし、英語力が不十分な状態で留学していたら今回のように成功した留学にならなかったと思います。特に英米学科以外の学生は三年生まで日本で英語の学習に励み海外で生活できるスキルと自信を身に付ける事をオススメします。自分は留学に行くまでに拓殖大学の語学サロンに参加していたのですが、それが留学生活に役立ちました。語学サロンで生徒や先生と英語で日常会話をします。自分が知らない人といきなり英語で話すのですがそれが直接てきに留学先で他国の人とのコミュニケーションをとるのに役立ちました。留学前に留学先で必要な能力を事前に予測し準備をすることをオススメします。

【ホストファミリーについて】

自分のホストファミリーはカナダ生まれのカナダ人で両親と息子と娘の四大家族でしたが、基本家にいるのは母親と父親でした。自分が甘えたしまった部分もあるのですが、掃除や洗濯、料理など家での生活のほとんどを支えてくれたので学業に支障がでることはありませんでした。家族全員が優しく、自分を家族同様に受け入れてくれました。毎日家族と一緒にニュースを見ながら夜ご飯を食べるのが日課だったので夕食の時間までに宿題を終わらせ家に帰るようにしていました。土日などはホストマザーが買い物などに連れていってくれる事も多々あり、クリスマスやサンクスギビングなどのイベントはパーティーに連れていってくれました。ホストファザーはカナダの歴史やプレゼンテーションのコツなどの先生のように沢山の事を教えてくれました。ホストファミリーと仲良くなるには、自分から積極的に話しかけ距離を縮めることが大切だと思いました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回のカナダ研修では沢山の友達や素晴らしい人々に会う事が出来ました。それらの人達と出会えたのは自分が積極的にボランティアやクラブ活動に参加したからだだと思います。また、出会えた人達と楽しく会話できたのも英語を一生懸命に勉強したからだだと思います。努力で自分の可能性が広がり今まで体験する事がなかったことを体験し沢山のことを学びました。今回のカナダ研修が新しいことに挑戦するきっかけになったと思います。これからも、カナダで身につけた積極性と自信で豊かな人生を歩んでいきたいです。



Institute of Languages The University of New South Wales

223 Anzac Parade, Kensington, NSW 2033
22 King St. Randwick NSW 2031 Australia

Tel : 61-(2)-9385-5396 Fax : 61-(2)-9662-2651
E-mail : institute.language@unsw.edu.au
http://www.lang.unsw.edu.au/

ニュー・サウス・ウェールズ大学 (略称: UNSW) は、シドニーにある国公立大学で、オーストラリア国内で常に5本の指に入る名門大学です。世界の優秀な大学にも選ばれています。学生は約40,000人、600の学部、大学院プログラムがあり、5,000人を超えるフルタイムのスタッフが、76のスクール、69の研究センター、6の機関、4の大学付属病院、8の学生寮、その他多くの運営機関で働いています。在籍学生の約5人に1人が留学生であり留学生の受け入れや海外大学との合同プログラムに長年の実績があります。

研修概要

授業科目

講読、作文、会話・聴解、文法、発音、ビジネス英語、オーストラリア研究、メディア、プレゼンテーション

期間

8月上旬～翌年3月中旬 8ヵ月

教育内容・クラス

UNSW 附属 Institute of Language で国際混合クラスに分かれて受講します。そのほかに Academic Course、IELTS 試験対策コース等も選択が出来ます。

宿舎・食事

滞在は全員ホームステイで、原則として1日2食(土日は3食)用意してくれます。

奨学金

留学先学費には本学より奨学金が支給されます。

経費 (本人負担) の一例

[2019年度例]

AU \$1.00 (豪ドル) は2019年7月時点で約92円
※為替レートは変動有り

- ① ホームステイ費: ¥941,160 (1週間 AU \$330)
- ② ホームステイ斡旋料: ¥26,680 (AU \$290)
- ③ 旅行基本費用 (航空券、ビザ手数料等): ¥208,610
- ④ 海外旅行総合保険料: ¥60,670
- ⑤ 提携校授業料: ¥250,000

合計金額 ¥1,487,120

その他個人的な費用 (ホームステイ先によりバス通学費が必要)

参加者の声



ここでは様々な国籍の学生と交流できるため、リアルな今や国籍の違いからの価値観の相違を共有することができるとても良質な語学学校です。先生方はこの国ならではのフレンドリーさ、またC Eクラスならではのビジネス経験の豊富さも感じることができます。多民族国家であるオーストラリアは食に関して、文化に関して、様々な面でフレキシブルです。自由度が高く、自主性を高めるのに適した研修先でもあります。他とは一味違った留学を味わってみませんか。

外国語学部英米語学科3年 秋葉 碧依



授業は毎日午後一時半に終わるため、放課後に自分の好きな勉強ができることがUNSWの魅力です。また、全教員が生徒想いであり、授業に関連のない質問まで回答していただくことが多々ありました。そうした環境はとても意義深く、現地で受けた語学試験により今後の進路の選択肢が増えたことはその環境に起因すると思います。ストレスを感じることなく好きなだけ好きな方法で勉強できる。UNSWはそういった学校でした。

外国語学部英米語学科2年 富永 大瑛

所属：商学部 国際ビジネス学科 2年

出身：都立東久留米総合高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア長期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修国・地域の紹介について】

オーストラリアと日本の様々な違いについて紹介します。まず初めに季節ですが、日本と同じく四季があります。冬は日本ほど気温が下がらないので快適に過ごすことができます。春は花粉症を気にする必要がありません。ですが、夏は日差しが強いので、日焼け止めを塗る、サングラスをかける、帽子をかぶるなどの対策が必要になります。また、オーストラリアのこの時期に山火事が発生します。そのため外出をする際は十分に気を付けましょう。つぎに食べ物について、オーストラリアでは、アジア料理を中心に世界各国の飲食店があります。自分と異なるバックグラウンドをもつ友達と新しい味に挑戦する、日本食の店に友達を招待して自国について知ってもらおうなどと、多くの発見がありおもしろいと思います。食事を通じて文化の違いを共有できるというのは、日本ではなかなか経験できることではありません。また、これも現地に訪れてから知ったことですが、ビーガン（菜食主義者）の人がかなりの割合でいます。オーストラリアではバーベキューが盛んにおこなわれますが、その時も相手を尊重し、一緒に楽しむ。相手に対する思いやりをもつことが大事な点は日本にいるときと変わりません。日本人はこの点で優れていて、ほかの国籍の人からも比較的親しみを持ってもらえることが多いと感じました。ですが、他人を尊重するあまり自分の意見を言わない、いえないことがあったのも事実です。自分と相手に対して正直でいること。これはホストファミリーと良好な関係を築くためにも極めて重要なことです。

【日常生活について】

午前9時から11時、30分の休憩をはさんで11時半から午後1時半までの合計4時間が一日の授業時間です。そのサイクルが約8か月続くので、オーストラリア留学を考えている方は英語学習のほかに、放課後なにをするかを考え、前もって準備しておくことで留学が充実したものになると思います。私が放課後にしていたことの例をいくつかあげると、そのうちの一つに「ミートアップ」があります。言語交換を目的とした国際交流会で、毎日どこかのホテルやバーで開催されているので、英会話の練習をし、その時点での自分の能力を確認することを目的として利用すると、それからの目標設定を明確にしやすいと思うのでおすすめです。ほかには、新しいことに進んでチャレンジしてみる。私の例として、週末にサーフィンのレッスンを受けに行く、帰国までにバリスタの資格を取得する、夏休み（日本の冬休み）に旅行をするといった、日本にいた時よりもアクティブな行動をとることを心掛けたことによりそこから多くの発見、経験が得られました。ここで重要なのが、それらを行う際に英語を結び付けて考えることです。「いつまでに何を」明らかにし、「先延ばしにしない」ことで、それらのために必要な英語の勉強をすると、時間が経ってから自分の成長をより実感できるはずです。自分にとって最適な期間で目標を立て、挑戦してみる。目標は自分の興味のあることから考え、日本にいる間にそのイメージを膨らませておくと、より有意義な留学生活をおくれると思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修で得られたものの量は計り知れません。新しい家族、友達、先生。日本に帰ってきてからも SNS を通して、どれだけ遠く離れていてもやりとりができる。そんな時代に生まれたことをとてもうれしく思います。これからもさらに邁進していくために、今回の留学は自分の可能性を広げるという意味でとても前向きな結果となりました。まだ先が見えない中で、第二言語を学習する環境に身を置くことは自分にたくさんのきっかけと、考える時間を与えてくれたので、これからも結果を急がず目の前のことに集中できる環境を創る努力を続けていこうと思います。

所属：商学部 国際ビジネス学科 2年

出身：千葉県立船橋芝山高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア長期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修参加の動機について】

このオーストラリア長期研修プログラムに参加した理由は2つあります。1つ目は海外経験が豊富な私の姉の存在です。姉は、私の家に海外の友達を連れてくることがあり、楽しそうに英語で会話をしていました。そんな姉の姿を見て、私は感銘を受けていました。その際に、自分も英語で話そうとしましたが、なかなか自分の考えを英語で伝えることができず悔しい思いをしていました。そのようなことから海外で生活して姉のようになりたいと思うようになりました。2つ目は、時間の有効活用です。大学生活というのは、何か自分から行動しなければ多大な時間を無駄にしてしまうと私は考えました。正直なところ、私は学校に行き放課後はアルバイトをするだけの生活に退屈していました。そんな自分を変えるために、自ら半強制的に自分を海外に送りました。半強制的にというのは、別に嫌で参加した訳ではなく、自分を異世界に放り投げるような感覚を意味しています。この長期留学に参加すれば、語学力の向上だけでなく実りのある自分探しになると思いました。以上の2つの理由から、私はこのオーストラリア長期研修プログラムに参加することを決意しました。

【日常生活について】

約8ヶ月間のオーストラリアでの生活において、私が重点を置いていたことが1つあります。それは語学力ではなく、普段のコミュニケーションです。海外で生活する上で、たくさんの人々とコミュニケーションをしない限り意味がないと私は常に考えていました。コミュニケーションをすることで、お互いの性格、文化などを知ることができます。語学力というのは、それを知った上で身につくものだと思います。具体的に説明をすると、授業中の発言や、そして何より大事なのは友人作りです。授業中では、自分の語学力を気にせずとにかくたくさん発言していました。発言をすることで日々の授業を楽しむことができました。友人作りでは、自分の趣味を存分に生かして取り組んでいました。自分はサッカーが好きなので、提携校であるニューサウスウェールズ大学にあるフットサルコートを利用していました。スポーツをする上でも語学力は関係ありませんでした。共にスポーツを楽しむだけで、良い友人関係を築くことができました。私は、友人と遊ぶときは毎回写真を撮っていました。そのようなことから、友人からは「Selfie King」と呼ばれていました。今では、とてもお気に入りのニックネームです。写真を撮ることは友人作りにおいてとても重要だと私は考えます。なぜなら、記憶が物として残り、その写真をSNS等で送ることにより連絡手段ができるからです。私は、一つ一つの出会いを大切にしていました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

日本では、平日は働き週末は休憩をするという社会人が多いと思います。街中にいるビジネスマンを見ても、疲れている姿が丸わかりです。しかしオーストラリアでは、週末に限らず平日でさえビーチなどで自分の時間を楽しんでいる人がたくさんいました。さらに、職種問わず多くの従業員が楽しそうに仕事をしていました。そのような姿を見て、自分の人生は楽しむことに意味があると思いました。楽しむ方法は、人それぞれだと思います。私は、他人を楽しませるとことだけでなく、手助けをしたりすることで自分も楽しむことができることに繋がると考えています。このような考え方を元に、これからのゼミなどの学生生活や進路に生かします。そして、また機会を作り、海外に長期滞在しようと思います。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：神奈川県立茅ヶ崎高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア長期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修国・地域の紹介について】

毎年夏オーストラリアでは山火事（Bushfire）が起こりますが、今回は例年にないほどひどく、シドニー市内はすぐ近くで火事が起きているのではないかと思うほど煙の匂いがし、空気中は霞んでみえるほど霧がかかっていました。最初山火事が毎年起こるということを聞かされた時には火災現場は市内から離れているため大丈夫だろうとどこか他人事のように感じていましたが、いざ目の前にして初めて事態の深刻さを知りました。

オーストラリアは多国籍文化のため、差別は受けることはないだろうと思っていましたが、残念ながら人種差別を直接受けることが何度かありました。人種差別についてですが、コロナウイルスが流行し始めてから、「中国人だ」「你好、你好」「China, China」とふざけながら言われることがかなり増え、シドニーの中心街から少し離れた North Sydney を訪れた際、「Get off the bus, coronavirus!!!」と若者二人に言われてしまいました。差別を自分が受けるなど考えてもいなかったののでいざ直接言われるとかなりショックでした。多民族国家である国でも狭い考えの人がまだまだいることを思い知らされる経験でした。コロナウイルスが流行するまでこのような発言をされることは全くなかったの、ガラッと世界が変わってしまったような印象を受けました。

【日常生活について】

ホストファミリーとの生活ですが、長期で過ごしたこともあり、まるで娘のように接してくれ、毎日その日の出来事をお互いに共有し、会話の時間を設けていたので、勉強の悩みなども相談でき、信頼関係が築けました。授業は月曜日から金曜日の朝9時から午後1時半までです。放課後の時間がたっぷりあるので、時間をどう上手く使うかがとても重要でした。UNSW や Global の図書館だけでなく、市内にある図書館を使う人も多かったです。物価が高いため、外食は特に気をつけなければならず、多くの研修生はランチにフルーツやサンドイッチを自宅で作って持ってくるなど工夫していました。

ボランティア活動の一環として、私は毎週土曜日に Global で開講されていた日本語クラスのアシスタントとして参加させて頂きました。レベル別でいくつかクラスがあり、私は日本語を学び始めたばかりの方達のクラスだったので、英語で質問されて、英語で説明する機会が多くあり、また生徒の皆さんは全員オーストラリア人だったので留学生ではなくネイティブスピーカーと関わることのできる良い機会でした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

オーストラリアに来て一番感じたことは授業内だけでなくホストファミリーとの会話の中でも意見を求められることが本当に多かったです。日本はなぜ残業までして働くのか、なぜ英語が話せる人が少ないのか、なぜ電車は混雑するのか、なぜ日本人は魚が好きなのか等、予想もしていなかったことをたくさん聞かれ、その理由が答えられず時間が過ぎてしまう状況がとても悔しかったです。しかし、そのおかげで様々なことに疑問を持ち、自分から質問したり、意見交換したりすることが習慣になり、たくさんの人と意見交換ができ、視野が広がったと感じます。おそらく日本にいる時には疑問を持ったり質問したりすることを面倒なことと感じていたと思います。今回の経験のおかげで、興味を持つことが自分の語彙を増やしたり知識の幅を広げたりすることにつながるということを実感しました。この経験のおかげで進路について、留学前自分は英語を使う仕事がしたいというだけしか考えておらず、現在考えている貿易関係の仕事についての知識もほとんどなく土台の部分がしっかりしていないことがわかりました。また、視野がとても狭いことに気づけたので、貿易関係だけに絞らず様々な分野に目を向けようと思います。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：都立府中西高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア長期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修国・地域の紹介について】

オーストラリアのシドニーは他の留学先同様、多文化地域として知られています。そのため、日本と比べると大きな違いが多々あります。私が感じた一番の違いは人同士の関わり合いの文化です。バスで降りるときに「ありがとう」と運転手に声をかける人の多さ、困っている人を見かけると声を即座にかける人の多さ、などからシドニーの文化は日本とは大きく違うと感じました。

私の中ではシドニーは人同士のつながりが強く、助け合っていてきている社会です。日本と比べて建物や公共交通機関の設計が甘いところがありますが、そのような欠点を人と人が助け合って補っているかのようです。その点日本の建物や公共交通機関は欠点が少なくなるように設計されていますが、それが理由で人同士が助け合う必要はなく、関わりが少ない印象です。どちらにも長所短所があり、文化でもあることから優劣をつけることはできませんが人間が幸せだと感じやすいのはシドニーの文化だと考えられます。シドニーの人たちの人に助けられ、ほかの人を助ける行為は人間の本能的に幸福を感じやすく、日本の文化より暮らしやすいです。

【研修生活について】

研修中の生活はとても充実したものでした。各クラスレベルが違い、自分に合ったレベルで学習できることが良かったです。授業時間は比較的短く、自分で学習する時間を確保することが勉強をするうえで大切だと思います。ビジネス英語を学んでいるなかで、自分から発言する大切さ、自分のアイデアを持つ重要さも学ぶことができました。他の国の人と話していると私が日本で学んだことは物事の表面上だけで、理解しきれていないことが多いのだと感じました。すぐに物事の本質をとらえ、自分の意見も加えて発言する力を養うことがとても重要なのだと授業を通して気づきました。

また、ボディランゲージも自分のイメージを伝えるうえで役に立つことを知りました。体の動きが相手にどのような印象を与えるのか、どのように使うと効果的なのかを学びました。言葉だけでは伝わらない話者の想いを伝えるには良い方法で、とても興味を持ちました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

世界の人と会話することは、一つの題に対して多くの観点があるのだと気づきました。私だけでは想像も考え付くことができない意見や提案をたくさん知ることができました。その人の国柄、性格、経験などから一人ひとり意見が違うことがとても面白く今後も世界中の人との交流を持ちたいと思いました。

今回の留学を通して、留学前には曖昧だった進路が少しずつ明確になっていきました。今後は海外の大学院や、交換留学、在外公館派遣員など日本の外で活動することを視野に入れていきます。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：長野県松本美須ヶ丘高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア長期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修国、地域について】

オーストラリアは南半球に位置する国で国土が日本の20倍と広大な土地を持っています。しかし、人口は日本の五分の一と日本とは人口密度の面で真逆の国です。研修先の **University of New South Wales** があるシドニーは国の南東に位置しており日本との時差は冬は1時間、夏はサマータイムの為2時間の時差がありますがそこまで気になりません。気温は冬は10度前後で夏もピークは30度前半の為比較的過ごしやすいですが、特に夏の場合日差しがとても強いので日焼け止め、サングラスを毎日持ち歩くことが鉄則です。どうしても暑くて耐えられないという場合はシドニーに無数にあるビーチに泳ぎに行くことが得策でしょう。シドニーの物価は正直に言えばとても高いです。特に外食をする際にはシドニーシティでお店を探せばどこも大学生にはちょっと高いな、なんてことばかりです。友達を作る際に食事をしながらおしゃべりすることは当たり前ですが週に何回もなんてことは不可能なのでしっかりお財布とも相談しながら過ごしていくことはシドニーでは必須になってきます。シドニーは比較的 안전한都市だと認識していますがそうはいつでも日本の何倍も危険なので細心の注意が必要です。犯罪の面でいえば身近なところで傷害事件や薬物の取引のせいで警察をよく見かけます。特に2019年は自然災害が生活レベルまで支障をきたしていました。皆さんの知っているように今年は森林災害が特にひどく、毎日灰のせいで空が黄色く外に出る人も少なかったです。コロナウイルスも中国からの留学生、移住民が多いため最新の注意が必要でした。

【日常生活について】

オーストラリアは水不足が深刻なため、普段から節水を心がけましょう。朝ごはんは夜ご飯はホームステイが提供してくれるので問題ないですが、お昼ご飯は毎日自分で用意しなければいけません。**UNSW Global** のカフェやマクドナルドが近くにあり昼ご飯には困らないですが、毎日となると相当な額になってしまいますので朝自分でサンドイッチなどを作って持って行くだけでも違います。交通手段は主にバスですが、留学生は学生割が適用されない為通学の往復のバス代だけで6ドル、遠い人で8ドル程使うこととなります。歩いて通学も可能ですが1時間半以上歩くためあまりお勧めしませんが、日曜日はすべての交通機関が3ドルで使い放題なので遠くに友達と出かけるのは必ず日曜日にしていました。授業は1時30分に終わるので勉強をするのにも沢山時間がありますし、本キャンパスにある芝生で体を動かすのも良いと思います。他にもサッカーコートとバスケットボールコートがあるので本キャンパスの生徒とスポーツをして友達になるにはもってこいの場所だと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは英語と同時に新しい分野の勉強をしたいという意欲です。オーストラリアに来て沢山の友達が出来ました。全員が自分より高い志をもってあくまでもその過程に英語を置いてその為に勉強していました。自分は英米語学科なので以前は英語だけを勉強すればいいものだと思いついていましたが、オーストラリアに来てから英語を通して新しい分野の勉強も同時並行で進めていけたらと思うようになりました。英語の学習面でいえば日本に帰るため英語に触れ合う機会は自然と減ってしまいますが、自分なりにディベートに参加したりするなど行動を起こしていきたいです。進路についてはまだまだ自分のやりたいことについて模索中ですがゆくゆくは英語を使って仕事をするを目標にしています。

所属：外国語学部 英米語学科 3年

出身：私立聖望学園高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア長期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修国・地域の紹介について】

研修先の季節は基本的に真逆になります。8月に到着した際はとても寒いですが雪が降る様なことはありませんし、1ヶ月もすれば日差しが暖かく、日中は強い日差しで暑過ぎるくらいで、夏と同様日焼け止めは必須です。夏は日差しがとても強く、風も熱風なので一番暑くなる時間帯は外に出ない事がマストです。以前までは夜は羽織が必要くらい気温が下がっていた様ですが、最近は気候変動の影響で夜も熱帯夜になる事が多く、熱中症など注意が必要です。基本的にステイ先では自由に冷暖房器具が使えないことの方が多いので、自分自身で工夫していく事が重要です。公共の交通機関ですが、ほぼ24時間バスが運行しているエリアもありとても便利です。交通の利便性での問題は無いですが、夜一人で出歩くことは危険なので避けてください。比較的シドニーは安全ですが、一人で出歩くには危ないエリアも複数あります。語学学校とメインキャンパスは少し離れていますが、道路を一つ渡れば広々とした綺麗なキャンパスが広がっています。8階建ての最新鋭の設備がそろった図書館などを利用していた研修生がほとんどです。Wi-Fiがどこに行っても繋がるので、芝生の上で課題をしている学生も見受けられます。

【日常生活について】

ステイ先はバックグラウンドを含めさまざま、私の場合はあまり交流がありませんでした。お互いをむしろ家族として過剰に意識し合わない関係でした。ですがそれがむしろ私の生活と合い、勉強に専念し、ストレスにならずに済みました。クラス内はさまざまな国の学生が在籍しており、色々な国の友人ができました。それぞれ帰国した後も連絡を取り合っています。9月から早速毎週土曜日にUNSWで開催されている日本語クラスにアシスタントとして通っていました。その中で日本好きのオーギーとも交流ができ、来日した際は良心のお店に来る約束をするくらいです。この豪州長期研修は他の研修国と違いボランティア活動などが必須では無いため自ら動かずして、クラス以上の異文化交流はできません。日本語クラスの学生も先生も優しい方々で、次回の研修生にはぜひ参加してもらいたいです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して、私の強みと改善点を改めて発見する事ができました。授業内でグループワークをする事が多く、リーダーとしてまとめ役をする機会が多く、就活でアピールできる強みを見つけました。またCE(Career English)のコースに所属していたため、生きたビジネス英語を学びました。講師陣もビジネス経験のある方が多く、ケーススタディなどをこなす際にとっても良いアドバイスをいただきました。ここでビジネスに触れた事で、興味が出てきました。私は就職後にオーストラリアに帰ってきて、ビジネススクールに通おうと思っています。中国人学生が多く在籍し、私は中国語副専攻だったため英語だけでなく中国語も学ぶ事ができました。オーストラリアは勉強だけに集中するのではなく、自ら動いて新しい自分を見つけられる研修先です。

所属：外国語学部 英米語学科 3年

出身：神奈川県立橋本高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア長期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修生活について】

オーストラリアの長期研修生は、UNSW global の学校に通います。クラスは一番下のレベルの **Essential English 1 (EE1)** から一番上のレベルの **Career English 4 (CE4)** までに分かれています。1タームが5週間に分かれています。1ターム目が終わると、そのクラスの2ターム目が始まります。CE1とCE4のみ次のレベルのコースに上がるまでに3タームの時間が必要です。学校へ行く初日にオリエンテーションがあり、その日にクラス分けのための筆記とスピーキングのテストを受けます。私は、CE1からスタートし、最後はCE4を1ターム受講しました。クラスは9時から始まり、1コマ二時間が午前と午後に分かれて2コマあります。CE1のコースは文法が中心的で、ライティングの授業でもビジネス英語はあまり学習しませんでした。クラスのレベルが上がると、徐々にビジネス英語の授業に変化していき、文法というよりはビジネスの場で役立つミーティングの時のフレーズ、ライティングではビジネスメールや履歴書の書き方を教わりました。CE4のクラスでは週に一度、5人程度のグループに分かれて架空の役割を演じ、様々なテーマでミーティングを行い、毎回とても盛り上がっていました。この学校で勉強していく上で、全部のコースを通して最低一回以上プレゼンテーションがあります。オーストラリアではチームワークを大事にしている、ほとんどのプレゼンテーションがグループワークでした。CE2の時に発表した、シドニーでまだあまり知られていないおすすめの場所を見つけビデオを作るというプレゼンテーションが一番印象に残っています。全員で予定を合わせて進めていくこと、役割の責任を平等に分けて行うことの大変さを味わいました。この学校のコースでは、このようなプレゼンテーションのように、授業内でディスカッションも多くあり、同じトピックでもこんなにも自分と違った意見をもっている事に驚ろかされ、自分の視野を広げる事ができ、とても良い経験でした。

【日常生活について】

私は **Botany** という空港から近いエリアの家にホームステイしました。私はスペイン人と台湾人のルームメイトと一緒に住んでいました。ファミリーと夕食の時くらいしか会話をする機会がなかったのですが、その分ルームメイトと仲良くなることができました。私の家で決められていたことは洗濯についてです。洗濯物を出せるのは平日で週一回と決まっていました。私の場合はありませんでしたが、大半の拓大生のホームステイ先では、シャワーの時間が決められていました。水不足のため、私も毎回のシャワー時には気をつけていました。また、放課後は学校が13時30分に終わるので、家の近くの図書館で勉強をしに行ったり、UNSWで用具を借りて友達とグラウンドでスポーツをしたりしました。オーストラリアはキャッシュレスなので支払うときはカード払いが基本でした。毎回いくら使ったかが目に見えないので、使いすぎを防止するために、毎日スマホアプリを使って計算していました。また、私は学校以外でも友達を作るために、スマホアプリを利用して英語を勉強している方々が集まる会にも参加しました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して成長したことは、英語力はもちろんですが、英語を使って自分の意見を人に伝えるとき、自分に自信をもって発言することができるようになりました。研修前は、英語で自分の意見を伝えるとき、文法や発音の心配ばかりして、思ったことを伝えられず悔しい思いばかりしていました。現地で長期間生活してみて、自分の英語で意見が伝わった時の喜びがどんどん自信に変わっていきました。また、大学生になってから、ただアルバイトをして、勉強をするという特に何も変化のない毎日でしたが、この長期研修に思い切って挑戦することで、一生忘れることのできない特別な時間を過ごすことができました。この特別な経験は就職活動で最大限に生かしていきたいと思っています。

所属：外国語学部 英米語学科 3年

出身：都立向丘高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア長期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修生活について】

オーストラリアでは UNSW Global で授業を受けます。クラスは EE (Essential English) と CE (Career English) に分かれています。私は CE2 というクラスから入りましたが、授業では文法、英語を仕事で使う上で使用されるフレーズやボキャブラリーなどを学びました。しかし、CE2→CE3→CE4 とクラスが上がっていくにつれ、使う教材も内容も難しくなっていきます。だから復習はかなり重要になります。（私は復習を怠りテストで痛い目にあいました...）毎日授業が終わった後は必ず宿題をやることはもちろんですが、先生からだされる **extra homework** というのをやるのもいいと思います。また、特に CE4 では実際のビジネスシーンに近い内容を扱います。例えば、実際にある会社を例に挙げ、その会社が抱えている問題にフォーカスしグループで話し合い解決策を挙げていく、といったものになります。簡単にきこえますが私はかなり難しかったです。またプレゼンテーションも CE3、CE4 に入ると毎回のタームで 3~4 つほどあり、出される課題も様々です。私は CE4 の最後の授業で行ったプレゼンテーションが印象的でした。グループで 1 つの **invention** を考えそれをプレゼンする、というものです。一からものを考えプレゼンしなければいけないので大変でしたが、終わった後には大きな達成感がありました。このようなプレゼンテーションはオーストラリアでしかできない事なのではないかと思います。（他の研修先が分からないので何とも言えませんが）プレゼンテーションを通してスピーキング力や自身の表現力を上げたい、という学生におすすだと思います。

【日常生活について】

オーストラリアはホームステイですが、私は比較的自由に生活をさせてもらっていました。帰宅時間は決められていませんでしたし、冷蔵庫も自由に使わせてもらっていました。洗濯物は週 1 回で、シャワーの時間は 10 分程と決められていました。（私たちは **bush fire** が過去最悪の年だったので、お水関係は少し厳しく言われました）。通学や休日に出掛ける際は、大体バスだけでどこへでも行けましたが、少し遠出をする際はフェリーや電車を利用することになるかと思います。放課後や週末は友人と海に行ったり、**national park** に行きハイキングをしたり、シティに出掛けるなどしていました。また毎週土曜日に行われている日本語教室のボランティアに参加したりもしました。他国留学生との繋がりについてですが、クラスにいてもアジア圏や南アメリカなどの友達は何山作れます。私の場合は、友人から本キャンパスにインターンシップで来ている留学生や在学生などを紹介してもらったことが多かったです。休日もよく一緒に出掛けていましたし、何より英語の勉強になる機会が多かったです。自分の伝えたいことをまず話す、そこから正しい英語に直してもらうなどしてもらっていました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの 8 か月間を通して、以前に比べて、かなり行動力と自分に対しての自信がついたのではないかと思います。オーストラリアは他の研修先と違い、授業の時間が短いので放課後など自由に使える時間が沢山あります。それは言い換えると自分から進んで行動し、時間を工夫して使うことが大事だということです。何もしなければ得るものは何もないですし、日本にいる時と何も変わりません。日本にいた時は、何かを始める際、長い時間考えてから行動に移していました。ですがそれは時間を無駄にしてしまっていることに気付かされ、思い立ったらすぐ行動するようになりました。またこの 8 か月間、授業で沢山のことを学ぶことができました。このことは自分の将来を考え直すきっかけをくれました。辛いときもありましたがそれを乗り越えたからこそ、次に何があっても大丈夫だろう、自分なら何とかできるという考えになりました。またこれらを乗り越えられたのは、やはり周りにいる人たちの支えがあつてこそだということも再認識しました。その人たちのおかげで英語力も上がり、もっと自信を持っていいのだと気付かされました。私は帰国後すぐに就活をしなければいけませんが、この研修を通して学んだことを生かしながら自信をもって取り組めると思います。

所属：外国語学部 英米語学科 3年

出身：千葉県立流山おおたかの森高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア長期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修参加の動機について】

私がオーストラリア研修を志望した動機は2つあります。一つは、私は本橋ゼミでビジネス英語を勉強しておりオーストラリアでは唯一キャリアイングリッシュを学ぶことができたからです。つぎに、オーストラリア長期研修は授業時間が短いため放課後に勉強以外のことも挑戦する時間があるからです。

【研修生活について】

研修中 CE2 から CE4 に在籍していました。クラスは上がるにつれて日常英語からビジネス英語によりフォーカスした授業でした。そのため、専門用語やプレゼンテーションが増え難易度が増していきました。クラスメイトは学生だけでなく社会人も参加していたため彼らの経験談を通して海外の仕事等を知る機会がたくさんありました。また、1タームごとに遠足がありました。その中でも興味深かったのはオーストラリアの放送局の ABC スタジオに行ったことです。実際に放送局の中に入りスタジオやメイク室、収録現場等を見ることができました。オーストラリア研修では他の国と比べて授業時間が短いため放課後にクラスメイトと交流したり、趣味の時間に費やしたり勉強以外の事にも励めたのでライフバランスを崩すことなく生活できました。

日常生活ではホストファミリーと生活する上で不安なことがあればコミュニケーションを積極的に取り解決しました。ホストシスターの誕生日やクリスマスなどのイベントはホストファミリーや彼らの親戚と過ごしとても良い思い出になりました。オーストラリアは自然を楽しめる国なので休日は友達とビーチへ行ったりハイキングをして過ごしました。また、クリスマスからニューイヤーにかけて2週間ほど休暇があったのでメルボルンへ旅行に行きました。シドニーでは季節ごとに様々なイベントをシティーで楽しむことができました。オーストラリアは物価やバス料金が高くお金の管理が大変でしたが、お金を使わないアクティビティーもあったのでそれらも楽しむことができました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修を通して、コミュニケーション能力を向上させると共に異文化への理解をより深めることができました。この研修で得た英語力やコミュニケーション能力を維持するだけでなく今後の就職活動やボランティア等に生かしていきたいと思います。また、今後の就職活動はグローバルな事業展開をしている企業を探し自分のスキルをより向上させたいと思っています。

所属：国際学部 国際学科 3年

出身：新潟県立高田商業高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア長期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修国・地域の紹介について】

オーストラリアは1788年にイギリスによる植民地化が始まりました。その年の1月26日は最初の植民船団であるファースト・フリートがシドニーに到着した日であり、オーストラリア建国記念日として現在でも、その日は多くとパレードやイベントが開催されています。しかし、私が経験した建国記念日は、全ての人がその日を祝うものではなく、一部の人はデモを起こしていました。大きな理由として先住民族であるアボリジニの存在です。1月26日は彼らにとって、イギリス人からの差別や虐殺が始まった日でもあるからです。その為、彼らはその日をサバイバルデイ、侵略の日と呼んでいます。彼らの意見に賛成する人や先住民の文化を守ろうと思う人は多く、建国記念日に開かれるアボリジニに関するイベントの数は年々増えているようです。

【日常生活について】

学校は月曜日から金曜日、午前9時から午後1時半と終わる時間が早いため、放課後に友達とでかけたり、ボランティアや勉強をしたりすることができました。シドニーでは毎週様々なイベントやストライキ等があり、参加することもありました。とくに気軽に参加できるボランティアが多いなと感じました。環境保護や、食品ロス、障害者支援、スポーツ関係などが多くあったと思います。私は日本語教師のアシスタントと、食品ロスの問題に取り組む団体でボランティアをしました。興味のある方は、インターネットや現地の学校の先生に聞いてみると良いと思います。ホームステイ先では、ホストの英語に慣れることがとても大変でした。他にも家庭によってルールがあると思います。私が滞在した時期は森林火災が酷く、各家庭で水の制限がかかりました。そのため、シャワーの時間を出来るだけ短くするように心がけました。ホストとの生活は大変な面もありますが、学びの場にもなると思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

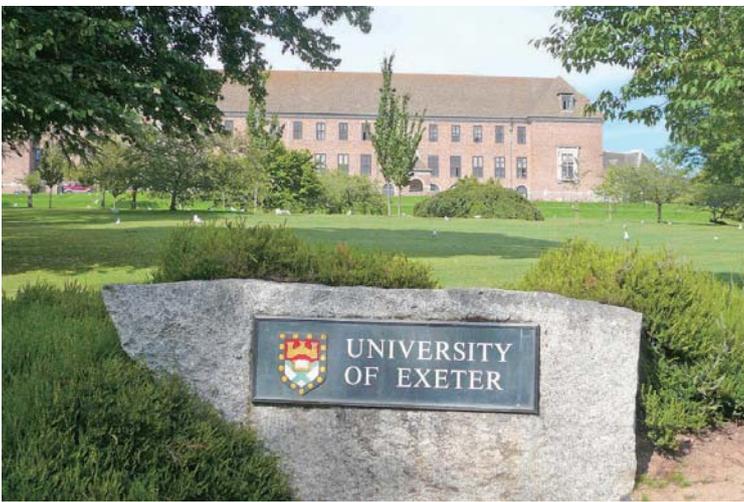
日本がどれだけ安全でルールを守る人が多いのか、そして海外の人から良い印象を持たれていることを実感しました。一方で、ジェンダー、育児休暇、食糧廃棄などの改善が遅れている問題も多々ある事を知りました。また、学生も社会人も過度なプレッシャーを感じる事、正しいルールにのらなければいけない、という雰囲気がオーストラリアにはあまりありませんでした。今後の学生生活では自分の意見を言うことを恐れずに、また人の意見をしっかりと聞き、学業に励んで行きたいと思います。卒業後は国際協力に関わる仕事をしたいと思っています。シドニーで地球温暖化のストライキに参加した際、現地の中学生、高校生は授業を欠席しストライキに参加していました。10代のころからそのような問題に興味をもったのは、知る環境や機会があったからだと思いました。私も日本で国際問題や環境問題について正しい情報を多くの若い人に伝えられるようになりたいと思いました。

イギリス (第 27 回) / エクセター エクセター大学

INTO University of Exeter LLP

University of Exeter
INTO building
Stocker Road
Exeter EX4 4PY
United Kingdom

Tel : +44 [0] 1392 264282
Fax : +44 [0] 1392 264277
E-mail : into@exeter.ac.uk
www.intohigher.com/exeter



イングランド南西部にある国立大学です。英国大学ランキングでは毎回トップ 10 入りをし、入学することが難しい名門校です。全英で最も美しいキャンパスと認められている 3 つのキャンパスには、13,500 名を超えるフルタイムの学生が在籍し、そのうち 100 以上の国から 1,500 名の留学生が集い、勉学に励んでいます。また世界のトップ大学 1 パーセントの中に入り、2012/13 年度にはタイムズ紙の調査で「最優秀大学」に選ばれたように質の高い教育だけでなく、学生のサポートと指導に関しても高い評価を得ており、学習・生活環境が充実しています。

研修概要

授業科目

会話、聴解、作文、講読、英国研究、オンライン言語発達
その他

期間

8月中旬～翌年3月下旬 8ヵ月

教育内容・クラス

大学内の Duryard House で、英語の能力別にクラス編成。
世界各地からの留学生とともに受講します。

宿舎・食事

滞在は、全員ホームステイで、原則として 1 日 2 食用意
してくれます。

奨学金

留学先学費には本学より奨学金が支給されます。

経費 (本人負担) の一例

[2019 年度例]

£1.00 (英ポンド) は 2019 年 8 月時点で約 150 円

※為替レートは変動有り

- ① ホームステイ費：¥960,000 (£6,390)
クリスマス休暇費用：¥37,500 (£250)
- ② 旅行基本費用 (航空券、ビザ手数料等)：¥270,000
- ③ 海外旅行総合保険料：¥61,000
- ④ 提携校授業料：¥400,000
合計金額 ¥1,728,500

その他個人的な費用

参加者の声



エクセターはイギリスの南西部に位置する治安が良く美しい場所です。私たちの勉強しているダリヤードハウスはエクセター大学のはずれにあり、主にサウジアラビア、中国、カザフスタンからの生徒が在籍しています。最初は彼らのアクセントが理解しづらく大変でしたが、みんなとてもフレンドリーで優しく今ではいろいろな話をして英語だけではなく、お互いの国の文化や歴史など彼らからたくさんのことを学び、大変貴重な体験をしています。

外国語学部英米語学科 2 年 本城 真優

所属：外国語学部 英米語学科 2年
出身：都立富士森高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 イギリス長期研修参加（エクセター大学）

【研修国地域の紹介】

私が今回の長期研修で滞在したのはイギリスのエクセターという地域です。エクセターはイギリスの南部に位置していてエクセター大学がキャンパスを置いていることもあり、若者が多く賑わう学生の街です。その反面ロンドンやブライトンなどの大都市と比べると田舎の街という印象があり実際にロンドン出身の学生が不満を口にしていたのを耳にしたことがあります。しかし、街の中心地に出ると 1,000 年近くの歴史を誇る大聖堂やエクセターの地域について学べる博物館もありその背景を学ぶのも一興です。私が今回学んでいたエクセター大学は国立の大学ということもあり広大なキャンパスとそこで学んでいる国際色豊かな学生たちとの出会いが魅力的です。設備も最新鋭のものが多く綺麗なキャンパスで学ぶことに胸が躍る気分になります。加えて、自然も豊かで通学中に木々の茂る小道を歩くとリスやアヒルなどの小動物を見かけることも珍しくはないです。余談になりますがあのハリーポッターの著者がこの卒業生で、『秘密の部屋』に登場した秘密の部屋の着想はこのキャンパスのどこかがモチーフになっているとの噂もあるそうです。ここで、いくつか目を引いた設備について紹介をします。まずは図書館です。エクセター大学の図書館は全 3 階から成っていて 24 時間利用できるようになっています。膨大な量の本のほか、映画の DVD やゲームソフトまで所蔵していたので驚きです。更にオンラインの本も充実していて、事前に配布される ID を使用してログインすれば直接赴くことなくいつでもどこでも資料にアクセスできるのでとても便利です。学習環境としても優れていて、話し合いをしながら学生同士が共同で課題に打ち込める部屋や集中できるように黙々と課題に打ち込むことのできる自習室がたくさん用意されていて目的に応じた使い方ができます。備え付けの共用パソコンも数多く設置されている他、ノートパソコンや携帯電話の充電用コンセントもいたるところにあるのでありがたいです。次にジムについてです。メインキャンパスから徒歩 5 分ほどのところにあるジムはプールやウェイトトレーニング器具のほか球技用の施設も利用できます。学生料金であれば 1 年間 2 万円ほどで利用できます。日本のジムと比較すると 8 ヶ月間しか滞在しないことを差し引いてもとても良心的な価格であるといえます。勉強ばかりでなく良い運動の機会も作れます。

【日常生活について】

私は今回の滞在中寮で生活していました。学生寮は私たちが学んでいた建物から徒歩約 2 分の距離にあるのでアクセスは抜群です。寮生活の良いところはホームステイと比べると自由度が高い所です。部屋に友人を呼んでパーティーをしたり一緒に料理を食べたりなど気兼ねなくできるので気楽に過ごすことができます。また校内だけの友人関係以外にも同じ寮の住人と交友関係も築きやすいです。休日前などに彼らと深夜まで話を交えることもできるのでとても楽しいです。次に交通についてですが、エクセターから旅行などに出かけると大抵の目的地は遠くなるので時間とお金がかかってしまいます。例としてロンドンは電車で 3 時間、片道 5 千円ほどです。反面市内のバスの便は良く、定期券を買えば市内のどこでもそれ 1 つでアクセスできるほどです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修前の私は物事を決断する際に焦るあまりじっくり思慮することなく判断を下して後悔をしてしまうことが多かったです。しかし、今回の研修で様々な苦労や事情を抱えた人に出会いました。そのことが見聞や価値観を広げることにつながり、思慮深い行動を心がけることができるようになったと思います。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：神奈川県立伊志田高校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 イギリス長期研修参加（エクセター大学）

【研修国、地域の紹介について】

エクセターはイギリスの南西部に位置する比較的治安もよくとても美しいところです。 私たちが学んだエクセター大学は 1838 年に設立された長い歴史があり、毎年競争率は約 8 倍にも及ぶ人気の大学です。エクセター大学は総合大学であり学べる専攻数は 120 を超えます。 また、大学では 20,000 人を超える生徒が学んでおり、その中でも 5000 人以上の生徒は他国から来た留学生です。

イギリスへ来てから日本の良い面や悪い面にたくさん気づかされました。良い面は日本の交通機関はいつも時間通りに来ることと、お店での店員さんの接客態度がとてもいいことです。私は毎朝大学までバスを利用していましたが、遅延は日常茶飯事なので毎日早めに家を出ていました。また、レストランや洋服屋さんなどのお店に入った時に、大半の店員さんはとてもフレンドリーで優しいのですがたまに不愛想だったり携帯をいじっている店員さんも見かけました。日本の悪い面はイギリス人と比べると優しさに欠けることです。例えば、イギリスでは道で迷子になっていたりすると助けを求めなくても声をかけてくれる人が多かったです。日本人もみんな親切なのですが、シャイな国民性から助けてと言うまでは大体無視する人が多い気がします。

【日常生活について】

語学学校には主に中国、サウジアラビア、カザフスタンからの生徒がいました。どの国も私は関わるのがこれがほぼ初めてで、最初は文化の違いを強く感じコミュニケーションをとることが難しく感じました。ですが、有難いことに日本に興味を持ってきている生徒が何人かいてその子たちと毎日昼ご飯を食べているうちにいつの間にか彼らととても良い関係を築くことができ、語学力の向上にも繋がりました。また、彼らの紹介で他のクラスの生徒と話す機会も増え友人の輪が広がっていきとても学校生活を楽しむことができたし、いい思い出を作ることが出来ました。また、彼らのおかげで中国、サウジアラビア、カザフスタンという国についてとても興味をもつようになりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

留学を通しての一番の大きな変化は、ものの考え方や味方が変わり価値観がとても広がったことだと思います。他国からの生徒とのコミュニケーションにより英語力の向上だけでなく物事を様々な視点から見られるようになりました。さらに、積極性の大切さも学びました。私は留学当初自分の英語力に自信がなく自分の意見を全く言えないでいました。ですが、期末テストの終わりに先生からいただいたフィードバックに自信のなさを指摘され悔しく思い最後のタームでは積極的に発言するよう心掛けました。もちろん答えを間違えることも沢山ありましたが間違えた分、自分の成長と自信がとてもつくことに気が付きました。今後も留学で学んだことを大切に残りの大学生生活を頑張っていきたいと思っています。



アメリカ (第18回) / エレンズバーグ セントラル・ワシントン大学

CENTRAL WASHINGTON UNIVERSITY

400 East University Way
Ellensburg, WA 98926, U.S.A.

Tel : 1-509-963-1376 Fax : 1-509-963-1380
http://www.cwu.edu/international-programs/uesl

セントラルワシントン大学は、1891年に現在キャンパスのあるエレンズバーグ市に4年制教育機関として認可されたことに始まる総合大学で、100の学士課程と30の修士課程の専攻があり、会計学・ビジネス・教育学などが人気があります。約11,000名の学生が在籍し、そのほとんどがエレンズバーグに住んでおり、学校外での生徒同士の交流も盛んです。

研修概要

授業科目

会話、聴解、作文、講読、ディスカッション、文法、米国研究、その他

期間

9月中旬～翌年3月下旬 6ヵ月

教育内容・クラス

UESLのクラスで他国の留学生と共に、レベル1(初級)～レベル5(上級)に分かれて受講します。

宿舎・食事

キャンパス内の学生寮で生活。食事は学内の食堂を利用できます。(バイキングスタイル、フードコート)

奨学金

留学先学費には本学より奨学金が支給されます。

経費(本人負担)の一例

[2019年度例]
US \$ 1.00は2019年10月時点で約110円
※為替レートは変動有り

- ① 生活費(秋・冬学期寮費・食費) ※3人部屋選択の場合
¥869,440 (US \$ 7,904)
- ② 旅行基本費用(航空券、ビザ手数料等) : ¥233,110
- ③ 海外旅行総合保険料 : ¥52,580
- ④ 現地加入保険 : ¥73,260 (US \$ 666)
- ⑤ 提携校授業料 : ¥250,000

合計金額 ¥1,478,390
その他個人的な費用

参加者の声



CWUがあるエレンズバーグはとても穏やかで、地域の皆さんもとても優しいので安心して学校生活を送ることができます。また、参加しているUESLプログラムはとてもアットホームで、先生達はいつでも力になってくださいます。CWUの生徒は勉強もしっかりとしつつ、イベントやクラブ活動、その他のアクティビティも全力で楽しんでます。他の研修先よりも多くのイベントが開催されるので、交流を深めたり、英語を話す機会を多く作ったり、様々な文化を知ることができたりと、とても有意義な時間を過ごせました。

外国語学部英米語学科3年 玉木 翠



[Melting Pot]私にとってアメリカを一言で表すならこの言葉です。CWUにはアメリカ人だけでなく、世界中の学生が勉強しています。治安の良いEllensburgにCWUがあり、親切な先生や世界中からの留学生と勉強に励むことができました。また毎日のようにイベントがあり、数え切れないほどたくさんの友達ことができました。留学は最高の思い出であり、Ellensburgは私の第二の故郷です。人生は一度きりです。留学中は困難に直面することも多いですが、やった後悔とやらなかった後悔では大きな違いです。留学しようか迷っているなら絶対に挑戦してください。

国際学部国際学科3年 小林 匠

所属：外国語学部 英米語学科 3年
出身：山梨県立北杜高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.9 アメリカ長期研修参加（セントラルワシントン大学）

【研修国・地域の紹介について】

日本との相違点について、日本に比べて現地はとても寒く雪もかなり積もるのでダウンやウィンターブーツが必須です。服装は日本人のように可愛い服を着ている人もいますが、カジュアルなパーカーとジーンズの組み合わせが多いです。真冬でもあまり着込んでおらずマフラーや手袋をしている人が少ないのが印象的でした。食べ物はアメリカ料理だけでなくメキシコ料理も充実しています。日本食と比べて全体的に塩分が高めです。魚を食べる機会は日本より少ないですが、サーモンがよく食べられます。日本や日本人のよいところは、清潔な所です。アメリカでは学食やファストフード店でもテーブルや椅子に食べかすが残っていて、利用する前に自分たちで綺麗にしなければなりません。また、小さな気遣いがあるところも良いところです。例えば、日本のトイレでは、個室ドアの鍵をかけると色が変わり外側から中に人がいるか分かるようになっていますが、アメリカのトイレにはそれがないので個室ドアの隙間から中を覗いて確認しなくてははいけません。研修先の街は治安が良く安全ですが、シアトルへ出るとホームレスの人々が溜まって煙草やマリファナを吸っているのが気をつけたいです。セントラルワシントン大学は1891年に創立され、学生数は一万人を超えます。SURCと呼ばれる施設には学食やジムがあります。図書館、SURC、24時間開いているカフェではラップトップを借りられます。

【日常生活について】

研修先では寮生活になります。寮ごとにテーマがあり Kennedy Hall は International がテーマのため寮で国際色豊かな友達を作れて留学生には良い環境だと思います。寮の金額は様々ですが高いほど綺麗で設備も整っています。学期ごとに2回、寮の階ごとに会議があります。分からないことやルームメイトとの問題は全て RA に相談するとよいです。イベントについて、放課後は Free Movie や Talk Time、Conversation Corner、日本語会話クラブ、UESL Movie Night などが毎週あります。学期ごとに1回、Seattle Trip があり安めの金額でシアトルへ行けます。他にも色々なイベントが行われます。冬季休暇中の旅行の交通手段ですが、Uber は金額もそれほど高くなく、安全でよいと思いました。他国留学生との交流について、クラスに何人か他国留学生がおり、先生方がペアワークをする際にできるだけ日本人同士にならないように組ませてくださいます。UESL のイベントなどを通じてクラスメイトと交流を深められます。また、International Club というサークルがあり、そこでは UESL 以外の他国留学生と関わることができます。研修先では主にクレジットカードを利用しましたが、洗濯代は現金が必要です。街にはスーパーや百元ショップがありますが、規模があまり大きくないので他に必要なものは Amazon を利用するかシアトルで買い物をする必要があります。食事は基本的に学食を利用し、一番安いミールプラン選びましたがお金は余ります。Thanksgiving と冬季休暇中は学食が閉まってしまうので、自炊など自分で用意する必要があります。学校の Wi-Fi はキャンパスの場所によってつながり具合が変わりますが、生活に支障はありませんでした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して、英語力はもちろん、コミュニケーション能力や積極性などを学びました。現地の学生は社交性に富んでおり、初対面でも話題を広げて話してくれました。今まで私は人と話すのが得意ではありませんでしたが、彼ら他人とどのようにコミュニケーションをとるか学び、私も見習いたいと思いました。また、現地の学生は自分の意見をしっかりと持っており積極的に質問や意見を発言していました。恥ずかしいと思わずに積極的に授業や色々なことに参加していきたいです。そして、留学で身に着けた英語力を引き続き向上させられるように勉学に励み、英語を使う仕事に就きたいです。

所属：外国語学部 英米語学科 3年
出身：私立拓殖大学第一高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.9 アメリカ長期研修参加（セントラルワシントン大学）

【研修国・地域の紹介について】

どこの研修先でも同じことが言えるとは思いますが、日本よりは国の治安状況は良いとは言えないでしょう。その理由として、アメリカでは国民が銃を持つことが許されているということ、繁華街ではホームレスの方が多いということ（基本的には何もしてきませんが）、夜道を一人で歩くことはかなり危険が伴うということなどが挙げられます。一方で、研修先のセントラルワシントン大学がある地域、エレンズバーグ市は日本と同じくらい安全です。穏やかな田舎町で自然はたくさんあるので、地域の方々は子育てもしやすく、暮らしやすいとおっしゃっています。次に、施設についてです。大学のキャンパスはとても広く、その中にそれぞれの専門科目に沿った建物がいくつも建てられており、例えば science の校舎であれば蛇やタランチュラなどがまるで博物館のように展示されていました。加えて生徒が住むための寮、アパート、そして運動場などが整備されています。キャンパスの中心と言えば SURC(Student Union Recreation Center) という建物になります。この中には、劇場、ジム、ホール、コンビニ、食堂などが整備されており、イベントが行われたり、生徒も先生もおしゃべりをしたり、勉強や作業をしたりと、様々な用途で集まる場所になります。大学内には、いくつかパソコンの貸し出しをおこなっている場所があるので、パソコンを持っていない学生にも対応していますが、個人的にはパソコン作業が多いことから個人のパソコンを持って来て使用する方が良いと思います。Wi-Fi 環境は建物内であれば不自由なく使うことができますが、寮内は皆が Wi-Fi を使うことからネット環境はあまり良くないです。（建物間もあまり良くないです。）

【研修生活について】

授業は 50 分授業で毎日同じ時間割というスケジュールとなっています。UESL(University English of Second Language) というプログラムに入り、oral communication、grammar、reading、writing の 4 つ授業を受けます。このプログラムでは、CWU のレギュラー生になるために、アカデミック英語の基本的スキルを学ぶところになります。Oral communication のクラスでは listening と speaking を中心に行います。そして、1 quarter につきどのクラスも 2、3 回プレゼンテーションを行います。Grammar は特に日本人にとっては難なく受けることができると思いますし、先生たちもそれを理解しているので、その上でどういうニュアンスなのか、会話やエッセイでどう使っていくかなども同時に学びました。Reading のクラスではどう英文を読んでいくのかと同時に単語やイディオムの勉強を level3 の時に行いました。Level4 ではそのスキルを使って読解力を高めるとともに、物事の背景知識なども学びました。それに加えて、授業で取り扱った記事を元に summary and response と argument のエッセイも書きました。Writing では最初はエッセイを書くことで長い文章を書くこと、パラグラフの構成などの練習を積んだのち、summary and response、cause and effect、argument について、それぞれの文章構成や、フレーズなどを学びました。どの先生も質問には真摯に対応してくれ、たわいもない話もできるともアットホームなところでした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して、基本的な英語のスキルは上がったと感じています。特にプレゼンテーションと writing と speaking のスキルは著しく上がったと感じています。もちろん授業で先生が教えてくださったおかげでもありますが、その上で、自分で考えて練習をしてきたからだと思います。帰国して、急に英語を話す機会がなくなり、虚無感に襲われ、英語のスキルを落としたいという気持ちになりました。また、現地で出会ったたくさんの方々から色々な考え方や姿勢などを学ぶことは私にとって興味深いものでした。これらのことから、進路は英語を使った環境の職場や、グローバルな会社などを考えて就職活動を進めているところです。また、授業で学んだことは残りの学校生活及び、職場でも活かせるよう精進していきます。

所属：国際学部 国際学科 3年
出身：神奈川県立城郷高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.9 アメリカ長期研修参加（セントラルワシントン大学）

【研修国・地域の紹介について】

CWUのあるエレンズバーグは、静かで安心して勉強に取り組むことができる環境です。CWUに到着した9月末にはすでに、とても寒く驚いたことを覚えています。10月には厚手のダウンジャケットを着始めて、本格的な冬が始まるとマイナス10℃台の日々が続きとても辛かったです。アメリカ生活で一番私が苦勞したことはトイレでした。アメリカの個室トイレはドアの下に大きな隙間があり、個室に入ると足元が外から見える状態になります。トイレについては最後まで慣れることができませんでした。文化面では握手、ハグ、ハイタッチなどを初対面でも頻繁に行うので、そのような文化があまり根付いていない日本人からすると、最初はタイミングや力加減が分からず現地の方々から不自然に思われたこともありました。しかし多くの人と出会う中で、私自身もそのような文化を享受することができるようになりました。そして、CWUにはアメリカ人学生のほか、世界中から来たたくさんの留学生がいました。彼らは自分の意見をはっきりと言います。日本人は静かで発言をしないとされています。外国人学生と日本人を比べてみると、多くの外国人は、彼らの意見やアイデアをすべて伝えるのに対し、私たち日本人は状況を把握し必要なことを発言するのだと思いました。留学前は無口でいることは悪いことだと思いましたが、空気を読む事は日本人の良いところなのではないかと思いました。

【日常生活について】

まずは、寮についてです。私の住んでいた **Kennedy Hall** は国際交流が盛んで、アメリカ人学生のほか様々な国の留学生が住んでいました。また、比較的小さい寮ですので自分から積極的に行動すれば、寮のほとんどの人と親しくなることができました。アメリカ到着後まもなくは全く英語が話せませんでしたが、寮のみんなはそんな私にも優しく話しかけてくれました。寮のみんなのおかげで私のスピーキング能力は向上したと思います。それに加え、祝日や長期休暇の時は自宅にも招待してもらい、実際にアメリカの文化や家庭を体験することができました。そしてCWUはイベントが充実していました。一番印象に残っているのはスピーチのイベントで、日本のプレゼンターとなりたくさんの人の前で英語で発表したことです。とても緊張しましたが終了後の拍手や友達と先生から褒めてもらい、本当にいい思い出です。また冬休み中にはシカゴ、ニューヨーク、ヒューストンに訪れました。親戚がヒューストンに住んでいるので、クリスマスと一緒に過ごしアメリカのクリスマスを体験することができました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して学んだことは自分に自信を持つことと、積極的にチャレンジすることです。英文法や発音のミスを恐れて、自分の意見を言えないことが当初はありました。それを相談すると友達や先生は、ネイティブスピーカーでも完璧な人はいないのだから気にすることはないと言われました。その言葉により自分に自信を持ち、会話することで友達がたくさんできたと思います。また、なにごとにも積極的にチャレンジすることで新たな出会いや、得ることもたくさんありました。一步踏み出す勇気があれば未来をよい方向に変えることができると思うので、今後の人生で困難に直面しても、積極的に挑戦したいと思います。長期研修を通して英語力を向上することができたので、将来は海外で活躍する人材になりたいです。

北方工业大学



北方工业大学

北京市石景山区晋元庄路5号 100041

Tel : 86-(0)10-8880-3237

Fax : 86-(0)10-8880-3581

寮 Tel86-(0)10-88803355

http://www.ncut.edu.cn/

北方工业大学は工業を始め、理科、文科、法律、経済などの学科を含める総合大学です。海外の大学との交流を重視し、既にアメリカ、ドイツ、日本などの国と交流契約を結んでいて、大学は国家から認定される外国留学生を受け入れる資格を持つ大学で、大学は特色のある留学生向けの中国語教育と留学教育を展開しています。中国各地から学生が集まり、大学プログラム、大学院プログラム、生涯教育プログラムの提供をし、主に大学プログラムに焦点を充てています。在校生総数は約 14,300 人、内全日制在校生は約 11,900 人です。

研修概要

授業科目

語法・作文、講読、会話、聴力、中国文化、ビジネス中国語

期間

8月上旬～翌年3月中旬 8ヵ月

教育内容・クラス

8月中は拓大特設クラスで受講し、9月から5段階の国際混合クラスに分かれて受講します。また、1月中は拓大特設クラスでHSK6級対策授業を受講します。

宿舎・食事

学内のホテル（国際教育中心）で生活します。そのため、一般客のステイもあります。

奨学金

留学先学費には本学より奨学金が支給されます。

経費（本人負担）の一例

[2019年度例]

RMB1（人民幣・元）は2019年12月時点で約18円

※為替レートは変動有り

① 寮費（食事なし、食費は学食15元～外食60元、270円～1,080円）

ツインルーム：¥180,000（1日約45元218日計算）

※洗濯機：180円（1回使用10元）、保証金14,400円（800元）

② 旅行基本費用（航空券、ビザ手数料等）：¥105,790

③ 海外旅行総合保険料：¥60,670

④ 教材費他：¥16,000（教材費200元、現地加入保険640元）

⑤ 提携校授業料：¥50,000

合計金額 ¥412,460

その他個人的な費用

参加者の声



長期研修に参加したことで今まで気づかなかった中国の良さをたくさん感じる事ができたのが一番良かったです。中国に対して悪いイメージを持つ人もいるかもしれませんが、今回初めて中国に滞在してみて中国人は情に厚いと心から感じました。また、中国の風習や中国人の考え方を知り、日本とは異なる部分を理解することができました。さらに、中国での学びや経験によって自分の価値観が大きく変わり、視野も広がりました。少しでも興味があるのならばぜひ中国長期研修へ参加することをおすすめします。

外国語学部中国語学科3年 佐藤 穂乃美



私が今回の長期留学に参加するうえで意識した点は、「コミュニケーション能力の向上」、「海外へ人脈を広げる」この2つです。この2つを意識したからこそ、留学中自分自身への成長が感じられたと思います。さらに海外へ人脈を広げることで彼らから多くのことを学び取り自分自身への将来に対しての考え方が変わるといいます。このような貴重なチャンスは研修中いっぱいあります。ぜひ、次に長期研修に参加する皆さんは、自分でこのチャンスを掴んで楽しい留学生活を送ってください。

外国語学部中国語学科2年 塚本 大輝

所属：外国語学部 中国語学科 2年
出身：私立昭和第一学園高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 中国長期研修参加（北方工業大学）

【研修参加の動機について】

私は在学中にこの長期研修プログラムを利用して絶対に留学に行きたいと考えていました。外国語学部に入學したのなら、その国で実際に言語を学び、文化や習慣を見てみたいと考えていたからです。そして今回私が参加したのは中国の北京でした。北京を選んだ理由としては、主に中国語の標準語に近い北京語が話されているからです。そして中国の首都である北京で生活してみたかったというのと、観光地も多く伝統文化が色濃く残っているので、中国の歴史を肌で感じるができるのではないかと考えました。これらの理由から私は北京の留学を志望しました。

私は留学に行くのなら早めでもいいのではないかと思います。なぜなら、留学に行くことによって言語を学ぶことへのモチベーションが向上し、今後の授業や学生生活での取り組み方が変わってくるかもしれないからです。それに、留学は自分を変えることのできる良い機会なので、早めに経験しておいて損はないと思います。

【日常生活について】

私たちが住んでいた場所は学校内にあるホテルでした。部屋は2人部屋でした。ルームメイトは主に日本人でしたが場合によっては別の国籍の人とルームメイトになることがあります。1週間のスケジュールは月曜日から金曜日まで授業で、土日は休みというようになっていました。学校内には食堂がいくつかあり、スーパーもあったので大学内だけでも生活に困ることはありませんでした。休日や、授業後は大学内で過ごしたり近くのショッピングモールにバスや地下鉄で行ったり、観光地に行ったりしました。北京は観光地が多くあり、沢山の歴史的な建造物や観光スポットに訪れることができました。それに中国の学生や同じ寮に住んでいる他の国の学生とご飯を食べたり出かけたりして過ごしていました。長期休暇では旅行など沢山の貴重な経験をすることができました。留学先では常に刺激があり、様々な国の学生と交流をして国際感覚を養うことができました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は今回の留学を通して語学力の成長はもちろん、それ以上に国際的な考え方や価値観を養うことができました。実際に中国で生活を送り現地の人と交流をしたことによって、今まで自分が持っていた中国のイメージと実際の中国との違いに気が付くことができました。日本では中国に対する良くないイメージの報道が多くみられ、それによって偏見をもってしまい、マイナスな印象を抱いてしまう人が多いです。例えば衛生面や、マナーなど良くない印象を持たれがちですが、実際にはそうではありませんでした。基本的に皆人柄もよく日本人よりもフレンドリーな人が多いと感じました。正直私もあまり良い印象を抱いていませんでしたが、実際に中国に行ったことにより中国に対するイメージが大きく変わりました。その他にも中国以外の国籍の学生と会話をしたことにより、その国の人の価値観や日本では知ることのできなかつたことを聞くこともできました。

今後の学生生活ではこの留学で得たことや、学んだことを活かすためにいろいろなことにチャレンジしていきたいです。将来、中国語を用いた仕事に就くことができるよう今後も様々な経験を積んでいきたいです。

所属：外国語学部 中国語学科 2年
出身：私立堀越高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 中国長期研修参加（北方工業大学）

【研修参加の動機について】

私は高校生の時から、大学に入学した後、少なくとも一回は長期研修に参加して、外国の文化に直接触れ、自分の語学力の向上をし、留学後の将来はそのマスターした外国語を使って仕事がしたいと思っていました。ですが、正直に言えば、大学入学後 0 スタートで中国語を学び始めた頃、中国語を学ぶことが楽しくなかったことは本当に今でも忘れません。当時は、1 年間中国語を学んだあと、転部して違うことを学び始めようと思っていました。しかし、授業を受けていくうちに段々と中国語が好きになり、何時しか中国人の先生中国から来た留学生と簡単な中国語で会話するようになっていきました。その後、先生のアドバイスを受けて中国に留学したいという気持ちが強くなりました。留学の場所を選ぶ過程の中で、時間をかけて台湾に留学しに行くか或いは中国に留学しに行くか本当に悩みました。なぜなら、海外旅行に行ったことはあるものの、アジア圏の国に旅行した経験がないからです。そのため、先生方、多くの友達、拓殖大学に留学している中国人のアドバイスを聞いて、北方工業大学へ留学することになりました。

【普段の生活について】

私のルームメイトは韓国の釜山からきた留学生でした。驚くことに彼は以前に日本語を学んでいた経験があり、普段部屋にいるときや、ご飯を食べに行くとき、遊びに行くときは日本語で会話をしていました。彼のおかげで、何人か韓国人の友達もできました。ルームメイト以外の韓国人の友達とは基本的に中国語で会話するので、徐々に自分の中国語がレベルアップする感覚がありました。また、北方工業大学では、留学生たちのために 1 人ずつアシスタント学生を手配してくれるため、私はこの機会を利用して積極的に交流をしました。毎週 1 回アシスタント学生と会って中国語で会話をしてコミュニケーション能力を高めつつ、授業でわからない事やこの場面で何と云っていいかわからない事をすぐに質問したりしていました。これ以外にも毎週水曜日に日本語サークルに通いアシスタント学生以外の中国人学生と交流をしたりしていました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は今回の長期留学を通して、自分自身の語学力向上が体感できただけでなく中国の文化、歴史、というものを体感することができました。また、留学当初不安だった中国人の対応や人柄のことにに関しては、実際に体感してみても初対面の人にはすごく冷たい感じがしました。しかし、中国人と交流するうえで友達の関係になるとすぐ親しみやすくなります、そして良い友達関係が築きあえると思います。今後この留学を通して、さらに中国語の語学力もさらに伸ばしつつ、中国人の友達、日本の友達または先生方に自分が体感した中国を共有し、自分が将来やりたいことを見つけ出そうともいます。

所属：外国語学部 中国語学科 2年
出身：香川県立高松商業高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 北京長期研修参加（北方工業大学）

【研修に行くまで】

私がかねてより中国史に興味があり、2年の授業でも中国史を選択したりしていました。政治や近代中国にそれほど興味はなかったのが本音なのですが、授業を受けていくうちに近代から今にかけての中国にも目を向けるようになり、やはり昔から好きな古代中国や中国の現状について現地で学びたいと考えたので北京留学に応募しました。

留学が決まってからは、何度か事前研修会があり、前年度留学生だった先輩方からいろいろな話を聞くことができました。中国に行く前から当時の中国の情勢を調べたり、研究テーマを決めたりと実際「なんでこんなに。」と考えるような時もありました。しかしこれが本当に役に立ったなと感じています。

留学ですからもちろんお金はかかります。一人暮らしをしている身なので、更に親に負担をかけることにはなりませんが、両親も進めてくれていたのでありがたかったです。

実際出発当日に電車で人身事故などが発生すると見越して早めに出発してよかったです。実際に遅延が発生していたし、荷物も少なくないので家から出て、家に帰ってくるまでが留学だと意識することが大切だなと感じました。

【研修生活について】

北京についてから、まず携帯のSIM契約や銀行カード発行などに行きました。大学の日本語学科の生徒さんがついでくださっていたのでスムーズに契約できました。宿泊した部屋については、最初1週間は、紅葉公寓という外国人留学生用学生寮だったのですがそれ以降は国際教育中心という来客用のホテルのような場所に住むことになりました。実際の生活では、この部屋はとても広く過ごしやすいのですが、天井にライトがなく微妙に暗い部屋ではありました。ただデスクライトもあり勉強は可能でした。

授業面ではすべて中国語で行われるのでとても身に付きました。先生方はそれほど難しくない中国語で話してくださり、実際に使える中国語を学ぶことができたと感じています。中間テスト、期末テストの2回のテスト期間があり、自分がきちんと習得しているかの指標にすることができました。他にもレクリエーションとして故宮、頤和園、天壇公園など北京の名所を訪問しました。唯一クラス分けテストを受けさせてもらえなかったのが残念ですが、クラスのレベルは低いわけではなくちょうどいい内容でしたのでモチベーションにもなりました。

普段の生活面では、私はジムに通っていたのですが、途中からコロナウイルスの影響もあり閉館となってしまいその期間とほかで払っていたお金の払い戻しができずになってしまい残念でした。こういうところではやはり強気でいかなければならないなと感じました。

ほかにも他国の留学生と遊んだり、北京を観光したりしました。その時タクシーに乗ったのですが、中国の運転手の方はよく言えば陽気な方が多く、日本との仕事に対する向き相方が違うなど驚かされました。これは一回だけなのですが、タクシーでの帰宅中に自転車をこすられたようで私や友達に乗っているのも関わらず、その相手の方と延々と口論をしていた方もいました。もちろん驚いたのですが、中国のタクシーの運転手は本当に強くないとなれないなと感じました。交通マナーもお世辞にも良いとはいえず、歩行者やほかの車に道を譲る概念がないと感じました。これには戸惑いましたが、文化の違いからくるものなのだろうなと感じました。

私が本当に感激したのは食堂の多さと、料理の豊富さです。更に価格もとても安く、ついつい食べ過ぎてしまいました。北方工業大学には10以上の食堂があり、全て回ることはできませんでしたが、いくつかは回ることができました。

また中国では大人気でも日本ではそれほど食べられていない中華料理が多いなという印象を受けました。個人研究は決めかねてはいましたが、日本の中華料理と中国の中華料理の違いにしようと考えつきました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回は、早期帰国となり残念ではありましたが、ほとんどないことを経験できたと考えべきだと思いました。実際に封鎖されつつあった北京の街並みを見ることもできましたし、外出許可証なども実際に提出しました。(まだ学校規模でしたが) このような経験を活かし、日本でも流行っているコロナウイルスへの対策を考えて行動していきたいと考えていますし、落ち着いてまた来年度の留学生が派遣できるということになれば、自分の経験を活かして何かあった場合の対処法や無駄にお金を取られた経験を伝えることが可能だと思います。

そして拓殖大学に多く在籍している中国からの留学生方と積極的に交流していきたいと考えています。例えば私は中国語劇愛好会に所属しているので、新一年生を勧誘するとともに、中国人留学生の勧誘も積極的に行っていきたいと考えています。

この経験は将来にも生かされると思うので、どんなことにも就職活動にも貪欲に柔軟に取り組んでいきたいと考えています。

所属：外国語学部 中国語学科 2年
出身：埼玉県立川越西高等学校卒業程度認定試験
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 中国長期研修参加（北方工業大学）

【志望動機について】

私は、中国人の両親の影響を受け、拓殖大学の中国語学科に入学させていただきました。幼い頃から中国語を聞いて育って来ましたが、中国語を一から学ぶ機会がなかったため、もっと中国語や中国について理解し、中国語を使ってコミュニケーションをとりたいと強く思うようになりました。1年間の必修科目でも、中国語を学ぶことができましたが、現地に行って、現地でしかできないことや環境で学べることもあるのではないかと思います。長期留学に参加させて頂くことになりました。長期留学をするのにおすすめの学年は、2年生で行くのがいいと思います。1年生で短期留学を経験していると尚良いと思います。履修しておくべき科目は、私は、時事中国語を履修してよかったなと思いました。時事中国語では、中国で流行っているものや、日本での中日関係などが授業で知ることが出来るので、現地で色々なお話をする時の話題になるとと思います。

【日常生活について】

宿泊は寮で、最初の2週間は「紅葉」という寮で、2週間後以降からは「国際教育中心」という寮になります。どちらも二人部屋になります。宿泊手続きをする際に、最初に宿泊費とは別に「押金」という保証金を払わなければなりません。寮を出る際に戻ってきます。保証金の証明書を渡されるので、それを最終日まで無くさないように保管しておきます。寮はどちらも門限があり、23時30分が門限になります。門限が過ぎると寮の出入りができません。寮は基本的に禁煙、飲酒禁止です。また、冷蔵庫やアイロンや電気鍋などは部屋に置いてはいけません。どちらの寮にも、留学生用のキッチンがあり、決められた時間内であれば自由に使用できます。これらが寮についての注意事項です。私は国慶節時に、天津へ一泊二日の旅行に行きましたが、旅行に行く際は必ず、日程、同行者、交通、宿泊先を現地主事の方や先生、一緒に留学に来た仲間事前に事前報告してください。普段の授業意外に、課外授業では「颐和园」や「天坛公園」、「长城」など、先生が色々な観光名所に連れ行ってくれます。他にも、国際文化フェスティバルというイベントもあります。国際文化フェスティバルでは、各国々のブースが作られ、母国の伝統的な展示物や見せ物をしたり、料理を作って無料で提供したり、販売したりして、他文化体験が出来るイベントです。チーム内で協力し合って準備し、出来上がったものを共有するのはとても楽しく達成感がありました。私達は、おにぎりを作って販売しました。他国の留学生については、同じ寮に住んでいる留学生や、同じ授業を受ける人達や違うクラスの人達とも友達になり、放課後一緒にご飯に行ったり、週末は遊びに行ったりもしました。お金の管理については、私は現金を日本から持って行きました。ただ、口座を作るまで大金を持ち歩くことになるので、盗難や管理が心配な人は、日本でカードを作っておいた方がいいと思います。学校内で使う食堂のカードや、電車やバスに乗る際に使用する交通カードの補充以外は基本的に全て、携帯で支払います。現金でも支払いは可能ですが、携帯一つで手間がかからない為、多くの人が携帯から支払いを済ませています。携帯電話のアプリの「WeChat」や「支付宝」を使用することが多いです。荷物のやりとりについては、学校内に「近邻宝」という宅配ボックスが設置してあるので、WeChatで登録をすれば、荷物が届いた際に通知が来るので、宅配ボックスまで取りに行けば、荷物を受け取ることができます。配達会社によっては、学校の門の前に届けたというようなメールで知らせてくれるので、メールが届いたらそこまで取りに行けばいいです。私は、洋服を多めに持って行ったのですが、大体の生活必需品は現地で購入できますし、「淘宝」や「天猫」などの通販アプリは値段が安いので、私はよく利用していました。色々な洋服を着たいと思っている人は、少なめに持って行き、現地で購入するのがいいと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して、中国語を学びながら、他国の文化や価値観、人間性などの違いを知ることができたため、自分の視野が広がっただけでなく、生活面では、両親へのありがたみを実感することができました。こうして留学を無事に終えることができた環境全てに感謝し、今後の学生生活では、普段から中国語を自分から意識して話し、拓大にいる中国人留学生と積極的に交流していこうと思います。また、さらなる学力の向上を目指し、中国語検定 2 級や、**HSK 6 級**にもチャレンジしていき、中国語だけでなく、他の言語にも挑戦していきたいです。進路については、まだ具代的に決まっていない為、私の希望である「外国語を使った職業」のうち、自分に合った職を見つけられるよう、説明会や資格取得に励んでいきたいと思っています。

所属：政経学部 法律政治学科 3年
出身：愛知県立瀬戸西高校
2017.4 拓殖大学入学
2019.8 中国長期研修参加（北方工業大学）

【研修参加の動機について】

私は1年生の頃に第二言語の必修科目で中国語を学びだし、中国の長期研修に参加することにする。最初は中国語に興味はなかったが1年生の春休みに上海の短期研修に参加し、中国の文化や人に触れもっと中国語が学びたいと思い2年生になると必修科目だけではなく拓殖大学の中国語の語学授業を受けることにする。その授業の中には言語だけではなく中国の文化や歴史も学ぶことが出来、現地に行って自分の目で現地の文化や歴史に触れたいと思い長期研修に参加することを決意する。私は3年生の8月から長期研修に参加しましたが、決して遅くはないと思います。就職活動など心配もしていましたが現地でもしっかり対策や自己分析をすることが可能です。そして私は中国の長期研修生の中で文京キャンパスは私が一人です。しかし中国語学科の友達や日本人だけではなく中国人の学生や韓国人の留学生とも仲良くなる事が出来ます。出発する前には自分の目標をしっかり決め、研修が始まってもやり遂げることが大切です。

【日常生活について】

放課後は検定の勉強をしたり、北京北方工業大学のダンスサークルに所属し中国人の友達と学校で踊ったり、楽しい日々を過ごすことが出来ます。北京北方工業大学のダンスサークルは毎年北京の大学が30校ほど集まる大会に出ることが出来、私もチームのメンバーとして参加し、5位を取ることが出来自分にとって良い経験になっています。北京北方工業大学には日本語サークルやバトミントンなど他にも多くのサークルがあり、中国人の学生と交流をしたい人はサークルに入ると良いと思います。休みについては建国記念日と春節の時に1週間ほどの休みがあります。その時に旅行に行くことをお勧めします。私は天津と上海に行きましたが、まったく北京とは違う街並みで気分転換や中国の違う一面を見ることもできます。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは新しい事に自分から挑戦して行く気持ちや、どんな国の人とも会話を楽しみ仲良くしていくことです。私は大学に通っていても何かに挑戦したり、大学で中国人の留学生たちと交流がなかったのですがこの研修を通して自らの目指すものへしっかり挑戦し、大学内での留学生との交流をしていきたいと思います。進路については中国語通じてグローバルで働ける女性になりたいと思います。多くの企業が海外との営業や関係がある中でそこで少しでも活躍できるような人材になりたいと考えています。

所属：外国語学部 中国語学科 3年
出身：茨城県立下館第二高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.8 中国長期研修参加（北方工業大学）

【研修生活について】

授業は1～5班に分かれていて、クラスごとにレベルや進み方が異なります。5班のレベルが一番高く、授業も他のクラスとは少し異なります。クラスによって課題が違うが、私のクラスは授業で習った単語の文を考えたり、教科書にある写真について習った分法を使い、文章を作ったりしました。課題や復習をきちんとこなしていれば、ついていけなくなることは無いと思います。あと、拓殖大学の生徒は必ず受けるビジネスの授業があり、ビジネスコースで習った事も多く出てきましたが、辞書で調べた意味と実際に使う意味のニュアンスが違うため、興味深いなと感じました。また、HSKの対策が出来る授業も行われとても自分の力になると思います。そして、中国で有名な頤和園・故宮などに行くことができたので、実際に中国の歴史や芸術を生で見て感じて、良い経験になったと思います。

【日常生活について】

寮は、同じ学校・国ごとにだいたい分けられていて、3階まで食堂があり自炊するためのキッチンもあります。ただ少し汚くて利用はしませんでした。洗濯機と乾燥機もありますが、数が少ないので人と被らないようどの時間帯なら空いているか、週に何回洗濯するか決めていました。寮のルールとして部屋でお酒・たばこは禁止され、同じ寮生でも部屋に寝泊まりすることも禁止でした。ロビーは24時に施錠されます。そして、泊まりで旅行に人はロビーの従業員と担当の方に連絡します。

授業が終わった後に時間は割とあったので近くのお店に出かけている人も居たし、サークルで活動している人も居ました。他国留学生は韓国やアフリカの方から来ている人が多かったです。気さくに話しかけてくれたので、お話ししたりご飯を一緒に食べに行ったりしていました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して、語学力の向上と中国に対するイメージが変わりました。語学面に関しては、生の中国語に触れることが出来たことが良かったと思うし、自分に何が不足しているか知ることが出来ました。そして、中国は日本よりも携帯での支払いなど進んでいるところの分野もあるのを実際に行って、とても便利だと実感しました。私の勝手なイメージで、中国人は自分のことだけで他人の事はあまり助けないと思っていたけど、困ったときは親切に教えてくれるしフレンドリーな人もいるなと思いました。今後の生活では、留学時に他の留学生とコミュニケーションを取っていたので、これからも自分から積極的に機会を見つけてコミュニケーションを取っていきたいと思っています。留学をしたので、中国語・韓国語など語学を使える職に就きたいと考えています。

所属：外国語学部 中国語学科 3年
出身：都立杉並高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.8 中国長期研修参加（北方工業大学）

【研修参加の動機について】

私は、3年生で長期研修に参加しましたが、1年生の時から長期留学に行きたいと考えていました。しかし、成績が出願資格を満たしていなかった為、2年生では参加できず、3年生の時に参加することにしました。なぜ参加したいと思ったかという、中国語を勉強しているうちに、話せるようになるのが楽しくなって、もっと話せるようになりたいと思ったからです。同じ中国語圏だと台湾という選択肢もありましたが、中国に比べると費用が高い、発音や漢字が標準語とは違うといった点から、北京を選びました。留学に行くタイミングとしては、私は、2年生の方が良いと思いました。3年生で参加するデメリットは、やはり就職活動に影響が出てくることだと思います。夏のインターシップや、企業説明会に参加できないだけでなく、3月以降の帰国だとエントリーに出遅れてしまうこともあります。また、留学先で企業研究をしたり、エントリーシートを書いたりもしたので、気持ち的に余裕が無くなってしまったり、中国の勉強等の留学生活に力を入れられなくなり、本末転倒になってしまうと思いました。

【研修国・地域の紹介について】

研修を通して、中国と日本の違いは多々あると感じました。文化や習慣、服装などから、日本人は周りからどう見られているかを気にし、中国人はあまり気にしていないということを感じました。中国人は、普段話すときに声が大きかったり、道で痰を吐いたりしているところも見ましたが、日本人はあまりそういう人はいないと思います。服装も、中国人は基本的に着たい服を着ていました。例えば、すごくカラフルなものや、制服のようなものを私服で着ていたりもします。中国人の人からどう見られるかを気にしない性格は、日本人からすると、態度が大きい等といった見方をされるかもしれませんが、これらのことは悪いことではなく文化や習慣なので受け入れるべきだと思います。実際、日本人は気にしすぎなところもあると思うので、中国人の考えが羨ましく思うこともあります。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は、この研修で様々な事を経験しました。そこで、語学以外にも、国籍を超えた人との関わり方や意思の計り方、時間の大切さ、努力すること等、たくさんのことを得ました。私はこの経験を活かして残りの学校生活をより良いものにしたいです。進路でも、直接中国語を活かせるとはいかなくても、留学生活で得たことを発揮できるように自分なりに考えていこうと思います。

所属：外国語学部 中国語学科 3年
出身：神奈川県立新栄高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.8 北京長期研修参加（北方工業大学）

【研修参加の動機について】

高校生の時に進路を考える時から中国語を話せるようになりたいと思っていました。そして、拓殖大学に入学し毎日中国語を学んでいるうちに、やはり現地へ行って中国人の話す環境でなければ話せるようにならないと思い、留学を決意しました。留学へ行くにはお金も必要であり、海外に住むので、不安なことが多いかと思います。ですが私は留学したい気持ちがとても強く、悩むことはありませんでした。留学することはマイナスな点がありません。自分を成長させられるとてもいい機会です。私も、留学経験がある方から留学をすると自分の価値観や物事の考え方が変わり、成長すると言われ留学へ行きたいと思ったきっかけにもなりました。私は、3年生の時に留学へ行きましたが、3年生で行くことはあまり勧めません。2年生で行くのがいいと思います。なぜなら、3年生で留学へ行くと就職活動のスタートが遅れるからです。3/1に解禁する時には日本にいた方がいいと思います。情報収集も日本にいない分遅れてしまうと思いますし、やりたいことが決まっている場合会社説明会やセミナーに参加できないことがあり、業界や企業のことを理解しないまま解禁日を迎え企業にエントリーすることになります。それはリスクがあるので、やはり就職活動には時間の余裕が必要なので2年生で留学へ行くことを勧めます。

【研修生活について】

授業についてです。

まず8月中は拓殖大学全員と韓国人留学生と一緒に午前は HSK の授業、午後は北方工業大学の生徒の方が授業をしてくれます。授業ではもちろんすべて中国語で進められます。授業では、先生がプリントを用意してくれるので、教科書を買う必要はありません。午前の授業内容は、文章を読んで暗記しペアで前に出て発表をしたり、単語と文法も細かく説明されます。午後の授業内容は、日常会話で使われる中国人を主に学んでいました。フルーツや野菜、動物の名前などです。それから、短編アニメを見たりと2つのグループに分かれて会話をする時もありました。

9月以降は中国語のレベルでクラブが分けられそのクラスで年末まで授業をします。この授業では教科書が必要です。全部で5000円ほどかかりました。授業は5種類あり、精読、閲読、口語、リスニング、商業文書です。精読、閲読では文章を読み単語の使い方やその単語を使った例文を自分で作っていました。それから文法を学びました。口語では声を出して読むことが大切なので、文章を繰り返し読んだり、宿題では文章を覚え発表したり自分で作文したものを覚えて発表したりすることもありました。リスニングでは、新しい単語を覚え教科書の問題をひたすら解いていました。商業文書は、ビジネス用語なのでほかの授業よりは少し難しかったです。ですが、2年生からビジネスコースを選択している人は習った部分が多かったので心配はいりません。内容は、教科書の文章を自分たちで少し変えて会話を作り前で発表します。それから、単語の使い方はとても細かく説明されるので分かりやすいです。

年明けからは、拓殖大学全員で HSK の授業を受けます。この授業もプリントで進めるので教科書は買いません。この授業も文章を読み単語を学びます。会話や暗記などはありませんでした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修を通して、中国語の聞き取り、発音の力がとくに身についたと思います。北京へ行ったばかりの時は中国人が何を言っているのか本当にわからず、自分が中国人に何かを伝えるときもなかなか通じず、悔しかったです。ですが、授業が始まり先生の中国語を聞いているうちに聞き取りの力がつきました。アシスタントには、会う

度話せるようになっていると言われ自信ができました。文章を翻訳する力は教科書や授業で学べ、日本でもできます。しかし、会話力をつけるには会話をするのが必須です。日本には普段の生活は日本語なのでなかなか身につけませんが、北京にいると何かを伝えるときも中国語ですし、中国語を話さなければいけない環境というのはとても会話力を伸ばすことができると思います。最初は中国人と会話することが難しくて嫌になる時もありましたが、北京へ行ってまで話せないのも嫌だと思ったのでアシスタントと遊びに行ったりし会話する機会を増やし、会話力を身につけました。話せるようになると、今まで難しく嫌だと思っていた会話も自信を持ってできるようになるので、留学はすごくいい経験でした。せつかく中国語を話せるようになったので、将来は中国語を使って仕事をしたいと思っています。

所属：外国語学部 中国語学科 3年
出身：埼玉県立草加南高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.8 北京長期研修参加（北方工業大学）

【学校生活について】

授業は朝の8時から始まり、11時半頃に終わります。基本的に午後は自由に行動できるので、学食で昼食をとった後は、次の日の授業内容の予習をしたり、学校外へ出かけたりしていました。授業では単語テストの頻度が多く、授業のレベルが私にとって高かったこともあり、日々の予習・復習は必須でした。そのため、日本にいた時よりも格段に学習時間が増えていたと感じています。また、グループワークの課題もよく出されていたので、韓国人やモンゴル人など、日本人以外のクラスメイトと接する機会も多々ありました。

【休日の過ごし方について】

初めの一か月は、学校全体で週末に観光地へ行く予定が多くあり、中国の代表的な観光地にはこの期間にほぼ行くことができました。それ以降は毎週末自由に過ごせるので、バスや地下鉄など公共交通機関を利用して出かけたり、部屋から出ずに飲食の配達サービスを利用して過ごすことも多かったです。また、飲食だけでなく、洋服や化粧品、日用品の買い物も通販がとても便利だったのでよく利用していました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して、一番の目標であった HSK5 級を取得することができました。この語学力を生かして働きたいと考え、現在はホテル業を中心に就職活動を行っています。今後も四年生は授業数が減ってしましますが、授業に積極的に取り組み、学んできたことを忘れてしまわないようにしたいです。

| |
|-------------------------|
| 所属：外国語学部 中国語学科 3年 |
| 出身：北海道伊達緑丘高等学校 |
| 2017.4 拓殖大学入学 |
| 2019.8 中国長期研修参加（北方工業大学） |

【研修参加の動機について】

大学入学時に、将来は中国語を使って観光や航空関係の職に就きたいと考えており、そのためには、中国語を深く学ぶことが必要だと感じていました。中国語学科では、普段の授業でも中国語の細かなところまで学ぶことができますが、実際に現地で生活をしながら言語を学ぶことによって、発音や文法はもちろん現地の人が使っている生の中国語を身につけることができるのではないかと思います。長期研修プログラムに参加することを決めました。

3年生の8月から研修に参加しましたが、2年時に長期研修へ参加することをおすすめします。帰国は翌年の3月になるため、3年生はすぐに就職活動を始めなければなりません。今回は新型コロナウイルスの影響で帰国が早まり、3月から始まる本格的な就職活動には間に合いましたが、いきなりのスタートとなると戸惑いや不安が大きいです。中国では日本のネットワークが使いにくい環境なので、出発前の早い段階から情報収集をしたり、就職課へ通うなど、就職活動への準備をしておけばよかったですと感じています。また、学年問わず、出発前にはなるべく多くの科目に取り組むことをおすすめします。研修中は取得できる単位数が限られているため、取得単位数を気にかける必要があると思います。

【研修生活について】

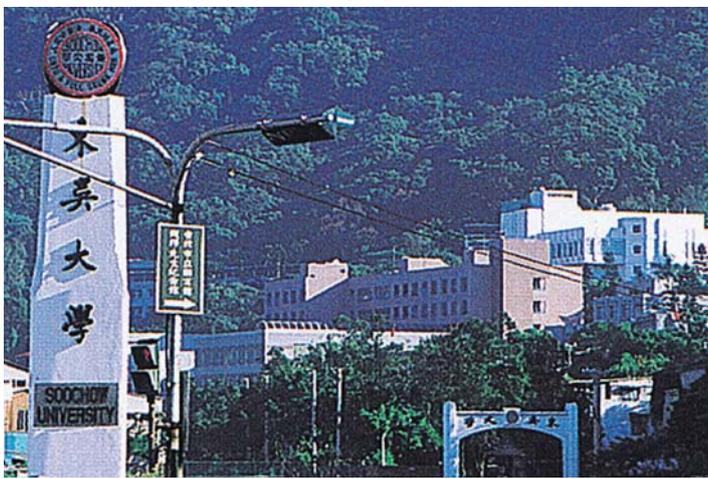
新学期は9月から始まるので、拓大生は8月のあいだ数名の韓国人留学生と共に特別授業を受けます。午前の授業はだいたい HSK4 級レベルの教材を使用して学びます。午後は北方工業大学の日本語学科の学生が先生となり、中国の文化や習慣、よく使う中国語表現、北京での観光など様々な生活に役立つ情報を教えてくれます。

9月になると新学期が始まり、留学生も増え、5つのクラスに分かれて授業を受けます。拓大生はだいたい4、5班の上級クラスに分けられます。私は5班になり、閲読、リスニング、作文、ビジネス中国語の授業を受けました。授業の内容は日本で学ぶものより難しく、予習・復習が欠かせないと感じました。特に閲読の授業では、知らない単語や文法ばかりで、事前に意味を調べて教科書の本文にも目を通しておかなければ授業についていくのが大変でした。課題はあまり多くありませんが、小テストが頻繁に行われます。また、ビジネス中国語は5班の学生向けの授業ですが、拓大生はクラス関係なく全員が受講します。1月になると一学期が終了し、拓大生のための特別授業が始まります。この授業では HSK5 級レベルの内容を学びます。

普段の授業以外では、北方工業大学の先生方が万里の長城、故宮など様々な北京の観光名所に連れて行ってくれます。自由参加ですが、文化を学べるほか、現地の方と触れ合う良い機会にもなりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

言語はもちろん中国の文化や習慣、中国人の価値観を学ぶことができました。日本では中国に対してあまり良くないイメージを持つ人が多いような気がしますが、実際に現地で生活してみると、日本とは異なる部分も理解でき、中国の良いところがたくさん感じられました。また、現地の方との会話の中で自分が日本人だと伝えると、日本を褒めていただくことが多く、日本の良さも再確認できました。この研修での経験を生かし、国内外問わず日本の魅力の発信をしたり、日本のおもてなしを届けられるような仕事に就きたいと考えています。



台湾 (第38回) / 台北市

東吳大学

東吳大学

台湾省台北市士林區臨溪路 70 號

Tel : 886-(0)2-2881-9471 内線 6521

Fax : 886-(0)2-2882-9310

寮

Tel : 886-(0)2-2882-6110

http://www.scu.edu.tw

1900年にキリスト教会監理会により蘇州にて建校され、1954年に台湾で復興されました。中国で創立された当初、米国の大学評議会に Central Univesity of China で登録し、その後 Soochow University = 蘇州大学、中国語で東吳大学となりました。1969年に大学学制の下私立大学としての新生東吳大学としての歴史を歩むこととなり、現在では5学院22系を擁する総合大学で、日本語文学科は日本語教師養成で有名です。台湾各大学の日本語教員、日系企業大手の商社、銀行、メディアなどに多くの人材を送り出していて、中国各地の大学とも交流が盛んで、本学との共催による日本語スピーチコンテストや本学へのセメスター研修生派遣などを行っています。

研修概要

授業科目

聴解・作文、読本、会話、時事中国語、中国故事選、商業会話、華語検定

期間

8月上旬～翌年3月中旬 約8ヵ月

教育内容・クラス

拓大特設クラスを設けて授業を行います。

宿舎・食事

大学内の学生寮に宿泊し、男子は1部屋8人、女子は1部屋5～8人で起居をとものにします。台湾人学生、他の国の留学生との共同生活です。

奨学金

留学先学費には本学より奨学金が支給されます。

経費(本人負担)の一例

[2019年度例]

NT \$ 1 は 2019年 10月時点で約 3.5 円

※為替レートは変動有り

- ① 寮費 (食事なし、食費は1日約¥700) :
¥70,000 (NT \$ 20,000:8ヵ月分、保証金・冷房費・ネット接続料含む)
 - ② 旅行基本費用 (航空券、ビザ手数料等) : ¥81,110
 - ③ 海外旅行総合保険料 : ¥60,670
 - ④ 提携校授業料 : ¥130,000
- 合計金額 ¥220,000
その他個人的な費用: ¥35,000 (1ヵ月約NT \$ 10,000程度)

参加者の声



台湾研修は親日国である前に人々がとにかく優しいです。食べ物もおいしく、物価も安く、気候もあたたかいのできっと過ごしやすと思います。しかし、バイク等が多く交通事情が悪いので事故に気をつけてください。中国語を今まで学んでいた学生にとって、最初は台湾の訛りや文字に苦戦すると思いますが、慣れれば必ず自分の強みになります。そして、「台湾で最も美しい風景は人である」という言葉があります。台湾でお世話になった人々との出会いは自分にとってかけがえのない思い出です。

外国語学部中国語学科2年 若林 美波



食べ物は安くて美味しく、日本の飲食店も多くあります。つい素通りしてしまいそうな屋台や店で食べてみるのも留学ならではのいい経験になりました。また、日本語学科の学生が一人に一人チューターとしてついてくれるので、何でもサポートしてくれます。私のように大学に入学してから台湾に興味を持った方も是非留学してほしいです!語学学習だけではなく様々なことを経験できますし、何より留学しなければ出会えない沢山の人の人に出会えます!

政経学部経済学科3年 渡部 日南子

所属：外国語学部 中国語学科 2年
出身：神奈川県立相模原総合高等学校卒業程度認定
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 台湾長期研修参加（東呉大学）

【研修国・地域の紹介について】

季節：台湾は基本点に暑いです。夏場は外に出ただけですぐに汗をかきます。しかし、室内はエアコンがきいているので常に上着を一枚持参していくと安心です。12月中頃から2月までは日本の冬ぐらい寒くなります。早めに冬服、毛布の準備をしておくのが良いです。さらに暖房設備もないので体感温度は日本よりも低いと感じる時期もありました。

文化・習慣：台湾では移動手段として車よりバイクが主流です。日本のように歩行者優先ではなくバイク優先なので横断歩道を渡る際には注意が必要です。その他、食事の際に食べきれずに余ってしまった食べ物を持ち帰ることができる制度があります。この制度は、食べ物を大切にしている台湾人の考え方の象徴だと感じました。台湾の文化の中で私が一番驚いたことは、本屋で座り込みながら本を読むことができる事です。本屋へ行くとたくさんの人が床に座り込みながら本を読みくつろいでいました。

考え方の違い：日本では決められたことはアクシデントが発生しても必ず期日までに終わらせないとはいけません。しかし台湾では臨機応変に問題に対応し、とても融通の利く国だと思いました。例えば、日本では影響力の強い台風が来た際に学生、社会人は時間に余裕をもって家を出て学校、会社に行く必要があります。しかし台湾では台風休みの制度があり、政府が前日に休みを公表するので危険が伴うなか学校、会社に行く必要がありません。国民の安全が守られとても良い制度だと思いました。その他人との距離の取り方が上手だと感じました。日本ではまず相手がどのような人間なのか観察し、適度な距離を保ちますが、台湾でははじめから心と体の距離が近く、フレンドリーに接してくれるので心を開きやすかったです。そして、コミュニケーション能力が非常に優れているので誰とも仲良くなっていました。

日本では人から自分がどのようにみられているか、人の目を気にしながら生活しなければならないですが、台湾では他人からの目を気にせず自分のありのまま、自由に生活することができます。それは台湾人が人からの評価よりも、自分の考えを尊重する文化があるからです。私自身台湾ではありのままの姿で過ごすことができ、とても居心地がよかったです。この考え方がアジアの中で初めて同性婚を認めた功績につながっていると考えます。大学の中に男女共同トイレがあることやLGBTパレードが行われるなど性に対して先進的な考えを持っていました。

【日常生活について】

友人関係：ルームメイトと仲良くなり、一緒に遊びに行きました。遊んでいる最中は全て中国語でやり取りするので中国語の上達につながります。部屋で過ごしている時も世間話をするので学校では学ぶ機会が少ない若者言葉を学ぶことができます。その他、サークル活動が盛んなので文化交流の場に適している環境だと思っています。

注意事項：砂糖入りのお茶があるので購入する前に無糖か確認する必要があります。麺をすすって食べるのはマナー違反なのでラーメンを食べる際に注意が必要です。レストランでは水が出てこないの外出する際には常に水を持ち歩く必要があります。トイレトペーパーがトイレに流せません。夏と冬の気温の差が激しいので、寒波が押し寄せる前に冬物の準備をする必要があります。

【研修を通して得たこと・今後の学生生活への影響と進路】

家族以外と生活することにより、自分自身の見えていない一面を知ることができました。その他、自分と向き合い、足りないものは何か知る機会ができました。台湾と日本の文化、考え方の違いを学んだ貴重な機会でした。その中で特に食への安全性に対する関心が高まりました。台湾の店の中では不衛生な店もあり、常に清潔なことが当たり前ではないと学びました。この学びを生かし、大まかではありますが食に関する職業に就きたいと思いました。

所属：外国語学部 中国語学科 2年
出身：秋田県立花輪高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 台湾長期研修参加（東呉大学）

【研修参加の動機について】

なぜ台湾を選んだのか。中国の歴史や文化については中学校から学ぶ機会が多くある程度は知識がありました。しかし、台湾の歴史や文化については学校でも学ぶ機会が少なく台湾のことをよく知らなかったからです。台湾という国について知りたかったからです。また、台湾へ旅行しに行ったことがありもっと台湾という国について知りたいと思ったからです。台湾は親日国であるため生活しやすいのではと思い台湾を選びました。

なぜ研修に参加しようと思ったのか。私は日本について興味がありませんでした。日本のいいところを聞かれてもうまく答えることができませんでした。そこで、日本から離れてみて客観的に見て日本の良さを見つけようと思ったからです。また、留学に行ってみたら価値観が変わるとよく聞き、本当に変わるのか確かめたくて参加しました。私は、将来海外で生活するという夢があります。異文化交流で得る理想と現実との差を肌で感じるためです。も一つとしては、自分と向き合うためです。自分の至らない点はどこかどう解決していくか、今後のビジョンをどうしていくのかなどについて考える時間が欲しかったからです。

【日常生活について】

寮生活における注意事項やルールについて。基本 5 人、8 人部屋になると思うので貴重品の管理をすることが重要です。洗濯物を干すところがありますが自分のものがなくなっている場合があるので乾燥機を使うことをお勧めします。たまに部屋の消毒が入り朝早くに寮を出ていけないといけなことが多々あります。門限は特にありません。ルームメイトと仲良くなれば放課後や休日に遊びに出かける日もあります。食事は一日 500 円で 3 食賄うことができます。夜市や出前が盛んなのでたくさん利用してみたいかですか。サークル活動や部活動がとても盛んで人脈を広げることができます。基本的に拓大留学生だけで授業を受けるので他国留学生との交流がないためサークル活動をすることをお勧めします。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して特に得たことは中国語の面白さを知りました。拓大では簡体字を学んでいます。今回の台湾研修では繁体字を学びました。今まで習ってきた中国語が通じないことが多々あり語学の難しさを学びました。発音の違いや物の言い方の違いや、発音記号の違いなど拓大では学べない中国語を学習することができました。今回の機会をきっかけに中国語にたいしてもっと深く追求してみようという追求心を得ることができました。2 つ目は日本の良さ、ありがたさに気付けたことです。私は、日本の良さが分からず海外に魅力を感じていました。しかし、日本食の美味しさやトイレやお風呂の環境の良さ、日本文化の良さはとても素晴らしいことだということを海外で生活して初めて知りました。日本から離れて日本のことを客観的に見て今まで当たり前だと思っていたことは一歩違えば普通ではないこと肌で感じました。

今後の進路としては、国際ボランティアなどの NGO 関係に進みたいと考えています。今回の台湾研修でたびたび物乞いする人の姿やホームレスの姿を見てきました。中には自分より幼い子供の姿もありました。台湾だけではなく世界にはもっと多くのストリートチルドレンがいます。正直、私は彼らたちに対して何ができるかはわかりません。しかし、彼らの力になりたいです。彼らの夢を叶えるようそばで活動していきたいと考えています。

所属：外国語学部 中国語学科 2年
出身：私立北海道旭川龍谷高校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 台湾長期研修参加（東呉大学）

【研修参加の動機について】

台湾を選んだ動機：中国語学科には中国と台湾の二つの選択肢がありますが、私はあえて台湾を選びました。理由は繁体字が学べるからです。私は知り合いや友人に台湾人が多いので、メッセージのやり取りをするときに何かと繁体字を使います。台湾では授業で繁体字を使うので留学中にしっかりと繁体字を学ぶことが出来ました。

出発までにしておくべきこと：短期留学とは違い、長期留学や交換留学は GPA がある程度ないといけないので、一年生のうちに成績を上げておく必要があります。四月に入ると本格的に事前研修が始まるので、まずはしっかり研修を受けましょう。留学で取得できる単位はとても少ないです。履修要項をよく見て、前期のうちに出来るだけ単位を取っておいた方が、次の学年に上がった時に余裕が持てます。台湾留学を考えている人は「台湾語」という授業を取っておくことをお勧めします。繁体字や注音を習うので、現地の授業で役立ちます。

【日常生活について】

寮について：東呉大学には校内にいくつかの学生寮があり、私たちは全部で四回引っ越しをしました。寮費は引っ越しの度に支払う形で、一回の支払いでほしい日本円で一万円～二万円でした。どこの寮も五人～八人部屋で、トイレ、シャワー室、洗濯機、冷蔵庫などは共同です。引っ越しによって日本人だけの部屋だったり、台湾人と混ざられた部屋だったりバラバラなので、人数配分に関してはその年によって違うと思います。寮の中には日本語が全く話せない学生も多いので、中国語の練習には良い環境です。集団生活なので初めに大まかなルールを決めておくと、喧嘩やもめごとが起こらないと思います。

サークルについて：サークルに入ると、他学科の学生の友人を作ることが出来ます。サークルについては東呉大学のホームページに記載されており、自分で連絡を取るか、直接活動場所へ行ってください。また、チューターの紹介でサークルに入るのも良いと思います。

私はチューターの友人の紹介でバレーボール部に入りました。練習は火曜日と木曜日の午後五時半～九時半でした。試合もあるサークルだったので練習は本格的で、私は毎回筋肉痛でした。しかしバレー部の人達は皆優しく接してくれたので、最後まで楽しく参加することが出来ました。サークルによって活動日も時間も全く違うので、たくさんサークルを見学して決めてほしいです。

通信、お金、荷物のやりとりについて：私たちは七か月の留学だったので、まず空港で五日分の SIM カードを買い、そのあと半年用の SIM カードを買い、帰国一か月前に一か月用の SIM カードを買いました。SIM カードは携帯会社ならどこでも買うことが出来ます。ギガが決まっているものと使い放題のものがありますが、日本よりずっと安いので使い放題の方を買うことをお勧めします。半年用の SIM カードがほしい日本円で一万五千元くらいでした。日本で携帯を SIM フリーにしておかないと SIM カードを入れても携帯が使えないので、必ず携帯会社へ行って確認しておいてください。

お金に関しては、私は個人で三菱 UFJ 銀行で JCB デビットカードを作り、お金をおろしていました。どのカードがいいかわからないという人は旅行会社の方から海外用のデビットカードをお勧めされるので、それを新しく作ってもいいと思います。ただ、ATM の種類によってお金をおろせる所とおろせないところがあるので、現地に着いたら色々な ATM で試してください。

荷物のやり取りについては、東呉大学内に郵便局があるので、そこで荷物のやり取りが出来ます。ポストもあるので、手紙も送れます。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の留学を通して得られたものは大きく二つあり、それはコミュニケーション能力と台湾人の文化です。台湾人は日本人とは違い、自分の意見を持っています。はっきり伝えないと理解してもらえないし、遠慮ありません。この七か月間、「どうしたら伝わるか」を常に意識して過ごしていましたが、留学が終わる頃にはしっかりと自分の意見を伝えられるようになりました。また、台湾人は積極的で、社交的です。台湾人の影響を受けて私も以前より積極的になれたと感じます。そして、現地で暮らして台湾独自の歴史、文化、価値観に触れ、とても貴重な経験が出来たと思います。三年生になるとインターンなどが始まります。将来、中国語を使った仕事に就きたいですが、今後の就職先に、海外で働くことも可能性として考えていきたいです。

所属：外国語学部 中国語学科 2年
出身：私立尚綱学院高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 台湾長期研修参加（東呉大学）

【研修生活について】

授業では、主に聴解、読解、会話、華語検定対策、ビジネス会話、時事中国語、作文などの学習を行います。一つの授業が50分で、それが2コマあります。途中で1時間半の昼食時間が設けられ、平日は朝10時から夕方5時まで学校なので、長すぎず短すぎず、飽きずに授業が受けられます。また成績は、週に一度の小テストと中間、期末テストで成績を出す授業もあれば、テストは一度も行われず、授業中の発言や態度だけで成績を決める授業もあります。はじめの頃は毎週出される課題に追われる生活を送っていましたが、時間が経てばそれが習慣づけられ、休日には自主的に復習や予習をするようになります。授業の難易度は先生によって様々です。個性豊かな先生たちばかりで、どの授業も楽しく受けることができます。時には、何度か台湾の原住民博物館や人権博物館などに授業中に連れて行ってくださることがあります。そこでは、台湾の歴史を知ることができ、とても興味深いことがたくさんあります。自ら行く機会はなかったのですが、このような体験ができて良かったです。先生によっては、授業が始まる前に、最近の台湾のニュースを話題にコミュニケーションを取る方もいます。このおかげで、いま台湾では何が起きているのか知ることができ、台湾で行われた選挙やイベントについてさらに興味が湧きました。

【日常生活について】

台湾留学では、大学内の寮で生活をします。寮は5人部屋です。また、台湾の大学の都合で何度か部屋の引っ越しと寮の引っ越しを3回ほど行います。5カ月ほど、日本人2人（自分含む）、台湾人3人の5人部屋で生活していたため、ルームメイトともしっかりと仲良くなれます。台湾人は優しい方が多いので、生活において分からないことや困ったことは、ルームメイトやチューターに気軽に聞くことができます。寮でも門限はありませんが、部屋ごとのルールや約束事はルームメイトみんなで話し合っ決めて決めます。大学では、様々なイベントが行われているので、カラオケ大会やマラソン大会にも自由に参加することができます。留学中は主に、チューターや日本語学科の学生と交流や遊びに出かけました。チューターとは週に一度会い、言語交流をしました。何より、チューターは台湾に行って最初に友達になった子なので、一番頼りになる存在でもあり、留学が終わった今でも連絡を取り合い、とても仲良くしています。留学中のお金の管理についてですが、私は現金を日本から持っていくようにしていました。多くの子はカードを作り、現地で下していましたが、私は手数料などが面倒だと思い、現金60万円ほど持ってきました。盗難や管理が心配な方は、カードを作るのがお勧めです。あまり買い物や外食をしないという子は、40万円ほどでも足ります。また、荷物についてですが、私は帰国時の荷物を最小限にしたかったため、事前に捨ててもよい服や靴、枕カバー、シーツ、消耗品、日用品を持っていくようにしました。これによって、現地で生活品にお金をかけずに生活することができます。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して、コミュニケーション力と行動力を得ることができました。留学するにおいて、現地で交流を広げるためには自ら話すこと、また気になった場所や行ってみたいところには積極的に行動にうつすことが大切です。若いうちにできることは、実行しないで後悔するより、実行して後悔したほうが学ぶことが多いです。残りの大学生活において、今後自分は何ができるのかをよく考え、積極的に行動していきたいです。また、今回の留学で自分がどのくらい成長したのかをHSKを受けて自分をどんどん試していこうと思っています。

所属：外国語学部 中国語学科 2年
出身：埼玉県立所沢高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 台湾長期研修参加（東呉大学）

【研修参加の動機について】

私は小さい頃、台湾ドラマが好きでそれが高じて台湾で暮らしたいという夢を持っており、その夢をかなえるために台湾と関わりの深い拓殖大学を選びました。そのため、台湾に行きたいという選択肢しか見えていなかったというのが本当の理由です。そして台湾が好きなのに、台湾の上澄みの部分しか知らないのではと思い、研修に参加する決意を固めました。

台湾と中国は話す言語は同じですが、少々違いがあります。中国は漢字が簡略化されていますが、台湾はされていない複雑な漢字ですし、台湾ではピンインで漢字を学びません。注音といわれるもので学びます。単語でさえも全く違うものもあります。コミュニケーションは問題ないけれど、一瞬理解に困るものもあると事前に先生方が教えてくださいました。ですので、取れる学生は絶対前期に**台湾語**を履修することをおすすめします。台湾語では注音、繁体字、台湾華語の単語、台湾の文化を学べます。

あと、研修はどの学年で行くとして特に大きな違いはないと思います。学習歴が2年足らずでの渡航は授業に追いついていない方には大変なストレスになると思われますし、3年でも、就活にすぐ追われてしまいますしかし、台湾研修は少し基礎系の中国語を学ぶことが多かった気がします。台湾研修に行く学生は2年で行くのがいいのではないのでしょうか。

研修準備ですが、事前によく親御さんと話をしてください。特に金銭面で断念する学生も少なからずいます。私は月々4万円を仕送りしてもらっていました。その他の経費を合わせるとやはり50万から多い学生で80万はいくでしょう。言わずもがな、突然の出費も発生します。

【研修生活について】

授業は日本語学科の先生の指導により行われます。作文や聴解、読解やビジネスの授業もあります。授業はさほど難しくありません。先生はみな日本語ができます。わからないことは日本語で聞くことが可能です。最初はそれをマイナスに感じたこともありますが、日本語で教えてもらうことでしっかりと頭に入り、プラスに働きます。日本で苦手だった文法はぜひここで潰してください。私は授業で自信满满に出した作文を「文法は間違えてないけど、日本人が書いた文章だね」と言われたことがあります。作文にも国民性が表れ、好まれる文章があります。そして拓大の研修生にはチューターが一人ずつ付きます。是非そのチューターさんと勉強会を開き、宿題を直してもらってください。そして、授業であまり中国語を発話する機会がないので中国語で話してみてください。

そして、一番興味深かった授業は白色テロの博物館への課外授業です。私の代ではちょうど総統選挙がありました。そして「返校」という白色テロを絡めたホラー映画のヒットもあり、先生が連れてってくれました。日本では台湾の歴史は深く学びません。しかし民主的かつ開放的な台湾になるまで、凄くつらい時代がありました。台湾に来る学生はあらかじめ歴史を少しでも勉強していくようにしてください。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通し、言語力は勿論上がりましたし、怖がらずに中国語をしゃべることができるようになりました。それ以上に、自分が留学生というマイノリティになったことにより日本人として、の自分を考えるようになりました。これから就活が始まりますが、外国人の手助けとなるような仕事に就きたいと考えています。台湾の人々は私たちに大変親切にしてくれました。今度は私が日本に来てくれる外国人の方々の手助けになればと思います。

台湾で出会った人々との思い出を忘れず、これからも学んだ中国語を生かしていきたいと思います。

所属：政経学部 経済学科 3年

出身：千葉県立国府台高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 台湾長期研修参加（東呉大学）

【研修国・研修地域の紹介について】

台湾人の寛容さにはとても驚かされました。日本で同じことをしたら白い目で見られそうなことを台湾でも誰も気にしません。日本にいる時は他の人にどう思われるか、迷惑をかけないかをよく考えていました。一方で台湾人はお互いに寛容であることで自由に振舞っていて気楽でした。台湾人はルールに縛られ過ぎず柔軟な人が多かったです。そして、日本は清潔なのだと実感しました。こちら台湾人によく聞かれました。台湾を汚いと感じるか気になる人が多かったです。実際に飲食店や寮ではそう感じることもありましたが、トイレで紙を流せないことがあるため、それに慣れないメンバーもいました。台湾は年中暖かいと思っていましたが、冬は日本と同じくらい寒い日もありました。しかし暖房は無く、冬でも半袖で過ごせる日もあるため、体調管理はしっかりしないと風邪をひきやすいです。実際に季節の変わり目は何人か体調を崩しました。

研修先の東呉大学は拓殖大学と創立年が同じ1900年で歴史ある大学です。また、本校との歴史も長く、華語班のOBの方にも何人かお会いすることができ、刺激を受けました。私達は華語班として東呉大学に所属していましたが、教室は一般学生とは異なる小さな部屋でした。図書館は広く、自習している学生でいつも賑わっていました。映画を見られる所や日本の漫画も多くありました。食堂は麺類やカレー、更にドリンクショップなど、様々なお店がありました。街中によくあるカフェも学内にあり、息抜きもできました。

【日常生活について】

授業は17時に終わるため、出かけてご飯を食べたり買い物をしたり、サークルに参加したりしました。金曜日だけ15時に授業が終わるため、夜出発して旅行することもできました。寮での生活は洗濯機が少ないため待たなければならないことや、冷蔵庫を共用する等、慣れるのが大変なことは多々あります。これは今だけしかできない経験だと思えました。

お金の管理については、口座にこまめにお金を入れてもらい引き出すのが良いと思います。手数料はかかりますが比較的安いです。部屋に保管する場合は引き出しに南京錠をかけて保存しました。食事に関しては学内のコンビニ、食堂、マクドナルドをよく利用しました。大学付近にお店はないため、他の物が食べたい時は駅前までバスで行って食べるか宅配サービスを利用しました。

荷物のやりとりはほとんどの人はしませんでした。わざわざ買うには高いものを頼むなら送ってもらうといいですが、服や消耗品なら現地ですぐ買った方がいいと思います。特に服ですが、帰るときにほとんど捨てる服を持って行き、足りない時は「NET」や「fifty percent」等の手軽に買えるお店で買い足しました。ネットに関しては、SIMカードは使い放題のコースを購入したのでどこでも問題なく使えました。

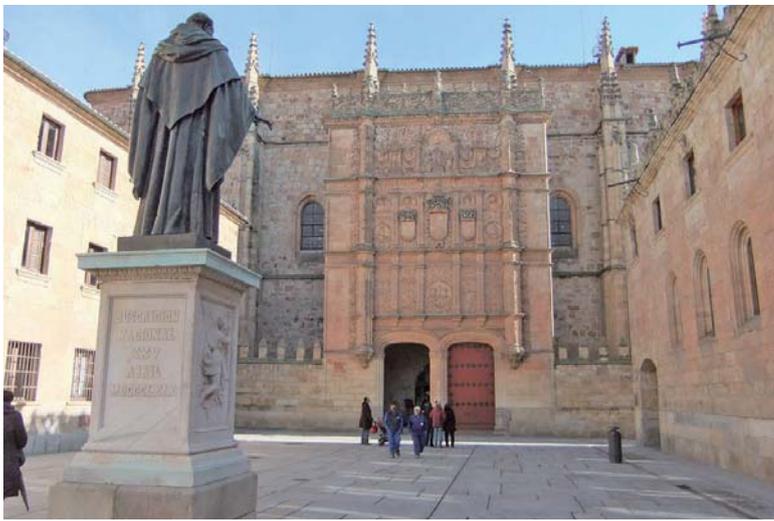
【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今まで何かに挑戦する時は様々なリスクを考えていましたが、まず挑戦してみるようになりました。失敗しても恥ずかしいのは一瞬だと思い、授業での発言や台湾人へ話しかけることは積極的にしました。また、台湾人は勿論、日本人同士でも考え方や文化が違うことはたくさんあることに気づきました。意見が合わない時にどちらが正しいということはなく、相手を否定しないようにすることは常に心がけていました。

今後の学生生活は残り1年ですが、この時間を利用して、HSK5級を取得したいと思います。また、別科学生との交流や台湾研究のゼミでも中国語を活用していきたいです。

進路に関しては、台湾に少しでも関われる職に就きたいです。以前から考えていた拓殖大学の職員になることを視野に入れています。今回の留学ではとてもお世話になり、また自分も留学生や留学したい学生のサポートができればと思います。

サラマンカ大学



Cursos Internacionales Universidad de Salamanca

Apartado 19
Patio de Escuelas Menores s/n, 37008
Salamanca Espana

Tel : 34-923-294-418 Fax : 34-923-294-504
E-mail : internat@cursos.usal.es
<http://www.usal.es/curespus>

サラマンカ大学はスペイン最古の大学の一つであり、ヨーロッパでも伝統のある大学で、「知識を欲する者はサラマンカへ行け」と世間に言わしめる程です。1985年に天皇陛下・皇后陛下も訪問し、同大学の日西センターは天皇・皇后両陛下の訪サラマンカが契機で設立され、日本語及び日本研究が行われています。なお、サラマンカ旧市街は1988年に世界文化遺産に指定されました。

研修概要

授業科目

文法・作文・会話、芸術、歴史、地理、商業スペイン語・文学

期間

8月上旬～翌年3月中旬 8ヵ月

教育内容・クラス

大学附属のインターナショナルコースでレベル1から4までの4段階の各自レベルに応じたスペイン語コースで受講できます。

宿舎・食事

滞在は全員ホームステイで、原則として1日3食用意してくれます。

奨学金

留学先学費には本学より奨学金が支給されます。

経費(本人負担)の一例

[2019年度例]

€1(ユーロ)は2020年3月時点で約120円

※為替レートは変動有り

① ホームステイ費：¥763,200

(1日 €24.0)

※上記に管理費含む：(€35.00)

洗濯代は別途必要

② 旅行基本費用(航空券、ビザ手数料)：¥257,590

③ 海外旅行総合保険料：¥60,670

④ 提携校授業料：¥150,000

合計金額 ¥1,231,460

その他個人的な費用

参加者の声



私はスペインへは留学経験があり、今回訪れた際に懐かしい匂いが立ち込め、また期待に胸を膨らませました。スペインは地域によって文化や言語が多様化しており、さらに違いを改めて感じ様々な人と交流することで視野を広げることの大切さを学ぶことができました。言語力を身につけることは当たり前で、自分と向き合い新たな一面を発見することができます。何か壁に当たって悩むことはあると思いますが、それを乗り越えたくさんの思い出を作り第二の故郷にして欲しいです。

外国語学部スペイン語学科2年 小野 朱梨華

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：私立埼玉平成高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 スペイン長期研修参加（サラマンカ大学）

【研修参加の動機について】

私は将来スペイン語を使った仕事に就きたいと考えています。この目標を実現させるためにはスペイン語の能力を上げなくてはならないと思い今回この研修に参加しました。スペイン語圏への留学プログラムはスペインとメキシコの2カ国あります。私がスペイン語を学びたいと考えるようになったきっかけはサッカーです。そのため本場のサッカーを見に行きたいという思いもありスペインを選択しました。幸い私が行くと考えていた試合へは行くことができましたが、現在では再開時期は未定です。また他校を含めた日本人学生の中には3年の学生もいましたが就職活動をしながらの学生もいてとても大変そうでした。こういったこともあり私は今年度に参加することができて良かったと思っています。

【研修国・地域の紹介について】

サラマンカで生活していて特に驚いたことは気候です。夏の暑い時期でも日本より暑いと感じることはほとんどありませんでしたが、朝晩は気温が下がり1日の中での気温差がとてもありました。冬は1日中寒く厚い上着が必要な期間が長く続きました。それでも雨の日は少ないため天気の悪い日はあまり多くはありませんでした。またサラマンカはとても小さい街でほとんどが徒歩で行くことができるためあまり不便を感じることなく生活することができました。

スペインといえばサッカーのイメージが強いですが、テニスやバスケットボールなどのスポーツも人気があり街の様々な場所のグラウンドがあります。お金を払うことなく使えるグラウンドもあるため運動できる環境がとても整っています。グラウンドに誰かいれば一緒にやろうと誘ってくれるので人数に困ることもほとんどありませんでした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回研修に参加したことで当たり前ではありますが間違いなくスペイン語力が向上したと思います。そして実際にスペイン語を使用して生活することで自分自身が苦手としているものは何かを知ることができました。これからは苦手なものを特に意識しながら全体的に向上させることができればよいと考えています。また外国人と接したことで考え方の大きな差に気づき理解し難いものもありましたが、これをスムーズに受け入れられるようになったと思います。学生生活だけでなく就職活動や更にその後にも活かしていきたいです。

進路については参加動機の中でも書いたように、スペイン語を使った仕事に就きたいという思いがより一層強くなり、実現できるように過ごしていきたいと思っています。

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：私立城西大学附属城西高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 スペイン長期研修参加（サラマンカ大学）

【その国を選んだ理由や志望動機について】

私は高校生の時にロータリー青少年交換プログラムで一年間スペイン（ブルゴス）に留学しました。その頃はちゃんとした知識もつけず身を投げ出す気持ちで行ったので伝えたいことも伝えられず後悔が残りました。小さい頃から先生になることが夢で教育の道を進もうと思いましたが、高校の貴重な体験を無駄にしたくないと思い、また力を身につけてあの頃の悔しさを無くしたいと思い大学でも留学をしようと決意しました。

【日本や日本人の良いところ、悪いところについて】

私は中学生の頃から海外の文化に触れる機会が多く、そこで日本との違いを発見し、またそこから得た情報で疑問に思い調べたことがあります。そこで感じたのは自分が日本人の一人であると意識することです。周りが日本人で囲まれてしまうと当たり前になりがちですが、旅行や仕事、学業で他の国を訪れる際、自分たちがとった何気ない行動は相手側にとって日本国民の全員の行動と印象づけられます。幸い日本は礼儀の正しい国として知られ、他の国々でも日本文化に興味を示している人が増えています。中には日本人より日本を愛し文化を大切にしている人がみられ知識のなさに恥ずかしさを覚えますが、日本人としての誇りを感じる機会が増えてきていると思います。そんな暖かい国でも短所は必ずあります。日本人は優しすぎて相手に本当のこと伝えられない傾向があります。相手の立場になって考え遠慮してしまいがちです。しかし、他の国々にとってそれらは優しさではなく無責任さと捉えられるでしょう。自分の意思を伝えず相手任せにしてしまうと自分に不利なことが起こります。ですが、そんな短所を否定的に捉えず受け入れ、自分と相手との違いを認識することで新たな一面に出会えると思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して様々な人と触れあい学んだことは、型に囚われず自分がやりたいことに興味を持ち続け努力することです。私は興味を持った分野が違すぎて将来どのように役立てようかずっと考えていました。今までの人たちは一つに絞らなければ中途半端な結果になるなど応援の言葉はなく無茶なことをしようとしている私を止めるような人が多かったです。しかし、それは前に結果を出した人が存在しないからだと思いました。私は結果だけではなく挑んだことに意味があると思い、同じ思いを持った次の人の模範になれるように努力し続けたいと思いました。

| |
|----------------------------|
| 所属：外国語学部 スペイン語学科 2年 |
| 出身：私立埼玉栄高等学校 |
| 2018.4 拓殖大学入学 |
| 2019.8 スペイン長期研修参加（サラマンカ大学） |

【研修生活について】

サラマンカ大学の授業は毎週月曜日から金曜日まであります。午前9時から午後14時ごろまであります。授業は選択制で自由に自分の学びたい講義を学ぶことができます。一か月間と三か月間の二つのコースがあります。それぞれのコースの始まりにクラス分けテストがあります。このテストで自分に合ったレベルのコースに分けられます。そのため授業は適切なレベルで受講することができます。また、クラス変更の期間があるので、先生の教え方に不満がある場合や、自分の好きな先生の授業を参考することも可能です。授業では文法をはじめとして、スペインの歴史、芸術、コミュニケーション、映画鑑賞、など様々なトピックに分けられた講義を受講することができます。予習は先生によって異なります。予習は決して多くはないと思います。復習は必須です。急学んだことを明日までにしっかりと理解する必要があります。わからない箇所を放置しておくとう授業についていくことができません。先生方はとてもやさしい方ばかりなのでわからない場所をわかりやすく教えてくれます。宿題の量も先生によって変わります。宿題を全く出さなかった先生もいれば、たくさん出す先生もいます。勉強は単語を中心に暗記しました。文法は授業の中で理解をし、家で理解を深めました。単語がわからないとう授業についていくことがとても困難になるので頑張りました。魅力的な授業は文法と、コミュニケーションです。文法の授業はとても難しいです。でも日々成長している自分を実感することができます。友達と意見を交換しながら考えることができるので、同時に多文化を学ぶこともできます。コミュニケーションの授業では本場のスペイン語を学ぶことができます。先生方はとてもユニークで楽しい授業を受けることができます。

【日常生活について】

ホストファミリーはとてもやさしかったです。特にルールはなく束縛されることはありませんでした。放課後は昼食を食べ、家で勉強をした後に友達とほぼ毎日バルやジム、ディスコ、カフェなどに行っていました。週末の旅行はあまり行きませんでした。なぜなら月曜日に授業があるからです。他国（中国、アメリカ、スイス、ブラジル、インド、）の人とも旅行やパーティー、など様々な場面に関わることがありました。最高の友達です。買い物は特に問題なく自由に行うことができました。食事はあまりおいしいものではありませんでした。スペインの料理は味が薄く、ホームステイの料理は毎日豆を使った料理でした。サラマンカには中華料理店や日本レストランがいくつかあるので助かりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今後の学生生活では自分の意見を持って行動したいと思います。以前は友達に聞いた意見に便乗し、本当にしたいことができずあきらめてしまうこともありました。留学生活の中では自分で調べて行動に移すことが多く、自然と自立することができていました。まだ、自分の進路がはっきりとは決まっていませんが、やりたいことを見つけ一生懸命頑張りたいです。

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：静岡県立島田高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 スペイン長期研修参加（サラマンカ大学）

【研修国・地域の紹介について】

サラマンカは年中乾燥していました。そのため夏は過ごしやすく、夜の 9 時ころまで明るかったです。しかし標高が高いため、冬はとても寒かったです。スペイン生活時間が日本ととても異なっていて、朝ご飯は日本と同じくらいで 8 時ころ食べ、仕事や学校に行き、14 時ころ仕事や学校から家に戻ってきて昼ご飯を食べます。14 時から 17 時ころはお昼ご飯を食べてシエスタをするため、外に出てもあまり人は歩いていないし、お店は開いていないこともあります。そして 17 時になったらお店が開いて仕事に行きます。21 時ころに仕事が終わって家に帰って夕ご飯を食べます。朝ご飯はとても軽めに食べ、昼ご飯をメインとしています。夕ご飯も昼ご飯に比べたら軽めです。若者たちはフィエスタが好きで 23 時や 0 時ころディスコに行ったりして朝帰ってくる人が多いです。

授業を受けてみて、日本人はしっかり授業を聞いてメモをして、とてもまじめだと言われました。その反面、授業で話を聞いてばかりで発言をあまりしないということが悪い面だと思いました。会話の授業では他の国の学生は、割り込むような勢いでタイミングをあまり伺わず発言していました。でも私を含め日本人は、誰かが話し終わったタイミングを見計らって手をあげたり、先生から指名されるのを待って発言することが多かったように思いました。日本ではそれでいいと思うけど、海外に来たら、自分がわかっているのに言いたいことが言えなかったりして、損をしてしまうんだなと思いました。

【日常生活について】

スペインではホームステイか、ルームシェアをする大学生が多いです。ホームステイでも自分以外に、外国人を受け入れているところもありました。ホームステイでも洗濯をしてもらえなかったのが、毎週数人でコインランドリーに行って、自分たちで洗濯をしていました。水や電気代は高いので、よく言われていました。ホストファミリーとは、食事の時にしゃべることが多かったです。

平日は学校が 14 時までには終わるので自分の時間が多かったです。週末は学校で計画された、旅行もありました。長期休みや連休を使って旅行に行きました。

授業にはアジア系（中国・台湾・日本）が多いので関わりやすかったです。日本のいろんなことを知ってくれている友達もいました。スペインのことでなくほかの国の文化のことも知ることができてとても面白かったです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して日本人は控えめすぎるのもっとガツガツいかなければ海外では損してしまうことがわかりました。今後の授業ではわかっているのに発言しないということがないようにしたいです。

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：長野県長野市立長野高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 スペイン長期研修参加（サラマンカ大学）

【授業やコースの内容、難易度について】

8月、9月は1ヶ月コース、10月・11月・12月と1月・2月・3月はそれぞれ3ヶ月コースになっています。私たち拓殖大学の学生は3つの授業を取るようになっていて1時間目は文法、2、3、4時間目はそれぞれの選択授業になります。選択授業は1時間ですが、文法の授業だけは2時間になります。（途中に15分程度の休憩時間あり）

基本的に授業はあらかじめ日本で選択し、選択した授業を現地で受講するという形になります。ですが実際受講してみて思っていた授業と違ったり自分のレベルと合わなかったりした場合は現地で変更することができます。何度も同じ授業を受講しても良いと思いますが、せっかくコースごとで授業が変わって日本には無い興味深い授業がたくさんあるのでまだ受けたことのない授業を受講することをおすすめします。

文法の授業の難易度によって選択授業の難易度も変わります。1～4の難易度に分かれていて、1から上級、中級、初級となっています。難易度は違うけれど、どのクラスも学習する内容はほとんど同じです。

【興味深い授業や研修先でしか学べない事について】

すべての授業が現地でしか学ぶことのできない興味深い授業だと思います。すべての授業がスペイン語のみで行われるのでとても貴重な経験です。たとえ同じ授業名だとしても先生によって内容が全く違ったり、コースごとに担当の先生が変わるのでとても楽しいです。

私が一番興味深かった授業は「スペイン文化」の授業でした。この授業では学校の外に出て学校の施設の美術館や博物館、また市場などに行き、直接自分の目で見て文化に触れることができました。さらに、少し難しい内容のテーマの時も私たちにわかりやすいようにYoutubeを使って動画を見せてくれたり、興味を持ちやすいように面白く授業を進めてくれたのでよく理解できたし、とても記憶に残りました。今まで受けたことのない形式の授業でも楽しく勉強することができました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回この長期研修に参加して語学力の向上はもちろん、人として成長できたと思います。様々な国の人、様々な年代の人と交流してものの考え方や価値観が変わりました。いろいろな人と話すたびに今まで気づかなかったことに気づかされたし、毎日がとても刺激的でした。さらに、世界の情勢に敏感になりました。様々な国の友人と話すことで世界の国々への理解がより深まり、興味がわきました。

また研修を終えてみて、スペインに来る前よりは確実にスペイン語能力が上がったと思います。しかし、実際スペイン人と話して感じたことは自分のレベルはまだまだ低いということです。私は将来サッカー関係のスペイン語を使う仕事に就きたいと考えています。仕事でスペイン語を使うと考えると今の自分のレベルでは全然通用しないので、もっと語学力が上達するように、これから一層勉強に励みたいと思います。

所属：商学部 経営学科 3年

出身：私立就実高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 スペイン長期研修参加（サラマンカ大学）

【研修国・地域の紹介について】

私たちの研修先はスペインのサラマンカという街でした。サラマンカは街自体が世界遺産に登録されている古き良き街並みでした。大学のキャンパスも世界遺産の建物の中にあります。また、プラサマジョールもスペイン国内で1, 2を争うほど綺麗で、クリスマスや年越しではライトアップしたり、ライブが開催されたりと賑わっていました。8月のお祭りではプラサマジョールを中心にオーケストラ、ライブ、闘牛、カーニバルなど約2週間にわたり行われていたため、夏休み期間で人が少なく閑散としていたサラマンカでしたがお祭りのおかげで楽しく過ごせました。

サラマンカの人々は訛りがなく発音がとても綺麗でした。リスニングやニュースで聞く音とよく似ていたため聞き取りやすく自信ができました。学生の街と言われるだけあって一般の人も留学生を理解してくれているようながしました。

サラマンカの気候に関してはそれ程良いとは思いませんでした。スペインの「冷蔵庫」と言われているように気温が低く、風が強かったです。雨は多くはありませんが、日中と夜間の気温差が激しく風邪をひくこともしばしばありました。ただカタルーニャやバスクと違い花粉は少ないので有難かったです。

【研修生活について】

今回の長期研修では1か月コースを2回、3か月コースを2回受講しました。授業ではパワーポイントを使ってプレゼンを作り、日本とスペインの違いや日本の歴史を紹介したりしていました。中でも楽しかったのが、グループでバルに夕食に行き美味しかったピンチョスを紹介する課題でした。

授業以外では週に2回サラマンカ在住の人たちと放課後にサッカーをしていました。スペインといえばサッカーのイメージが強いですが、想像以上にサッカーが好きで、老若男女関係なくみんな自分の応援するチームがあり、週末にはバルに人が溢れかえるほどです。サッカーをしながらスペイン語の勉強ができていたため、スペイン語のサッカー実況はほとんど理解できるようになりました。また、バルやレストランにスポーツ新聞が置いてあり無料で読めるため、難しい専門用語なども身に付きました。1月にはレアルマドリードが国王杯でサラマンカに来たり、スペインリーグで活躍する日本人選手をたくさん見ることができたのでサッカー好きとしてはとても嬉しかったです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回研修で得たことは人を見る力です。陽気で楽観的なスペイン人ですが隠れてとても努力していることを知りました。これは上辺だけでなくしっかりとした人間関係を構築しようと思ひ相手をよく観察した結果わかったことです。今後はこの経験を活かしたくさんの人との繋がりを大切にしていきたいです。

所属：外国語学部 スペイン語学科 3年
出身：東京都立飛鳥高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.8 スペイン長期研修参加（サラマンカ大学）

【授業、コース内容や難易度について】

授業の難易度はいくつかに分けられています。コースごとに行われるテストと簡単な先生との口頭テスト（短い会話を先生とするだけ）の結果によってクラス分けがされます。クラスのレベルが前のクラスより上がる人もいれば、下がってしまう人もいます。それでも先生と相談し、勉強をもっと頑張りたいと言えばクラスのレベルを上げる事も不安だからと言ってレベルを自分で下げる事もできます。クラスのレベルによっては予習復習、勉強法が変わると思います。でも私が特に感じたのは、先生によって授業の進め方が変わる事。同じレベルでもクラスがいくつかあります。同じレベルにいる子でも、授業内容や授業の進め方は大きく違います。課題を出さない先生もいれば、予習はしないようにという先生もいます。勉強の仕方はみんなそれぞれですが、私は担当の先生それぞれがアドバイスしてくれたやり方、色んな方法の勉強法を試して自分にあったものを探しました。人と実際に話すのが自分にとっては1番の勉強法だったので会話重視の授業を大目にとりました。その他にも地域の人と経済の話や難しい話もできるようになりたい意欲が出、社会経済に関する授業もとりました。授業によってはすごいスピードで話したり、先生によっては板書をしなかったり、週に一度毎回テストがある授業もあってすごく大変でした。挫折しそうな時もあったが授業を進めるごとに確実に前より理解できてたり、現地の友達に前よりたくさん話してるねと言われる事によって難しいと思ってももっと頑張ろうという気持ちになりました。

【研修国について】

私が留学したサラマンカはとても小さい街で若い学生とお年寄りがたくさんいます。学生と言っても、色んな国から来た学生がいます。小さい分、移動距離がないので短時間で色んなところに回れます。夏は暑いカラッとしていて冬は風が強くて寒いです。サラマンカは雨が滅多に降らないでも有名ですが私が留学した頃は驚くほど降りました、、、

しかし、暑くても寒くても朝からそして特に夜は人で賑わっているので夏の暑さも冬の寒さも忘れてしまいます。私は幼少期にマドリッドに数年いた経験があります。サラマンカのような小さな街に長い間いるのは初めてだったのでたまに経験した事がないような事も起こりました。

学生が多くいる街だが、そうは言っても都会から離れたサラマンカの人によっては外国人は珍しいものであり道端で急に話しかけてきたりする人もいます。日本人だとわかって、あまり日本の文化を知らない人に決めつけで何かを言われる事もあるかもしれません。しかし私はこれから留学する人になるべく嫌な気持ちにならないように日本がどんな国であるのかを伝えていきたいです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

1番大事な事は、嫌な事を言われても必ずしもみんながそうでない事。良い人の方がたくさんいます。私はこの留学を経てたくさんの人と出会いました。日本人の友達も、遠く離れた国に住んでいる人と、もちろん現地の人とも。みんな何かあったら助けってくれたり、たわいもない話をしたり。大事な友達がたくさんできました。少し残念に思ったのは、日本人はシャイだったり大勢で話すのが苦手な人がいると思います。ずっと日本人といたり授業も淡々とやったりする人もいました。留学を終えて振り返っても手遅れです。難しい事も怖い事もたくさんありますが、少しの勇気で留学生活は一変します。勉強法も友達を作るのも何するのも人それぞれのやり方がいます。私はとにかく話し人脈を広げたり、お家に招待してくれた人達と料理したり、先生と仲良くなって一緒に出かけたり。とにかく後悔のない留学生活を心がけ楽しく、自分が何をしたいのかを意識した留学生活でした。



メキシコ国立自治大学

Universidad Nacional Autónoma de México

Centro de Enseñanza Para Extranjeros
Universidad Nacional Autónoma de México
Apartado Postal 70-391 C.U., Delegación
Coyoacán C.P.04510
México D.F.
MÉXICO

Tel : 51-(91)5-616-1774 Fax : 52-(91)5-616-2672
E-mail : marta@servidor.unam.mx
http://www.cepe.unam.mx

1551年に設立され、アメリカ大陸で2番目に古い大学で、ラテンアメリカで最大規模を誇る大学です。サラマンカ大学をモデルにしているとも言われ、ノーベル賞受賞者を3名輩出しています。2007年、メインキャンパスのシウダー・ウニベルシタリアが世界文化遺産に登録されました。

研修概要

授業科目

文法・作文・会話・芸術・歴史

期間

8月上旬～翌年3月上旬 7ヵ月
(タスコ2ヵ月間・メキシコシティ5ヵ月間)

教育内容・クラス

最初の2ヵ月間はタスコキャンパス(メキシコシティから南に車で4時間)にて勉強し、その後、シティキャンパスに移動し大学附属のCEPEで勉強します。

宿舎・食事

滞在は全員ホームステイになります。食事は自炊・外食が原則です。

奨学金

留学先学費には本学より奨学金が支給されます。

経費(本人負担)の一例

[2019年度例]

Mex \$1 (ペソ) は 2020年3月時点で約5.5円
※為替レートは変動有り

- ① ホームステイ費(7ヵ月分) : ¥154,000
タスコキャンパス 月額約 Mex \$4,000 (2ヵ月分 : ¥44,000)
シティキャンパス 月額約 Mex \$4,000 (5ヵ月分 : ¥110,000)
(※ホームステイ費に食費は含まない。食費は1日約800円程度)
 - ② 送迎バス : ¥4,730 (Mex \$860)、
到着時ホテル代 : ¥7,150 (Mex \$1,300)
 - ③ 旅行基本費用(航空券、ビザ手数料等) : ¥252,230
 - ④ 海外旅行総合保険料 : ¥52,580
 - ⑤ 提携校授業料 : ¥85,000
- 合計金額 ¥555,690
その他個人的な費用

参加者の声



メキシコ留学では、タスコで2ヶ月、シティで5ヶ月学習します。タスコは観光地として有名な街で、美しい街並みの中で学習することができます。シティはとても栄えていて充実した生活を送ることができます。タスコではまずメキシコに慣れる事が大切だと思います。食や文化に驚くことが多いです。そしてタスコの人はとてもフレンドリーです。道を歩いていると話しかけてきます。これもスペイン語学習においてとても魅力的な点だと思います。シティでは友達がたくさんできます。メキシコ人だけでなく、様々な国の友達が出てそれぞれの文化を知ることができます。タスコとシティではまるで違う国のような生活になるので、そこも楽しめると思います。留学はスペイン語の上達だけでなく、新たな地で生活することにより自分自身に自信がつくと思います。この経験は必ず将来に繋がります。何事も成功するためには挑戦が必要です。スペイン語を学ぶためだけでなく、新たな自分発見やコミュニケーション能力の向上、メキシコでは様々な能力を獲得出来ると思います。皆さんもぜひメキシコに挑戦してみてください。

外国語学部スペイン語学科2年 中里 将



メキシコ留学では二つの都市に滞在します。タスコ、メキシコシティどちらの都市にもそれぞれの良さがあります。メキシコ留学に参加する人に是非それぞれの都市の良さを自分で感じてほしいと思います。CEPEでは年齢も国籍も異なる人達と一緒に授業を受けます。シティではUNAMがとても近くにあるためその学生とも交流できます。

言語交換などの学校主催のイベントに参加することを強くお勧めします。今では毎週のように学校で知り合った仲間やUNAMの学生である友達と出掛けたりしますがスペイン語で意思疎通をするのでとても勉強になり充実感があります。参加して本当に良かったと感じています。

外国語学部スペイン語学科2年 望月 優希

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：神奈川県川崎市立高津高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 メキシコ長期研修参加（メキシコ国立自治大学）

【研修生活について】

私たちメキシコ長期研修生が通っていた学校には、Clase de danza Folclórico というメキシコの伝統的なダンスを学べる授業があります。日本を出発する前から興味を持っていたので、実際に授業を受けてみると想像以上に楽しく習得することができました。ダンスもいくつか種類があって、サルサ、メレンゲ、クンビアなどが存在します。私が授業で学んだのはサルサです。男女ペアになって足の動きを合わせ、早いリズムのラテン音楽で体を回転させたりするダンスです。私はダンスに関して全くの素人なので授業をとる前に多少不安はありましたが、ほとんどの受講者が未経験者だったので同じレベルからみんなで楽しく受けることができました。またダンスのクラスは文法の授業のようにスペイン語能力別にクラスが分かれていないので、語学レベルがはるかに上の人でもまだ学び始めたばかりという人も同じクラスでした。そのため本来であれば関わることのなかったはずの人たちと交流を深めることにより、語学の上達だけでなく様々な国の言語、文化を知ることができたくさんのことを学ぶことができました。

文法の授業では、各国の自然破壊の対応策の現状やそれに対する考え、出身国の生活排水の浄化への意見を出し合ったりしていました。受け身の授業ではなく、自分の意見を口に出して発言し相手に伝えることで、積極的に学び、考えることができました。

【日常生活について】

私は留学中に人生初の一人旅をしました。行先はレオンとグアナファトという Disney 映画リメンバーミーの舞台になった都市へ行きました。グアナファトはすべての建物がオレンジ、緑、ピンク、水色…とカラフル彩られているので丘の上から見た景色は絶景でした。ホテルが入り組んだ場所にあり道に迷ったときは 10 人以上もの人に聞いて回ったり、強盗が出没するという道を通らねばいけないときはその場で友達を作り他の日も一緒に観光したりといつも以上にたくさんの人と関わり合いながら旅行をすることができました。

レオンでは毎年、国際気球フェスティバル(Festival Internacional del globo)が開催されているので参加をしに行きました。ホテルで出会った参加者と様々なお話ができたことや、一人で行動するからこそ学べる事をたくさん身につけられました。この経験から活かせることは存分に発揮していきたいと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修では人間関係の大切さと感謝を伝えることの重要性を学ぶことができました。今後は留學生活だけでなく、日本での日常生活においても毎日スペイン語で日記を書くなど今までの習慣を続けていきたいと思っています。また、語学力向上の意思を持ち続け DELE などの外部試験にも積極的に挑んでいきたいと思っています。

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：湘南工科大学附属高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 メキシコ長期研修参加（メキシコ国立自治大学）

【研修生活について】

「授業やコースの内容、および難易度について」

メキシコでは初めに暮らす街タスコについた後、筆記試験と会話試験をして自分が学ぶ授業のコースを決めます。コースは1（初級）から8（上級）まであり、基本は2か3に割り振られます。授業の内容は1年生の時に日本で学んだことの復習・応用をします。教科書は全てスペイン語で書かれているので、分からないことは積極的に先生に聞くのがいいです。授業の難易度は高くありません。ですが、耳がスペイン語に慣れるまで、リスニングはとても難しかったです。

「予習、復習や勉強方法について」

復習に関しては、授業中にやった範囲で分からなかった単語をメモしておき家に帰った後、辞書でその意味を調べてメモ帳にメモしていました。また予習に関しても、次の授業で学びそうな教科書の範囲の単語を事前に調べてメモしていました。そのメモ帳は通学時のバスの中などで毎朝読んでいました。言語を学ぶにあたって1番重要なのは「単語」なので、できるだけ多くの単語を覚えたほうがいいです。

【日常生活について】

「ホームステイの生活様式について」

メキシコのホームステイはスペインのホームステイとは異なり、ご飯が出ません。基本自炊か外食になります。なので、ホームステイの場所によっては、ホームステイ先の方々と話す機会がほぼないような家もあります。また、メキシコに限るのかもしれませんが、不便な面が多いです。自分の部屋ではWifiが使えない、シャワーの水が出ない、出ても水しか出ない、トイレが流れない、ドライヤーを使わせてもらえない、などといった事が多くあります。そういうことがあった場合、家を変えることが可能ですが、ほぼ、どの家も不便な点が何かしらあると思ったほうがいいです。

「他国留学生のつながり（友人関係）について」

メキシコの語学学校には、様々な国から学生が来ます。私は特に韓国人、アメリカ人、リトアニア人と仲良くなっていつも一緒にいました。毎週金曜日はクラスのみみんなでバーやディスコに行ったり、週末はメキシコ人と一緒にサッカーをしていました。とても充実した毎日を過ごすことができました。日本に帰ってからも連絡を取り合っています。留学先では、できるだけ多くの外国人と友達になるのがいいと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は長期研修を通して多くのことを学びました。特に感じたことは「周りのことを気にしない」ということです。日本人は周りの目を気にしすぎていることが多いです。授業でも分からないことがあったとき、周りの目を気にして質問しないことが多いです。しかし外国人は、少しでもわからないことがあったらすぐに質問をします。発言するときも日本人は「間違えたらどうしよう。恥ずかしい」などということが多くあります。外国人は1つのお題に対しても永遠に話す勢いで話し続けます。周りを気にしすぎるせいで自分の知りたいこと、感じたことを知ろうとしないのは、自分のためにもならないし、もったいないと思います。なので、私はもっと自分に自信をもって生きていこうと思いました。今後の学生生活では、主に自分の国についてもっと勉強したいと思います。また、スペイン語を話す機会を増やそうと思います。進路については、将来はスペイン語を使った仕事がしたいと思っていますが、まだ決めかねているので、進路を明確にするために大学の就職課に行こうと思います。

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：私立東京成徳大学深谷高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 メキシコ長期留学参加（メキシコ国立自治大学）

【研修参加の動機について】

私の父がペルー人で、小さい頃からラテンアメリカについての話をよく聞いていて、いつか行ってみたいという想いを長年抱いていました。こういう事情もあり、大学進学前から軽い日常会話程度にはスペイン語がはなすことができましたが、だんだんともう少しスペイン語をちゃんと話せるようになりたい、もっとラテンアメリカの文化を知りたいと言う中で留学先にメキシコを選んだのは、アステカ・マヤなどの先住民の文化や遺産がたくさん残っており、また UNAM(メキシコ国立自治大学)などの大学機関などもちゃんと整っているの、自分が今までの人生の中で経験したことないことができるかもしれないと思い、留学を決意しました。個人的に留学前にやっておいてよかったことは、ロメロ先生の語学サロンです。お昼休みの時間を使って、授業では意外にも練習する時間が少ない会話の練習などができます。留学した際に、外国の学生さんからよく聞かれる質問も練習できておすすめです。

【研修生活について】

私が基本的に過ごしたのは、首都であるメキシコシティ、近郊にある銀の名産地ゲレーロ州・タスコの2箇所ですがどちらも標高 2000 メートル近くで、昼間はあったかいですが夜や朝早くは上着がないと寒くて少しつらいですが、比較的毎日似たような天気なので、とても過ごしやすいと思います。ただ、私が到着した8月初旬から10月中旬まで雨季だったので、毎日激しい夕立が降るのが当たり前でした。雨が降ると、肌寒くなるのでパーカーなどシャツの上に着れるパーカーなどを持っていくことをおすすめします。メキシコの人々を見ていて、ここが日本と違うと思った点は積極的に知らない人とも会話をすることです。日本では電車に乗っているときに知らない人同士が会話をするシーンはなかなかないと思いますが、メキシコでは電車内が混雑しているときにドア付近に私が立っていると、「次の駅で降りるの？」と話しかけられたり、一度しかありませんが、知らないおじさんに時間を聞かれたこともあります。日本だと、時間ぐらい自分でどうにか確認しますし、降りたそうにしている人を見かけたら空気を読んで、降りられるようにするものですが、メキシコではそのようなことでは降りられないので、「次の駅で降りますか？」と質問することによって遠回しに「降りたい」ことを伝えなきゃいけないので、その点は小さいようで大きく違う点だと思います。それが結果的に愛情や親愛の気持ちを伝えるために、ハグやキスをすることにもつながっているのではないかなと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

UNAM 内の外国人向けの学習機関、CEPE(Centro de Enseñanza Para Extranjeros)でスペイン語をレベル(0~8)別に勉強していきますが、文法・語彙はもちろんのこと、クラスのみんなでディスカッションを行ったり、メキシコ文化の体験など、机に向かう以外の学習も充実していて、これは日本では絶対できないと言う体験がたくさんできました。みんな授業内で気になることがあったら、すぐに質問するので理解も含みますし、自分へのプレッシャーにもなり、日本では理解できないことがあってもあまり質問をしませんでしたが、留学の終盤ではかなりできるようになり、自分の中の世界を大きく広げることができました。

帰国してからずっとこのような貴重な体験ができたことをとても嬉しく思いますし、このような素晴らしい機会を実現できるよう協力していただいた観光会社の皆様、拓殖大学国際課の皆様、そして私の家族に感謝しかありません。このような貴重な留学が今後の私の大学生活や将来につながっていけるよう、改めて生活していく次第です。

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：静岡県沼津市立沼津高校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 メキシコ長期研修参加(メキシコ国立自治大学)

【研修先の街や国について】

はじめの2か月はタスコという町に住みます。
タスコは観光スポットでもあるため街並みがきれいです。
坂が多く道が狭いので、車に気を付けてください。
残りの5か月はメキシコシティでの生活になります。
メキシコシティは栄えていて多くの人があります。
タスコに比べて治安が悪いので十分注意を払ってください。
メキシコシティでは友人が多くできます。
様々な文化の違いがあり、はじめは大変です。
日本では見ることのできない美しい景色がたくさんあるので、楽しめると思います。

【ホームステイ先について】

タスコ、メキシコシティにつき次第各自ホームステイ先に移動します。
タスコではそれぞれの家が近く簡易に集まることができます。
家によってはお風呂やテレビに制限があったりもします。
メキシコシティの家の方が狭いですが、住みやすさは勝っています。
メキシコシティではそれぞれの家が離れています。
集まるにはメトロもしくはバスが必須です。
食事は各自ですが、だしてくれる家もあります。
洗濯は洗濯機を貸してくれる家もあります。
家の近くに洗濯してくれる店があります。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

長期研修に行き、改めて今まで生きてきた世界が小さい事を知りました。
日本人の特徴である、意志が弱い、意見がない事もとても感じました。
その空気に触れ私達は何事の考え自分の意見を持つことが習慣づきました。
これはこれからの学生生活だけでなく将来につながります。
メキシコで働いている日本人にたくさん会い、メキシコで働くという選択肢が明確になりました。
スペイン語能力の上昇も当然ですが、人間としても大きく成長できたと思います。

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：宮城県立名取北高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 メキシコ長期研修参加（メキシコ国立自治大学）

【研修参加の動機について】

私は将来中南米を中心に活躍するバイヤーになりたいと考えていたため大学に入学する前から、メキシコへの長期留学を考えていました。また、近年メキシコは日系企業が多く日本人の方がメキシコでスペイン語を学ぶ方は多いです。研修へは2年生がおすすめです。大学の先生方のおすすめの時期も2年生です。大学の長期研修は8月からですが、1年生の後期にテストがあり、1年生の頃の成績がとても重視されるので入学してからすぐにスペイン語をしっかり学び始めたほうがいいと思います。

履修に関してはメキシコに留学に行く方はメキシコ人の先生の授業をとったほうがいいと思います。また2年生になるとラテンアメリカに関する文化が学べる授業があるのでお勧めです。

授業でしっかり学ぶことはもちろんとても大切ですが、それ以上に自習勉強が一番大事だと思います。この研修に参加した人たちは目標をもって周りに負けないように常に勉強をしている人が多いです。文法を学ぶことも大切ですが個人的には、単語をたくさん覚えておくのほうがいいと思います。

【研修生活について】

研修先の授業はそれぞれの個人のレベルに合わせて行われます。メキシコ留学では最初の2か月間タスコという小さな町で授業が行われますが、他の外国人学生がいないので日本人だけの授業です。しかしメキシコシティに行くとなん千の外国人の方がいます。同じレベルの人たちと授業をしますが、とてもレベルの高い人が多いです。授業は日本と比べるととても早く終わります。なので、授業後は課題やテキストの予習、復習と授業で習った単語の確認をしていました。また、先生によってはプリントなどを配ってくれる方がいるので、そのプリントを使って勉強していました。メキシコシティでは午前の授業と文法の授業の他に自分で選ぶことができる授業があります。その中には建築や歴史、音楽など文化について学べる授業があります。さらにとっても人気なのがダンスの授業です。メキシコではダンスがとても有名なので多くの学生がダンスの授業をとっています。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は今回の研修が自身の将来の基盤をつくり、自分になりたいものへの道を作り上げてくれました。研修を通して何のために言語や異文化について学んでいるのかを明確にし、さらに知らない土地で知らない人と学ぶことによって日本で学ぶよりも高度で実用的な勉強をすることができました。毎日家族や友人とスペイン語での会話やコミュニケーションをとっていたので言語力はもちろん、コミュニケーション能力や環境に適応する能力を得ることができました。これらの経験は確実に私が将来目指している職業に役立つと思います。研修で得た能力を活用し、今後は自分のレベルがどれくらい上がったのかを知るためにスペイン語の資格試験に挑戦したいです。また、今年東京オリンピックが開催されるので、ボランティアとして参加したくさんの外国の方とコミュニケーションをとって自身の能力を試していきたいです。

私は昔から中南米の地域の伝統衣装や伝統品に興味があり、将来はアパレル関係のバイヤーになり、スペイン語を使って日本と中南米の地域間で活躍したいと思っていました。なので、今後はスペイン語の勉強はもちろんバイヤーになるため勉強もしていきたいと思っています。また、時間や機会があればメキシコ以外の国に行き伝統文化や言語をさらに学びたいです。

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：都立羽村高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 メキシコ長期研修参加（メキシコ国立自治大学）

【研修参加の動機について】

私は中学生の時にウルグアイ出身の講師の方と出会い、世界で行われている児童労働について知り、ウルグアイの公用語がスペイン語であったことから、スペイン語学科に入学しました。SAMの授業でメキシコへ留学していた先輩方からメキシコでの児童労働について聞き、自分の目でその実態を見て、現地の人と話をしたい、現地の子供たちから話を聞いてみたいという思いからメキシコへの留学を決意しました。メキシコは治安が悪いと言われていたため両親も初めは反対していましたが、拓殖大学にはメキシコへ留学することができる長期プログラムがあると知り過去に何度もメキシコへ留学生を送っていることから、両親も快諾してくれました。

留学前にやっておいた方がよいこと：1年次に西語文化講座、2年次にアメリカスペイン語研究の授業を取ることで留学前にメキシコの文化やメキシコ独特の言い回しをあらかじめ学ぶことができたことはとても良かったと思っています。留学前に、動詞の活用を完璧にしておくことと授業中に文を読む時に時制の理解にもつまづくことなどが少なくなると思います。メキシコでスペイン語を学ぶ上で苦労したことはスペイン語の文法用語です。以前スペインで利用していた文法用語の一覧を授業中使っていたのですが、スペインとメキシコでは表現が異なるため理解するのに時間がかかりました。日本にいる間に自らでしっかりと調べて一覧などを作っておくと文法の授業でもスムーズに理解することができ何度も調べる必要がなくなりかなり便利だと思います。

【日常生活について】

タスコではキッチンとリビングルームは共同で、トイレとお風呂は借りている部屋についていました。家族はリビングルームで過ごすことが多かったため、自然と会話の機会を得ることができました。食事ほぼ毎日一緒に取っていたためメキシコの料理や果物、野菜などを教えてもらうことができました。授業は大抵14時に終わるので、授業後はスポーツをしに行ったり家族と過ごしたりして夜に課題などをやることが多かったです。シティではキッチンとトイレ、お風呂が共同でした。自炊をしていましたが、キッチンが日本と似た様式だったため戸惑うことが少なかったです。ホームステイ先の方とはお仕事の関係で会話の機会を多く取ることができませんでしたが、必要なことはWhatsAppというLINEのようなアプリケーションを利用して連絡を取っていました。シティには大きなバスターミナルや空港があるのでタスコにいた時よりも簡単に旅行に行くことができました。旅行に行くことでまた違った文化などにも触れることができとても良い経験になりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通してスペイン語運用能力の向上は勿論、異文化に触れることができました。メキシコでスペイン語を学ぶことで語彙力やコミュニケーション能力など今の自分に足りていない部分に気づくことができました。残りの学生生活でよりスペイン語運用能力を向上させ、異文化を理解し教養を身に付け、入学時に掲げていた真の国際人になるという目標を達成するために留学を通して学んだことを生かし日々精進したいと思います。

将来は、自らのスペイン語運用能力とメキシコでの経験を生かして発展途上国などの貧困に苦しむ子供たちの教育に携わりたいと考えています。

所属：外国語学部 スペイン語学科 2年
出身：静岡県立島田高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 メキシコ長期研修参加（メキシコ国立自治大学）

【研修生活について】

タスコ、シティどちらともクラス分けテストを行い自分のレベルに合った授業を受けることができ、そのレベルから自分の興味のある授業を選択できます。一学期が二か月で区切られており、休み期間に入る前に文法や会話、読解などのテストがあります。次のレベルに上がるために必要な **Español** という授業ではリスニング、読解、筆記のテストをパソコンを使って行います。それに加えて口答試験があります。基本は二人ペアで行います。選択する授業、先生によって課題や使う教材が異なりますが基本的にレベルで分けられているので難易度に差はないと感じました。授業を選択してからも期間内であれば変更することができるので最初は自分が気になる授業を一度とってみるのが良いのではないかと思います。予習、復習については教科書や授業内で配られたプリントを完璧にするのが自分のスペイン語力を上げるため、テストで失敗しないために必要だと感じました。

【日常生活について】

留学期間中の7か月間はタスコ、シティ共にホームステイをします。基本、一家庭に学生1人で生活します。食事は自炊もしくは外食で自分で用意する必要があります。ホームステイ先のキッチンや食材の保存のために冷蔵庫の一部を貸してもらうことができます。ホームステイ先によってルールは異なりますが改善してほしいところがある場合はホームステイ先の家族に改善策を提案することも必要だと思います。生活する上での注意事項として、いざというときのために連絡先の交換をし、帰宅が遅くなる場合はホストファミリーに連絡した方が良いです。

私達のグループは放課後に学校の近くや学校の中のスポーツができる場所で過ごしていました。現地の人と試合をしながら交流できたのでスポーツが苦手な私ですが行って良かったと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

7か月間の留学を終えて思うことは、実際の留学生活はとても短いということです。留学に行く前は半年以上の期間というのはとても長い期間であると思っていましたが特に3か月を過ぎてからはとても早く時間が流れていると感じました。現地では毎日の生活が新しいこととの出会い、発見、学びの連続でした。スペイン語に関する発見や学びはもちろん、日本にいたら気づかなかったこと、人の考えを知ること、日本では挑戦できなかったであろうことに挑戦できたと感じています。元々、人見知りでわからないことを人に尋ねることが苦手な私はそれをスペイン語を使ってしなければならなかったため最初のうちは苦労しました。自分にとっては日本にいる時でも難しく感じるのでメキシコではさらにハードルが高くなったように感じました。海外では自己の主張が日本よりも必要であり、自分で考え質問すること、現地の人と積極的に交流することはスペイン語を磨くためには必要不可欠だと思い一度勇気を出しました。その一度の勇気を出してから人に尋ねること、自分のスペイン語を会話で使うこと、試すことへの抵抗が減りました。そして語学の面では日本で勉強していたとき、メキシコに着いたばかりのときより会話の中で相手に聞き返すことが確実に減っていると実感しました。留学前は会話と文法が課題だと思っていました。それは現在も変わりませんが自分にもっと必要なのは圧倒的に語彙力であると途中で気がつきました。留学に行ったからと自分の今の言語能力に満足せず新しい課題を克服するためにより一層の努力をしようと思います。私はこのプログラムに参加して良かったと感じています。今回長期留学に参加したこと、メキシコで七か月過ごしたことを今後の生活や進路に活かしていきたいと思えます。

Ⅱ. 交換留学プログラム (2019 年度派遣・参考)

| | |
|-------|--|
| 目 的 | <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先大学における専門分野の学習に対応できる語学を習得する。 ・語学力を向上させるとともに、提携校同士の学生交換によって相互の学術と教育の交流を図る。 |
| 出願資格 | <ul style="list-style-type: none"> ・学部 1～3 年生、大学院 1 年生 (在留資格「留学」の留学生は対象外とする) ・成績評価値 GPA3.0 以上 (ただし、2.5 以上でも出願可の場合がある) 他 |
| 学 費 | ・派遣先の学費免除 (派遣・受入をした大学が相互に学費を負担する) |
| 奨 学 金 | <ul style="list-style-type: none"> ・本学より月額 4 万円を支給 (寮費や食費免除等がある場合は対象外) ※ JASSO (独立行政法人日本学生支援機構) の海外留学支援制度に採択された場合は JASSO 奨学金が支給される (本学奨学金からは除外) 奨学金額: 月額 8 万円 (アメリカ・スペイン)、月額 7 万円 (韓国・インドネシア・タイ・フィリピン)、月額 6 万円 (中国・台湾・エジプト) |

| | | | | |
|-------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------|--|
| 研修先 提携校名 | アメリカ | アメリカ | 中国 | 中国 |
| | セントラル・ワシントン大学 | メリーランド大学ボルティモア郡校 | 北方工業大学 | 上海交通大学 |
| 人 数 | 1 名 | 1 名 | 1 名 | 1 名 |
| 期 間 | 9 月 - 6 月 (1 年) | 8 月 - 5 月 (1 年) | 9 月 - 6 月 (1 年) | 9 月 - 6 月 (1 年) |
| 使用言語 | 英語 | 英語 | 中国語 | 中国語、英語 |
| 出願語学要件 | TOEFL iBT71 点以上または IELTS6.0 以上 | TOEFL iBT80 点以上または IELTS6.5 以上 | 中国語検定試験 3 級以上または HSK4 級以上 | HSK5 級または 6 級のスコアが 180 点以上、英語授業希望者は IELTS6.0 または TOEFL iBT90 点以上 |

| | | | | |
|-------------|--|---------------------------|---------------------------|--|
| 研修先 提携校名 | 中国 | 台湾 | 台湾 | 台湾 |
| | 天津外国語大学 | 東呉大学 | 長栄大学 | 開南大学 |
| 人 数 | 1 名 | 1 名 | 1 名 | 1 名 |
| 期 間 | 2 月 - (半年または 1 年) 9 月 - (半年または 1 年) | 9 月 - 6 月 (1 年) | 9 月 - 6 月 (1 年) | 9 月 - 7 月 (1 年) |
| 使用言語 | 中国語 | 中国語 | 中国語 | 中国語、英語 |
| 出願語学要件 | 中国語検定試験 3 級以上または HSK4 級以上 | 中国語検定試験 3 級以上または HSK4 級以上 | 中国語検定試験 3 級以上または HSK4 級以上 | 中国語検定試験 3 級以上または HSK4 級以上 英語授業希望者は TOEFL iBT60/TOEIC650/IELTS5.0 以上 |

| | | | | |
|-------------|--|--|---------------------------------|-----------------------|
| 研修先 提携校名 | 韓国 | 韓国 | スペイン | インドネシア |
| | 慶熙大学校 | 大邱大学校 | サラマンカ大学 | ダルマプルサダ大学 |
| 人 数 | 2 名 | 3 名 | 1 名 | 1 名 |
| 期 間 | 3 月 - (半年または 1 年) | 3 月 - (半年または 1 年) 9 月 - (半年または 1 年) | 2 月 - (半年) 9 月 - (半年または 1 年) | 9 月 - 7 月 (1 年) |
| 使用言語 | 韓国語、英語 | 韓国語 | スペイン語 | インドネシア語 |
| 出願語学要件 | 韓国語能力試験 TOPIK3 級以上またはハングル能力検定試験 3 級、英語授業希望者は TOEFL iBT82 点 / IELTS6.5 / TOEIC730 点以上 | 韓国語能力試験 TOPIK I またはハングル能力検定試験 4 級以上合格 | スペイン語技能検定 4 級または DELE B1 以上合格 | インドネシア語技能検定試験 D 級以上合格 |

| | | | | |
|-------------|---|---|-------------------|--|
| 研修先 提携校名 | タイ | フィリピン | エジプト | |
| | コンケン大学 | フィリピン大学 | カイロ大学 | |
| 人 数 | 1 名 | 1 名 | 1 名 | |
| 期 間 | 8 月 - 5 月 (1 年) | 8 月 - 5 月 (1 年) | 9 月 - 8 月 (1 年) | |
| 使用言語 | タイ語、英語 | 英語、フィリピン語 | アラビア語 | |
| 出願語学要件 | 実用タイ語検定試験 3 級以上合格 英語授業希望者は、英語の語学検定試験スコアが必要 | TOEFL iTP500 点 (iBT61 点) または IELTS6.0 フィリピン語コース希望者も語学要件は同様 | 実用アラビア語検定 5 級以上合格 | |

サラマンカ大学日本語ティーチングアシスタントプログラム

| | |
|--------|---|
| 内 容 | <ul style="list-style-type: none"> ・週 4 時間日本語教師のアシスタントを務める。 ・学部専門科目の履修。 ・スペイン語インテンシブコースの無料受講。 |
| 出願資格 | <ul style="list-style-type: none"> ・学部 1～3 年生、大学院 1 年生で日本国籍を有する者 ・成績評価値 GPA3.0 以上 (ただし、2.5 以上でも出願可の場合がある) 他 |
| 奨 学 金 | <ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の寮費・食費免除 ・JASSO (独立行政法人日本学生支援機構) の海外留学支援制度に採択された場合は JASSO 奨学金 (月額 8 万円) が支給される |
| 人 数 | 1 名 |
| 期 間 | 2 月 - (半年)、9 月 - (半年または 1 年) |
| 出願語学要件 | スペイン語技能検定 4 級または DELE B1 以上合格 |

※出願資格を満たしていても進級、卒業要件に抵触する場合は出願を受け付けられないこともあります。

所属：国際学部 国際学科 3年
出身：静岡県立静岡西高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.3 交換留学派遣（韓国・慶熙大学校）

【寮の生活について】

慶熙大学では、数多くの学科があります。交換留学生も他の学生と同じように1つの学科に所属しますが、国交位交換学生として所属するため、どの学科の授業も受ける事ができます。私は、文化観光コンテンツ学科に所属していましたが、言語のことも学びたいと思い、他の学科の授業も取っていました。受けていた授業の中で、日本に関連する授業をとっていました。日本人にも関わらず日本に関連する授業をとっていて、韓国の学生にずるいとよく言われていましたが、韓国語で受ける授業は意外と難しいものです。また、韓国の学生と受けることで日本のことを教えてあげることもでき、会話に繋がるのでとても会話の力になります。韓国語でどのように教えればいいのかという勉強にもなりました。日本に興味がある韓国の学生が多いので友達を作るきっかけ作りにもなります。

韓国の授業は、ほぼといっていいほど、どの授業にも発表があります。発表は、グループで発表するものと個人で発表するものがあります。私はどちらも経験しました。グループ発表では、韓国人2人、中国人1人、私の4人で日本旅行の計画を発表をしました。個人発表では、授業で扱うテーマをあらかじめ学生に割り振り、学生が自分なりにまとめて発表するものでした。この発表をもとに授業を進めていくのでとてもプレッシャーがかかった発表でした。私は、人前に出て話をするに対して緊張するタイプではありませんが、この時の発表はとても緊張したことを鮮明に覚えています。

【寮の生活について】

慶熙大学では、2つの学生寮があり、一つは韓国人学生専用の寮。二つ目は留学生と韓国の学生が共同で生活するセファウオン寮です。私たちは、セファウオン寮で生活します。開門は午前5時、閉門は午前1時です。毎月1回の点呼があり、学生が部屋にいるか、部屋が清潔に維持されているかを確認します。点呼時にいないと減点されます。階ごとに男女分かれており、お互いの出入りは禁止となっています。全部屋2人部屋となっています。もし、初めて会う方や国籍が違うルームメイトであれば、部屋の中でのルールをあらかじめ作ることをお勧めします。お互い心地よく過ごすために必要なことだと思います。寮の中には、売店、洗濯室、トレーニング室、自習室、寮を管理する管理室、寮をまとめている行政室があります。部屋の中で壊れたものがあつたり、不便だと感じる事があつたりした場合、管理室か行政室に行けば解決します。管理室は、寮を出入りする際必ず通るのですが、管理室にいるおじさんはいつも明るく挨拶を返してくれます。1階に学生が集まるロビーがあるのですが、そこにいと様々な国籍の学生に出会います。75の国と協定を結んでいるため、様々な学生との出会いがありました。寮での生活で規則が多いですが、その中で生活することは自主性、協調性が身につく、良い経験材料となりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私がこの研修を通して得たことは、話を聞く時の態度と理解力です。言語自体の理解力はもちろんだが、相手の意図を汲みとる力がついたと感じます。また、講義を聞いている時や友達と会話している時、常に相手の話の顔を向ける習慣ができました。これらは、私自身の拙い言語力で一生懸命感じ取ろうとした結果で得たものと言えます。相手の話を目を見て聞くということは相手の信頼を得ることにもつながると考えます。この術を社会に出た時も忘れず、進路を決めるときの武器にできたらと思います。

所属：国際学部 国際学科 3年

出身：私立麻布大学附属高等学校出身

2017.4 拓殖大学入学

2019.3 交換留学派遣（韓国・慶熙大校）

【研修生活について】

私は韓国 慶熙大学の政経学部政治外交学科に在籍し 10 か月間、現地の学生と一緒に勉強しました。交換留学生は自分が在籍する学部の授業に限らずほぼ全学部の授業を受けることが出来たため私も政治の授業だけでなく歴史や文化の授業、観光の授業、作文の授業など色々な授業を受けました。専門用語を多く使い、外国語で受ける授業ということもあり予習復習は欠かせず、最初は授業内容を聞き取ることに必死で授業を聞くだけでも体力を使い大変でしたが、慣れるようになれば聞き取りも授業の内容理解もできるようになります。

予習は欠かさず行っていました。休みの日や、授業の前日に授業で勉強する内容を一回一通り読みながら、分からない単語などがあれば翻訳し最後にもう一度内容の理解を含め読むという方法で予習を行っていました。復習は授業内で理解できなかったことがあれば授業で勉強した内容を読み直しおさらいを行うようにし、試験前は試験勉強を兼ねて復習を行いました。また、試験とは別にグループ発表や個人発表、レポート課題が多いです。私が受けた授業の中でも 4 つの授業でグループ発表、個人発表を行い、レポート課題が多く大変でしたが、とても良い経験になりました。どの授業も関心のある分野だったため楽しく学べました。また、現地で授業を受けることにより、実際に現地の教授や学生の意見を直接聞くことが出来るため、日本で学ぶより具体的でより正確な内容を学べると思います。

【日常生活について】

私は学生寮で生活をしていました。学生寮は 2 人 1 部屋でベッド、机、タンス、お風呂、トイレ、冷蔵庫、Wi-Fi が設置されています。布団も支給してもらえます。お風呂とトイレが一緒になっていたため最初は使う時、戸惑いましたが慣れました。また試験期間前になると毎回トーストとジュースが間食として配布され試験期間の楽しみでした。週末はカフェ巡りやご飯を食べに行ったり、部屋でゆっくりしたり、勉強したり、買い物に行ったり、アイドルに会いに行くなどして過ごしました。IFCC という留学生のためのサークルのようなものへの参加を通し、韓国人や他国の留学生と交流しました。MT という地方に行き遊び、BBQ をして仲を深めるという行事や、ハンガンでピクニックをするなどの行事に参加しました。また IFCC を通して知り合ったオンニ（お姉さん）達と週末に出かけたり、授業後や授業の合間にご飯を食べに行ったりカフェに行ったりしました。お金の管理はチェックカードを作りカードで支払いをしていました。韓国ではカード支払いがほとんどのお店で可能で 10 円のものでもカードで支払うことが出来ます。携帯の通信は韓国で SIM カードを契約しました。学校でも寮でも電車の中でも Wi-Fi が使えたので通信に困ることはあまりありませんでした。食事の面では寮に電子レンジとトースター以外の調理家電や器具がなかったためほとんど外食で済ませました。外食の費用も高くなく、何より学校の周辺に美味しいご飯屋さんや沢山あったため飽きずにいろいろな料理を毎日楽しんでいました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は今回の留学を通してまず、第一に語学力が身に付きました。日常的に韓国語を使わなければならない状況に置かれていたため日常会話はもちろん、専攻授業や教養授業を受けていたため、専門用語だけでなく学問の専門知識も身に付いたのではないのかなと思います。また、韓国人や他国の留学生と交流していく中で積極性や自分の意志をはっきり伝えるなど性格の面でも学ぶことが多く、自分にどういった部分が欠けているのか、どういった部分を伸ばしていけば良いのかなどについても考えさせられました。今回の留学を通して自分を見つめ直す良い機会になりました。また、将来は韓国語を使った職に就きたいと思っています。

所属：商学部 国際ビジネス学科 3年
出身：埼玉県立坂戸高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.3 交換留学派遣（韓国・大邱大学校）

【大邱について】

大邱について、紹介したいと思います。大邱は第三の都市と言われ、ソウル、プサンの次に当たります。交通面は、ソウルへは ktx を使い 約 2 時間、釜山へは汽車に乗り 1 時間ほどで着きます。大邱は盆地のため、韓国の中で 1 番暑い地域で有名です。私が留学していた大邱大学は、大邱市ではなく、慶山市に位置しているため、大邱市内へはバスか地下鉄を使い 1 時間ほどかかります。大邱市内は、人も多く、おしゃれなお店も、美味しい飲食店も、沢山あります。そして、最近はカフェが有名で、おしゃれでインスタ映えなカフェで溢れています。観光地も沢山あり、西門市場、キム・グァンソク通り、東城路等々、見どころも沢山あり楽しめると思います。大邱は、方言があり、強い言い方でぶっきらぼうだと言われることが多いですが、優しい人が多く、親切な人も多いので、怖がらずに沢山出かけることをお勧めします。

【学校生活について】

大邱大学はとても大きく、自然が沢山ある大学です。慣れるまでは、何がどこにあるのか、迷うこともあると思いますが、生活しているうちに慣れます。学食は 3 ヶ所あり、飲食店もあります。パン屋さんや、カフェ、売店や眼鏡屋さん、ケータイ会社や薬局もあり、小さいですが、施設はとても充実しています。ジムは使いたい放題で、プールもゴルフ場もあるので、運動したい人にとってはとてもいい所だと思います。

寮は国際館というところで、各国から来た留学生と一緒にです。一階には管理室とコンピューター室、キッチンがあり、4 階には電子レンジがあります。部屋は 1 人部屋と 2 人部屋があります。トイレとシャワーは一緒です。

授業は、主に語学堂での 50 分 4 時間授業で、クラスにより午前と午後に分けられます。最初にレベル分けのテストと面接をし、それぞれに合ったクラスに分けられます。10 週間の 4 学期制で、5 週間に 1 回試験があります。私が 1 番大変だったのは、「話し」のテストでした。与えられたお題から自分で原稿を書き、暗記して、発表。5、6 級のクラスでは、韓国語で ppt を制作しての発表でした。準備は少し大変でしたが、楽しさもあり、とても良い経験になりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私がこの留学生活で得たことは、韓国語はもちろんのこと、たくさんの経験、かけがえのない友人達です。地方なので、日本語を話せる方はほとんどいないため、韓国語常に聞くことができ、授業も全て韓国語なので、語学力はとても伸びたと思います。また、留学に行くまで実家暮らしだった私は、初めての一人暮らしでした。何もかも全て自分で言い、生活する事は戸惑う事もありましたが、改めて親の有難味を知ることが出来ました。また、色々な国の人達と一緒に授業することで各国の友人もでき、沢山の事を知ることが出来ました。韓国人の友達も、サークル活動や、学園祭を通して知り合うことができ、お互いに勉強を教えあったり、文化交流をしたり、美味しいお店を教えてもらったりと、とてもいい時間を過ごすことができました。留学が終わっても、この関係は変わらないので、この沢山の友人との縁が、留学を通して得たことで 1 番かけがえのないものです。

韓国が好きで、韓国語が好きな私は、これからも韓国語を勉強し続け、将来は韓国語を使う職に就けたらいいなと考えています。

所属：外国語学部 英米語学科 4年

出身：都立福生高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.9 交換留学派遣（アメリカ・セントラルワシントン大学）

【研修参加の動機について】

今回私が交換留学に参加した理由は大きく分けて三つあります。まず一つは英語の本場で様々な英語が学習できることです。他のプログラムや他の地域でも母語として使われていますが、特に世界基準になりつつある米国式の英語を学習できるのはとても有意義なことだと思います。それに加えて、周知の通りアメリカには多民族国家としての一面もあります。白人と黒人だけでなく、ヨーロッパ、アジア、南米系移民など様々な人種、そしてそれぞれの文化が一つの大国を作り上げているのです。多様性が広がるほど、その地域で使われる言語も多様、そして複雑になると私は思います。日本とは相対する民族と言語の関係性はとても魅力的に感じました。二つ目は、他のプログラムとは違い、現地の学生と一緒に専門知識を勉強できることです。交換留学で英語の授業を取ることは無く、政治や経済などの一般科目を履修します。時間が限られているので程度は限られますが、言語以外の教養を身につけるにはうってつけのプログラムだと思います。また道具としての英語が文脈、授業によってどのような形や意味で使われるのかは個人的にとても興味深かったです。三つ目は交換留学が最難関のプログラムという事です。成績と言語資格の要求は高いかもしれませんが、それだけの意味はあると思いますし、それを目標にすることで効率的な学習目標が建てられると思います。私は単純にどうせやるからには一番難しいものを、と思い挑戦しました。

【研修国/地域の紹介について】

アメリカと日本を比べれば違いはいくらでも出てきますが、私個人が一番大きく感じた違いは日本人とアメリカ人の考え方、俗にいう集団主義と個人主義と呼ばれるものです。ものを考えたり、行動するときに軸を個人に置くのか集団に置くかの違いです。この文章を読んでいて他国の文化に興味、関心があるなら、様々な授業で嫌というほど聞かされた話かもしれません。それぞれいい面、悪い面があるのでどちらが優れているというわけでもないですが、実際に観察してみると面白い発見がありました。一つは「群れ」が無いことです。大学生というのも関係しているかもしれませんが、日本で見ると五、六人やそれ以上の集団が行動していることは無く、グループであっても二、三人がほとんどでした。気を使わない、本当に心の許せる友達だけを選んで見えています。もう一つは恥のとらえ方です。よくアメリカ人は積極的で、自分の意見を持っていると言われますが、私は恥など、集団としての意識が関係しているのと思います。確かに授業中に手を挙げて発言する生徒はたくさんいましたが、全く参加していない生徒も少なからず見受けられました。私は彼らのグループ意識の低さがこの積極性を生み出している様に見えました。ハロウィンでもないのに着ぐるみや可笑しい帽子を身につけている生徒もいました。私たち日本人が無意識のうちに感じている同調圧力や集団としての規範がアメリカではそこまで重要ではないのかもしれませんが、もちろんこの考えは言語のやり取りにも表れていて、日本では察して分かる事もアメリカではすべてはっきり述べる必要があると感じました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

得たことはもちろん専攻である語学力の向上と、留学を通して成長した考え方や精神面です。特に後者は数字で測ることは出来ませんが、私自身は大きく成長、変化したと感じています。四年生となり、学生として残された時間は僅かしかありませんが少しでも有意義に時間を使えるように意識したいです。進路に関してはまだ未定ですが、研修で培った人間力や向上心はどんな仕事でも発揮できると思いますし、将来振り返って留学出来て良かったと思えるように頑張りたいと思います。

所属：外国語学部 中国語学科 3年
出身：新潟県立十日町高等学校
2017.4 拓殖大学入学
2019.9 交換留学派遣（中国・北方工業大学）

【授業について】

留学生はレベル別に5クラスに分かれて授業を行います。私は5班に配属されました。5班の授業内容は読み書き、リスニング、精読、ビジネス中国語、言語実践です。読み書き、リスニング、ビジネス中国語は週に2コマ、精読は週に3コマ、言語実践は週に1コマで合計10コマあります。5班はほとんどが日本人と韓国人で、中国語を話すよりも読み書きの方が得意な学生が多かったためか、スピーキング能力を向上させることに重きを置いて授業をしている印象を受けました。そのため、どの授業でもプレゼンテーションなど前に出て発表する機会が多かったです。交換留学生は1月から2月後半まで約1カ月半の冬休みがあります。私はその期間に、拓殖大学の長期留学生が受けるHSK対策の講座に参加しました。学費は2000円で、授業内容はHSKの5級～6級の対策です。拓大生のみということもあり緊張感はありませんでしたが、発言しやすい雰囲気で良かったと思います。

【生活について】

私は9月から1月までの間は紅葉公寓、1月から2月は国際教育センターに住んでいました。どちらも学校内にある寮です。紅葉公寓は少し古めの施設でしたがその分寮費は安く、国際教育センターは比較的綺麗ですが紅葉公寓よりも寮費が高かったです。初めに住む寮は北方工業大学側であらかじめ決められていました。寮の契約は1月までで、その後は自分の住みたい寮に引っ越すことが出来ました。どちらの寮も2人部屋で、ルームメイトがいました。初めのルームメイトはウズベキスタン、引っ越した後はロシアの方でした。生活習慣が違うため、お互い慣れるまでは大変でしたが、良い経験になったと思います。

北方工業大学は学校内の設備が充実していると感じました。特に食堂の数が多く、それぞれの食堂で売っている物が違うので飽きが来づらいところが良かったです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は今回の研修を通して文化の違いを受け入れることの大切さを学びました。上の項目でも少し触れましたが、ルームメイトと一緒に生活しているときに特にこのことを感じました。生活習慣や考え方が異なることから、最初は不便に思うことも多かったです。しかし、話し合いを重ねるうちに互いの考えを理解し、だんだんと双方にとって心地よい空間を作ることができるようになりました。文化が違うからと言って理解することを諦めず、受け入れ、尊重することが人間関係を築く上で重要なことであると改めて気づきました。今後の学校生活でも、違う価値観を受け入れて尊重することを心掛けたいです。

就活では、旅行会社を中心に受ける予定です。留学の経験を生かして、日中双方に互いの国の魅力を伝えられるような仕事に携わりたいと考えています。

所属：外国語学部 中国語学科 3年

出身：私立武蔵野高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.9 交換留学派遣（中国・上海交通大学）

【研修参加の動機について】

僕の初めの頃の動機はただ高校の時から留学生活に憧れを思っており、それが北京短期留学を通して自分の語学力をもっと向上させたい、将来自分のキャリアに繋げていきたいと気持ちがさらに強まっていき、大学1年の時から上海交通大学に留学することを目標に勉強していました。また、なぜ上海交通大学にしたかというより難しい所にチャレンジしたい気持ちと、経済発展が著しい上海を見てみたいと思ったからです。

上海交通大学に行くおすすめの学年はやはり3年生だと思います。3年生になる前までに、中国語検定2級の資格を準備しておかなければならないので、計画的に資格受験をした方がいいと思います。またHSKは5級以上あると留学時に結構役立つと思います。

【研修生活について】

留学では、1年生から4年生までの授業やコース選ぶことが出来ます。僕は主に3年生の授業を履修し、ビジネス文化や歴史、作文、文学の授業を選びました。比較的どの授業も難しい感じがし進むペースがとにかく速いと初めの内は感じますが、次第と慣れていきます。さらに毎回かならず予習、復習、課題が出るので、図書館やカフェで勉強していました。また、授業で辛かったことは、小説を読むことや感想文を書くこと、漢文の暗唱と言ったことです。他に作文の授業でも大変でしたが、書く能力が格段に上がるので交通大に留学するようなら、履修することをお勧めで、HSK5、6級の勉強にもなります。また授業を通して様々な風習や社会文化などの知識も身につけられるなど実感します。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

コロナの影響で約5か月間の留学になってしまったが、それでもある程度語学の向上、特に書く能力や表現が身につくことが出来たと思います。トラブルや問題も多くあったのですが、留学では自分でどうにかしないと行けないので解決能力が付きます。また、留学中に様々な国の学生とかかわることで、それぞれの文化や習慣、考え方、価値観など視野が広くなり理解する力が付きます。これは日本にいたら本当に体験することのできなかつたことだったと思います。さらに、外に出ることで日本を客観的に見ることができ、日本のよさを知ることができたことも良かったです。そして、今後は留学で学んだものを忘れずに、まずはHSK6級取得に向けて勉強したいと思います。4年でもあるので、留学中に参加したインターンや説明会などをもとに、中国語を活かされるよう、就活をしていきたいと思っています。

所属：外国語学部 中国語学科 2年
出身：都立千早高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 交換留学派遣（中国・天津外国語大学）

【研修生活について】

まず、天津に着いたら学校へ向かいます。学校へ向かったら寮の手続きをします。私は夕方ごろに学校に着いたのですがその時も様々な国のたくさんの人が手続きをしていました。そのタイミングで入学手続きも出来るのですが五時までです。寮は学校でもらった入学手続きの紙を見せれば手続きをしてくれます。その際寮費を支払うのですが一ヶ月ごとに払う方法もしくは一学期分まとめてはらう方法がありました。またその支払いは現金のみでした。しかしこの事は事前に知らされていなく、また額が額だったので私の前に並んでいた多くの人が一度銀行に向かいました。部屋は選ぶことができるので少し早く行った方がいいと思います。私は入りたい部屋がなかったので空き部屋にしてもらいました。その際ルームメイトは何人がいいかを希望を出すことが出来ますがその要望は通らないです。結果的に日本人でした。次の日、入学手続きをしました。入学手続きは先生やアシスタントの人がいるのでスムーズに出来ます。その際予定表をもらったのでその予定通りに行動します。学校が始まる前にプレースメントがありその結果をみて自分はどこに行くかを先生と相談して決めます。クラスは初級一、二、三、準中級、一、二、三、四、準高級、一、二と十一のクラスに分かれています。学校が始まって最初の一週間は体験授業ができるのでどのクラスの授業にも出ることが出来ます。また最初の一週間の間に選択授業を志望したい人は管理研究棟みたいなどろに行きどの授業をしたいかを先生に伝えます。授業のレベルは他のクラスの基準は分からないのですが自分がいた準高級は HSK 四級もしくは五級レベルです。授業は教科書と板書の授業でした。また一コマ五十分で休憩十分でした。毎日宿題を出されます。また教科書を読むことが多いので読めるようにしときます。授業は宿題をやっていたらついていけます。選択授業は PPT をメインに日本で学ぶよりその道の深いことをやりました。

【日常生活について】

寮での生活は二人一部屋で何人と一緒になるか分かりません。相手の言語力によっては意思疎通が難しい場合もあります。寮の手続きをする時に寮での決まりを示した紙を渡されます。寮のシーツは 2 週間に一度新しいのを渡されるので自分で変えます。またその際部屋チェックをされます。学校が始まって最初の月の半ばにサークル勧誘と歓迎会みたいなのが開かれサークルに入りたい人はこのタイミングで入りたいサークルの所へ行き申請します。自分はバスケットボールサークルに入ったので周三回のサークル活動をしました。また十月半ばに学部対抗バスケットボール大会があります。自分は日本語学部の一員として参加しました。結果は優勝できました。他にも様々なイベントがあります。例えば留学生限定の出し物会や日本人限定の天津外国語大学の日本語学科の人との交流会が月に二回あります。サークルがない日は天津の色々な所へいけます。また国慶節などの長い休みは中国の色々な場所へいけます。その際色々な予約は全部自分でやるのでかなり大変です。他国留学生とは授業を通して仲良くなる事が出来ます。また友達を通して知り合い多くの人と関わることが出来ます。お金関係は日本と全く違いほとんど全てと言っていいほど携帯決済です。自分は最初の寮のお金を含めて五回くらいしか現金を使いませんでした。お金関係はほぼ全て携帯があれば問題ないです。店によっては現金拒否のお店もありました。しかしたまに現金のみの場所もあるのである程度は持っておいた方がいいと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して私は言語力以外にも文化や考え方が少し分かった気がします。少し期間が短いと思いました。やっとわかり始めた所で留学が終わってしまったので少し残念です。しかし今後の学生生活への影響としてはとてもプラスな影響だと思います。また機会があればもう一度行きたいと考えています。

所属：外国語学部 中国語学科 3年
出身：神奈川県立座間高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.9 交換留学派遣（台湾・東呉大学）

【研修参加の動機について】

私が台湾へ交換留学を試みようと思った理由は大きく分けて二つあります。一つ目は、私が台湾と日本のハーフで、台湾を日本と同じくらい身近に感じていたからです。小さいころから母の実家へ帰っていた私からしてみれば、他の国へ留学へ行くことに比べればかなりハードルが低かったと思います。それでも私は入学当初、留学に対しては消極的に考えていました。そんな私が留学に行こうと考え始めた理由が二つ目の理由です。二つ目の理由は、サークルに入ってきた留学生の存在です。一年生の後期、私の所属するサークルに台湾からの留学生が入ってきました。その子たちと仲良くなった私は、少しずつ留学へと前向きに考えていくようになっていました。

私が思う、研修に行くのにおすすめだと思う学年は二年生の時です。理由としては、第一に就活にあまり影響が出ないことです。完全に出ないとは言いませんが、致命的な遅れなどにはなりにくいのかなと思います。そして、二年生という比較的早い段階で現地に行くことによって、言語能力やモチベーション、そしてコミュニケーション能力が大きく上がると思います。二年生で行く場合、選考に使われる成績は一年生の時からのものになります。入学してすぐに好成绩を収めていかなければならず、中検も早いうちに三級を取らないといけないのが難点ですが、それさえクリアしてしまえば得るものはとても大きいので検討してみる価値は十分にあるかと思います。もし、まだ留学に行くか行かないかで悩んでいる人も行くことを前提にして授業などを頑張っていけば、もし気が変わった時などもそのまますぐに留学を目指すことができるのでまずは行くか行かないかにかかわらず行ける水準までは頑張っておくことをお勧めします。

【日常生活について】

寮での生活はとても快適でした。寮でのルールと言えば、男子が女子の部屋に入らない（逆もまた然り）ことや、共同キッチンでの使用方法（使い終わったらしっかり洗う、他の人が使っているときは待つ等）等くらいで基本的には門限が決められているわけでもなくのびのびと生活をすることができました。友達と夜市や買い物へ行ったり、泊りがけで出かけたりなど自由でした。寮には学生のアシスタントさんも住んでいて、困った時などには助けてくれるので非常事態の時なども安心できます。また、寮の中でイベントが定期的開催されているので寮の中でも友人ができやすいうえに、他の国からきている留学生の子たちとも交流を深めることができます。他国の子たちや学生アシスタントたちとは中国語を使って会話するので、日常的な中国語能力を高めることができます。

台湾では食事がとても美味しいうえに物価がとても安いのでたくさん観光することができます。3000元あれば、一ヶ月分の食事や遊びはすべて賄えると思います。夜市やスーパー、市場など場所によって安いものが変わってくるのでそのあたりをしっかりと考えながら生活すればお金に困ることはまずないかと思われま

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

コミュニケーション能力はかなり上がったと思います。その他にも外国での文化の違いなどによる生活の難しさや、日本との違いを実感しました。学生生活への影響は、コロナの影響もあってまだ実感できていませんが発音などの上達が見られると思っています。進路についても、一回現地に行ったことによって日本だけでなく台湾での就職も考えるようになりました。むしろ、今では台湾での就職がしてみたいとまで思っています。

| |
|----------------------------|
| 所属：外国語学部 中国語学科 4年 |
| 出身：都立鷺宮高等学校 |
| 2017.4 拓殖大学入学 |
| 2018.3 上海春季研修参加 |
| 2018.8 中国長期研修参加（中国・北方工業大学） |
| 2019.9 交換留学派遣（台湾・開南大学） |

【研修参加の動機について】

2年次に北京へ留学したので次は台湾に行ってみようと思いました。北京留学で思ったよりも中国語のレベルが上がったので交換留学に参加できるのではないかとと思いました。1年の時友人に交換留学の説明会に行こうと言われてついて行きましたが本当に実現するとは思っていませんでした。

台湾留学の特徴は繁体字で台湾訛りの中国語を勉強できることだと思います。各地方のアクセントを勉強するのは中国語を勉強する楽しみの一つでもあると思います。私は簡体字しか勉強したことがなかったのですが実際に現地に行ったら時間とともに繁体字には慣れました。台湾では台湾語も話されているので台湾語を勉強しに行くのもありだと思います。

私が履修した授業の中で注音符号を書かせるテストがあったり、大学のパソコンを使う際は注音符号で打てないと苦労するので（パソコンの設定で変えられますが）、拓殖大学で開講されている「台湾語」の授業を履修することをおすすめします。

【日常生活について】

台湾はサッカーが人気ではないと聞いていましたが、どうやら調べるとサッカーチームがいろんなところにあつて私は時間がある時に桃園のフットサルチームに参加していました。基本みんな良い人だったので週に1、2回のフットサルが私の中での楽しみでした。所属していたチームには日本が好きな台湾人もいて、日本代表のユニフォームを着ている人も何人かいました。台北の方まで行くと参加費はかかりますがサッカーチームやフットサルチームがたくさんあるので興味がある方はぜひ調べてみてください。

留学中は観光というよりも勉強していました。帰国後の中検準一級を目指していたので授業の課題以外の時間は中検の勉強に充てていました。大学の図書館の閉館時間が21時30分だったので放課後は基本図書館が閉まるまで勉強していました。図書館を利用する学生が少なくもったいないと感じましたが、落ち着いた環境で広々と使えたので満足しています。土日は図書館空いていないので大学のカフェテリアで勉強していました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

卒業後は台湾か中国の大学院進学を希望しています。入学の条件としてHSK6級180点以上としているところが多いので今はHSKの勉強をしています。

留学途中での早期帰国ですが本来の目標である中検準一級の取得と大学院進学に向けての準備をしっかり進めていきたいと思っています。